

学 校 運 営

運営報告	9
教務委員会	9
学生委員会	1 9
学寮委員会	2 1
専攻科	2 4
人文科学部門	2 8
自然科学部門	3 0
機械工学科	3 2
電気情報工学科	3 4
電子制御工学科	3 6
建設システム工学科	3 8
図書館	4 1
情報科学センター	4 3
教育研究支援センター	4 6
地域共同テクノセンター	4 8
社会基盤メンテナンス教育センター（iMe c）	5 2
国際交流センター	5 4
知的財産委員会	5 5
生命倫理委員会	5 6
情報セキュリティ推進委員会	5 7
評価委員会	5 8
資料部会	5 9
広報委員会	6 0
進路指導委員会	6 1
学生相談室	6 3
修学支援室	6 5
入試広報部会	6 6
留学生委員会	6 9
FD・ICT部会	7 1
交通対策検討委員会	7 3
安全衛生委員会	7 4
緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ	7 5
男女共同参画室	7 8
入学前ICT教育WG	8 0
施設マネジメント委員会	8 1
いじめ対策委員会	8 2
数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討WG	8 3

教学 I R 準備WG	8 5
舞鶴高専ジュニアドクター育成塾	8 6
K O S E N 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築	8 8
学科・部門別教員一覧	8 9
教職員数	1 0 3
学校行事日程	1 0 4

教 務 委 員 会

教務主事 川田 昌克

1. 教務委員会の構成と役割分担

前年度と同様、教務主事、副主事、各学科・部門から教務主事補1名の他、原則、学科長・部門長および学生課長と学生課課長補佐が委員として所属し、教務関係担当職員が事務手続き業務に当たっている。令和4年度の人員構成と役割分担および事務手続き担当職員は表1のとおりである。

表1 役割分担

役 職	氏名	所属	主たる役割分担	備考
主 事	川田昌克	S	総括	
副主事	加登文学	C	委員長代行、専攻科との連携、ポートフォリオ教育の実施	専攻科長
主事補	室巻孝郎	M	出欠確認システム、成績評価資料の保管、達成度評価、HP 部会との連携	
	丹下 裕	E	入試広報部会との連携	進路指導部会長
	石川一平	S	学年暦、試験時間割	専攻科 MS コース長
	渡部昌弘	C	海外研修旅行、インターンシップ	
	山根秀介	人文	修学支援、再試験、オープンキャンパス	
	宝利 剛	自然	学生カルテ、Web シラバス・MCC、CBT、FD・ICT 部会および資料部会との連携、IR を用いた教学マネジメント	FD・ICT 部会長 資料部会長
委 員	西山 等	M	M 科取りまとめ・調整、達成度評価	機械工学科長
	内海淳志	E	E 科取りまとめ・調整、IR を用いた教学マネジメント	電気情報工学科長
	野間正泰	S	S 科取りまとめ・調整	電子制御工学科長
	尾上亮介	C	C 科取りまとめ・調整	建設システム工学科長
	藤田憲司	人文	人文科学部門取りまとめ・調整、学力不振者対策、英語教育、国際交流、留学生支援	人文科学部門長 2 年学年主任
	上杉智子	自然	自然科学部門取りまとめ・調整、学生カルテ、学力不振者対策	自然科学部門長 1 年学年主任
	奥村昌司	自然	評価委員会との連携、CBT、入学前 ICT 教育	評価委員長 入学前 ICT 教育 WG 長
	下元利之	事務		学生課長
	大和健治	事務		学生課教務係長

M：機械工学科，E：電気情報工学科，S：電子制御工学科，C：建設システム工学科，
人文：人文科学部門，自然：自然科学部門

2. 新型コロナウイルス感染症の対応について

2.1 学年閉鎖に伴う遠隔授業

令和4年度は、コロナがまん延したときには、いきなり学校閉鎖をするのではなく、まずは学年閉鎖や学級閉鎖を行うという方針で運営した。結果として、令和5年度は、学年閉鎖を2回ほど行い、その間、遠隔授業を実施した。実施期間や対象学年を表2に示す。

1年生に関しては、前期期末試験期間の直前であったため、7月28日（木）・29日（金）を試験勉強のための授業補講日とし、8月1日（月）～4日（木）の4日間で前期期末試験を実施した。また、新型コロナウイルス感染症にかかわる前期期末試験の公欠者も一定数いたため、これらの学生を対象とした追試験を8月18日（木）から適宜、実施した。

表 2 学年閉鎖（遠隔授業）を実施した期間

対象学年	期間
2 年	4 月 18 日（月）～ 4 月 22 日（金）の 5 日間
1 年	7 月 18 日（月）～ 7 月 22 日（金）の 5 日間

2.2 授業時間

通常時であれば、90 分授業が基本であるが、学寮での密にならない食事や入浴の時間を確保し、かつ、通学生のパスの運行時間を考慮して、年度当初は 80 分短縮授業とした。前期中間試験後は、学寮での食事や入浴の時間を見直しすることで、授業時間を 5 分間、延長し、85 分短縮授業に移行した。

表 3 時間割

	85 分短縮授業	80 分短縮授業	90 分授業
SHR	8:40	8:40	8:40
1・2 時限目	8:50～10:15	8:50～10:10	8:50～10:20
3・4 時限目	10:25～11:50	10:20～11:40	10:30～12:00
昼休み	11:50～13:10	11:40～13:15	12:00～12:55
5・6 時限目	13:10～14:35	13:15～14:35	12:55～14:25
7・8 時限目	14:40～16:05	14:45～16:05	14:35～16:05

2.3 教室開放

令和 3 年度に引き続き、学生の授業時間外での学習場所を確保するため、平日は 19 時 30 分まで、土日祝日は 16 時 30 分まで HR 教室、図書館 1 階を開放した。また、定期試験 2 週間前からは曜日によらず 20 時 30 分まで開放した。

2.4 研修旅行

コロナ前に実施していた 4 年生海外研修旅行を、令和 2 年度および令和 3 年度は中止した。令和 4 年度については、表 4 に示すように、行き先を国内に変更し、令和 4 年 10 月 4 日（火）～7 日（金）の期間に 3 泊 4 日で実施した。

表 4 4 年研修旅行

学科	主な行き先
機械工学科	三菱重工業、DMG 森精機、兵神装備、中部大学、ナガシマスパーランドなど
電気情報工学科	ANA、チームラボ、国際福祉機器展、日本科学未来館、スカイツリー、JAXA、鎌倉散策など
電子制御工学科	ハウステンボス、軍艦島、太宰府天満宮、九州工業大学、マツダミュージアムなど
建設システム工学科	国立西洋美術館、国立研究開発法人建築研究所、地図と測量の科学館、土木研究所、スカイツリーなど

3. 令和 4 年度の主な取り組み

3.1 ジェネリックスキル測定テスト「PROG」の導入

PROG とは河合塾とリアセックが共同開発したジェネリックスキルの成長を支援するプログラムであり、いくつかの高専ですでに導入されている。「リテラシー」と「コンピテンシー」の 2 つの観点から学生の能力を測定し（7 段階で判定）、自分自身の強みや弱みを客観的に把握することができるという特徴がある。令和 3 年度、試行的に 3 年生 1 クラス、4 年生 1 クラス、専攻科生 1 クラスが受験をし、結果解説会を受講した結果、受験者からは高評価（受験後のアンケート）であった。そのため、令和 4 年度からは、2 年生と 4 年生の 2 学年で本格的に導入し、該当者全員が受験することとなった。また、PROG を受験するための費用は、後援会に半額程度を負担していただくこととなった。

実施日等は以下の通りである。

表5 PROGの実施スケジュール

対象	テスト実施日	結果解説会実施日
4年生	令和4年 4月29日(金, 祝日) 令和4年 5月2日(月)	令和4年 6月7日(火)
2年生	令和4年 9月26日(月) 令和4年 10月3日(月)	令和4年 11月1日(火)
教員	—	令和5年 3月15日(水)

PROGにより得られることが期待される効果を以下に示す。

- 言語処理能力(国語力)、非言語処理能力(図やグラフを読み解く力)といった「リテラシー」だけでなく、対人基礎力(親和力・協働力・統率力)、対自己基礎力(感情制御力・自信創出力・行動維持力)、対課題基礎力(課題発見力・計画立案力・実践力)といった「コンピテンシー」のスキルを計測することができる。2学年で実施することにより、低学年時に足りないと感じた能力が、高学年時にどれだけスキルが向上しているのかを、学生自身や教員が数値的に知ることができる。
- 本校では、各学科を中心に、PBL(問題解決型学習)を取り入れている。また、多くの学生が学寮で共同生活を送っているという特徴がある。これらの教育が「コンピテンシー」のスキルの向上に効果的であるかを検証することができる。
- 学生や教員は、事後に90分程度の結果解説会を受講する。それにより、学生が自身の長所や短所を知るだけでなく、それをどう活かすか、足りないところをどう伸ばすかのヒントを得ることができ、今後の進路活動に役立てることができる。また、教員は他校との比較結果により、自校の長所や短所を知り、今後のカリキュラム構築や学校運営に役立てることができる。

3.2 本科入学試験

3.2.1 WEB出願

令和5年度本科入学試験よりWEB出願を導入した。入力方法などを示した動画を本校ホームページで公開し、志願者の入力作業がスムーズにいくように工夫した。大きなトラブルもなく、入試業務を進めることができた。

3.2.2 特別選抜〔地域創生型〕の出願資格の一部変更

令和5年度本科入学試験より表6のように特別選抜〔地域創生型〕の出願資格を一部変更した。

表6 特別選抜〔地域創生型〕の出願資格の一部変更

令和5年度入試	令和4年度入試
北近畿およびその周辺地域、あるいは志願者の出身地域に根ざした活動を通じ…	北近畿およびその周辺地域に根ざした活動を通じ…

3.2.3 「追加合格制度」の導入

令和5年度本科入学試験より「追加合格制度」を導入した。この制度により、合格発表後に何らかの理由で入学辞退者が生じて入学定員に満たない学科が生じた場合、学力検査選抜で合格とならなかった者に対して、該当学科の追加合格を行うことができるようにした。

3.2.4 「提携高専による追選考制度」の導入

少子化や私立高校実質無償化などの影響を受け、今後、本校の志願者確保がますます厳しくなることが予想され、欠員が生じることも想定される。その場合、二次募集を行うことなく、志願者を確保する制度として、令和5年度本科入学試験より「提携高専による追選考制度」を導入した。

本制度の概要を以下に示す。

【制度の概要】

「提携高専による追選考制度」とは、本校と提携する高等専門学校(以下「提携高専」という。)において、入学定員に欠員が生じた学科がある場合、本校の学力検査選抜で合格とならなかった者を対象として追選考を行う制度です。

この制度では、高専への入学を強く希望する受験生が、新たに試験を受けることなく、申し込み手続きを行うことにより、提携高専において追選考を受けることができます。

追選考を希望する場合には、学力検査選抜の結果及び出願時に本校に提出された調査書を含む個人情報を提携高専に提供して評価を行います。

この制度により学生募集を行う場合は、本校及び提携高専のホームページにてお知らせします。

令和5年度本科入学試験では、和歌山高専と提携をしており、今後、他の高専との提携を目指す。

3.3 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の申請準備

文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」が令和3年度から始まり、国立高専機構では早期の全校の認定を目指している。本校では令和5年度のリテラシーレベルでの申請をするために、準備を進めてきた。令和4年度は、対象科目のWEBシラバスにリテラシーレベルで修得すべき内容を明記し、表7に示す各科目で実践した。

表7 リテラシーレベルに関する対象科目

学科	対象科目
機械工学科	情報処理Ⅰ（1年）、情報処理Ⅱ（2年）、計測工学演習（3年）、数値計算演習（4年）
電気情報工学科	情報基礎（1年）、プログラミング実習（3年）
電子制御工学科	情報基礎（1年）、制御工学実験（5年）
建設システム工学科	情報リテラシー（1年）、測量実習（2年）、建設システム工学実験ⅠA・ⅠB（3年）

3.4 「国立高等専門学校間単位互換」制度

本校からは2年生5名、4年生1名が他高専の提供科目をそれぞれ1科目ずつ履修した。履修した科目は一般科目（「物理」、「異文化社会論」）、専門科目（「流通と情報」、「アルゴリズムとデータ構造」、「環境アセスメント」）と多岐に渡っている。本校では十分に学ぶことができないために履修した、同じような内容の科目が他高専でどのように教えられているのかに興味があつて履修した、など履修した理由もさまざまであった。なお、本校では、自由科目の扱いとしているため、本制度で修得した単位を卒業単位数に含めることはできない。

一方で、本校からは森 健太郎教員（電気情報工学科）が担当する「映像メディア工学」（電気情報工学科5年開設科目）を提供した。6名の履修希望者のうち、募集人員である3名を選抜し、後期にオンデマンドで遠隔授業を実施した。

3.5 質保証6項目

表8 質保証6項目

項目	担当
① ポートフォリオ教育の実施	室巻・加登
② 実験スキル計測の実施	渡部・内海
③ 分野横断的能力の育成の実施	石川・室巻
④ データ（CBTなど）に裏付けされた教育改善の実施	—
⑤ ピアサポーター育成の実施	岡田・児玉・山根
⑥ 学生情報の集約および共有の実施	宝利・山根

高専機構では、表8に示す高専教育の質保証6項目を第4期中（令和1～5年度）に達成することを目指している。令和4年度からは「④ データ（CBTなど）に裏付けされた教育改善の実施」が「教学マネジメント」に移行した。これに伴い、令和4年7月に教学IR準備WG（座長：加登文学教務副主事）を設置し、令和5年度は教学IR室として様々なデータ収集と解析を行っていくこととなった。

④以外の進捗状況は以下のとおりである。

- ①については、令和4年5月10日（火）に1年生を対象とした学修ポートフォリオ説明会を実施し、定期試験後の特活の時間に、「リフレクションシート（振り返りシート）」の記入を行い、各自のSharePoint上の各自のフォルダに保存した。また、中学校で実施している「キャリアパスポート」についても、必要に応じて電子化して各自のフォルダに保存することにした。

- ②については、年次進行で「実験スキル評価シート」の作成を行っており、令和4年度は5年生までの準備を終えた。
- ③については、3.1で説明したように、本科2年生と4年生がジェネリックスキル測定テスト「PROG」を受験した。受験後、各学生や教員は、結果解説会を受講し、現状分析と今後の課題を把握した。
- ④については、数学・物理・化学のCBT (Computer Based Testing) および専門（電気回路）のCBT トライアルを実施した。また、実施結果を分析してフィードバックしている。
- ⑤については、令和4年度、本科1・2年生を対象とした放課後教室を実施し、専攻科生4名をTAとしてのべ8回配置した。また、児玉教員、山根教員がピアサポーター講習を総合演習（2年生）で実施した。
- ⑥については、学生カルテの作成および成績等の学生情報の共有を行っている。また、令和5年度から学生カルテの共有をSharePointで行う予定である。

4. 教務関係の学事日程

令和4年度の教務関係の学事日程を表9にまとめる。

表9 令和4年度の教務関係の学事日程

4月 5日 (火)	始業式, ガイダンス
4月 6日 (水)	前期授業開始
4月 18日 (月) ～ 4月 22日 (金)	学年閉鎖と遠隔授業 (2年生)
4月 29日 (金・祝日)	授業日 PROG の実施 (4M・4E)
5月 2日 (月)	PROG の実施 (4S・4C)
5月 6日 (金)	休校 (4月 29日の振替)
5月 30日 (月)	特別授業
6月 1日 (水) ～ 6月 7日 (火)	前期中間試験
6月 7日 (火)	PROG の結果解説会 (4年生)
7月 18日 (月・祝日)	授業日
7月 18日 (月・祝日) ～ 7月 22日 (金)	学年閉鎖と遠隔授業 (1年生)
7月 27日 (水)	特別授業
7月 28日 (木) ～ 7月 29日 (金)	1年生補講日
7月 28日 (木) ～ 8月 3日 (水)	前期期末試験 (2～5年生)
8月 1日 (月) ～ 8月 4日 (木)	前期期末試験 (1年生)
8月 4日 (木) ～ 9月 9日 (金)	夏季休業 (2～5年生)
8月 5日 (金) ～ 9月 9日 (金)	夏季休業 (1年生)
8月 6日 (土) ～ 8月 7日 (日)	オープンキャンパス
8月 25日 (木)	本科3年次編入学試験
9月 12日 (月)	後期授業開始, 特別授業
9月 12日 (月) ～ 9月 14日 (水)	前期到達度確認
9月 15日 (木)	後期授業開始
9月 26日 (月)	PROG の実施 (2年生)
10月 3日 (月)	
10月 4日 (火) ～ 10月 7日 (金)	国内研修旅行 (4年生)
10月 19日 (水)	午前: 英語デー, 午後: 特別授業 (補講日)
11月 1日 (火)	月曜日の授業 PROG の結果解説会 (2年生)
11月 16日 (水)	特別授業
11月 17日 (木) ～ 11月 24日 (木)	後期中間試験
12月 5日 (月)・12月 6日 (火)	CBT [数学D] の実施 (2年生)
12月 8日 (木)・12月 9日 (金)	

12月16日(金)	午前：金曜日午前の授業 午後：キャリアセミナー準備 CBT〔化学C〕の実施(1年生)
12月20日(火) 12月22日(木)	CBT〔数学E〕の実施(3年生)
12月23日(金)	午前：金曜日午後の授業 午後：入試準備 CBT〔物理C〕の実施(2年生)
12月24日(土)	本科入学試験(特別選抜〔地域創生型〕)
12月24日(土)～1月9日(月・祝日)	冬季休業
1月7日(土)	本科入学試験(特別選抜〔一般推薦型〕)
1月10日(火)	特別授業
1月18日(水)	CBT〔電気回路〕の実施(3E)
1月21日(土)	本科入学試験(特別選抜〔一般推薦型〕追試験)
1月26日(木)	気象悪化に伴う臨時休校
2月1日(水)・2月2日(木)	臨時休校の代替処置のための特別時間割
2月3日(金)～2月9日(木)	後期期末試験
2月10日(金)	特別授業
2月12日(日)	本科入学試験(学力検査選抜)
2月13日(月)	臨時休業
2月14日(火)～2月16日(木)	後期到達度確認
2月17日(金)	春季休業開始
2月26日(日)	本科入学試験(学力検査選抜追試験)
2月28日(火)	卒業判定
3月3日(金)	進級判定
3月6日(月)～3月16日(木)	2号再試験期間
3月15日(水)	PROGの結果解説会(教員対象)

5. 教務委員会での協議事項

令和3年度の教務委員会での協議事項および報告事項の抜粋を表10にまとめる。

表10 教務委員会での協議事項(抜粋)

第1回教務委員会 令和4年 4月1日(金)	(1) 今年度の役割分担について (2) 今年度の検討課題について (3) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の転科生の取り扱いについて (4) 学力検査選抜試験後のアンケートの実施について (5) 令和4年度前期の高専間提供科目について (6) 特別選抜の出願資格について (7) 質保証6項目に関する報告資料について (8) 第6回質保証勉強会のワークでの情報共有について (9) 第3ブロックAL推進研究会について (10) 成績評価資料の提出状況について (11) 通信環境に関するアンケートについて (12) 遠隔授業の対応準備について (13) PROGの実施について (14) 出欠確認システムなどの運用について (15) Web シラバスの運用について (16) CBT レビュー担当について
-----------------------------	--

第2回教務委員会 令和4年 4月20日(水)	(1) 令和5年度編入学試験について (2) 和歌山高専との追選考の実施について (3) 高専模試の実施について (4) 科目再履修の免除について (5) 国立高等専門学校間単位互換について (6) PROGの実施日程(4年生および2年生)について (7) 教育の質保証の確立に向けた教学マネジメント導入・実施について (8) 質保証6項目について ポートフォリオ教育の実施 (9) 成績評価資料の電子化について (10) 研修旅行の実施について (11) 編入学生等に対する補習を要する授業科目の措置について (12) 学則別表の改正について
第3回教務委員会 令和4年 4月22日(金)	原級留置によりカリキュラムが変更となった学生の科目再履修免除について
第4回教務委員会 令和4年 5月17日(火)	科目再履修免除の承認について
第5回教務委員会 令和4年 5月24日(火)	(1) 和歌山高専との追選考の実施について (2) 「不正行為の防止について」の文面の修正について (3) 国立高等専門学校間単位互換について (4) デスクネットへの情報掲載について (5) 転入学に基準について (6) 教育の質保証の確立に向けた教学マネジメント導入・実施について (7) 到達度確認の実施について (8) 成績評価資料の電子化について (9) 質保証6項目について ポートフォリオ教育の実施 分野横断的能力の育成の実施(PROGの実施について) (10) 研修旅行の実施について (11) 第3ブロックAL推進研究会について (12) メルボルン大学英語教育実験について (13) 入学前ICT教育について (14) WEB出願の入力テストについて (15) 機構本部からのアンケートについて
第6回教務委員会 令和4年 6月7日(火)	(1) 前期中間試験の答案返却日について (2) 機構本部による国立高等専門学校間単位互換に関する説明会について
第7回教務委員会 令和4年 6月22日(水)	非常勤講師の任用について
第8回教務委員会 令和4年 7月5日(火)	(1) 国立高等専門学校間単位互換に係る提供科目について (2) 令和5年度本科学学生募集要項案について (3) 定期試験実施要領の改正について (4) 教学IR準備WGの設置について (5) 学生表彰について (6) 教室の冷房の故障について (7) 研修旅行の実施について (8) 到達度確認表の学生の回答状況について (9) 成績評価資料の電子化について

	(10) 電子版出席簿について (11) PROG のアンケート集計結果（4 年生）について (12) 実習服（電気情報工学科，建設システム工学科）の購入時期の検討について
第 9 回教務委員会 令和 4 年 7 月 15 日（金）	(1) 1 年生の学年閉鎖に係る遠隔授業について (2) 1 年生の前期期末試験について
第 10 回教務委員会 令和 4 年 7 月 20 日（水）	(1) 前期期末試験の追試験の方針について (2) 学生保護者向け通知文（対面授業再開）について (3) 学生の長期留学について (4) 定期試験の配慮依頼について (5) 前期期末試験前の補講日（1 年生）の活用について
第 11 回教務委員会 令和 4 年 8 月 3 日（水）	前期期末試験の追試験の日程調整の方針について
第 12 回教務委員会 令和 4 年 8 月 8 日（月）	(1) 前期期末試験の追試験の日程について (2) 国立高等専門学校間単位互換について (3) 研修旅行の実施について (4) PROG の実施日程（2 年生）について (5) 到達度確認表の学生の回答状況について (6) 電子版出席簿について (7) 質保証 6 項目について - ポートフォリオ教育の実施 - 実験スキル計測の実施 - 分野横断的能力の育成の実施 - 学生情報の集約および共有の実施
第 13 回教務委員会 令和 4 年 8 月 26 日（金）	(1) 「国立高等専門学校間単位互換に関する規程（案）」について (2) 令和 4 年度後期高専間提供科目の選定について
第 14 回教務委員会 令和 4 年 9 月 20 日（火）	(1) 国立高等専門学校間提供科目に係る履修願について (2) 国立高等専門学校間提供科目に係る履修受入れについて
第 15 回教務委員会 令和 4 年 9 月 28 日（水）	(1) SharePoint による学生カルテの運用について (2) 通年科目の前期期末の成績入力について (3) 5 年生の後期期末試験日程について (4) 「国立高等専門学校間単位互換に関する規程」について (5) 令和 6 年度入学試験の実施日程について (6) 「転入学希望者に対する審査取扱いに関する申合せ」について (7) 編入学生等に対する補習実施報告について (8) KOSEN フォーラムの報告について (9) 研修旅行の実施について (10) PROG の実施日程（2 年生）について (11) 成績評価資料の保管について (12) 新任教員研修会に伴う授業参観について (13) インターンシップ報告会の実施予定について (14) 編入学試験の検討事項について
第 16 回教務委員会 令和 4 年 11 月 4 日（金）	(1) 令和 5 年度学年暦について (2) 令和 6 年度以降の入学選抜の実施方針（方法）について (3) 科目名の変更について (4) 科目の前期・後期の入れ替えについて (5) モデルコアカリキュラムの改訂につて

	(6) PROG の実施報告（2 年生）と教員向け説明会の日程について (7) CBT の実施日程について (8) 出欠確認システムの更新について (9) 成績評価資料の提出状況について (10) 質保証 6 項目について ピアサポーター育成の実施 (11) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの申請について
第 17 回教務委員会 令和 4 年 11 月 17 日（木）	略
第 18 回教務委員会 令和 4 年 12 月 12 日（月）	(1) Web シラバスの入力計画について (2) 到達度確認について (3) ポートフォリオ教育の実施について (4) 留学にかかわる学生の公欠について (5) 令和 5 年度の時間割について (6) 国立高専間単位互換に関する規程等の改正について (7) 次期 LMS について (8) 1E の AL におけるイルミネーションの作成について (9) 質保証 6 項目について 分野横断的能力の育成の実施 ピアサポーター育成の実施
第 19 回教務委員会 令和 4 年 12 月 26 日（月）	(1) 「舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」の第 3 条ただし書き適用について (2) 令和 5 年度高専間提供科目について
第 20 回教務委員会 令和 5 年 1 月 25 日（水）	(1) 気象悪化に伴い臨時休校した日の代替授業について
第 21 回教務委員会 令和 5 年 1 月 27 日（金）	(1) インターンシップの単位認定について (2) 「学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」の一部改正について (3) 「国立高等専門学校間単位互換に関する規程」の一部改正について (4) 「知識・技能審査に係る単位認定に関する規程」の一部改正について (5) 非常勤講師の任用について (6) 次年度の LMS の運用について (7) 悪天候により登校できなかった学生の公欠について (8) 卒業研究の提出遅延について (9) 国立高専教育国際標準認定制度（KIS）について
第 22 回教務委員会 令和 5 年 2 月 3 日（金）	(1) 非常勤講師の任用について (2) 知識・技能審査に係る単位認定について (3) 高専間単位互換の成績について (4) 後期期末試験の追試験の実施について
第 23 回教務委員会 令和 5 年 2 月 9 日（木）	後期期末試験の追試験の時間割について
第 24 回教務委員会 令和 5 年 3 月 7 日（火）	(1) 学生の表彰および次年度以降の卒業証書授与式の答辞者の選定方法について (2) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関する対象科目の単位修得状況について (3) 試験にのぞむ心得の修正について (4) 定期試験に関わる通知文の修正について (5) 令和 5 年度の定期試験を行わない科目について

	(6) 令和5年度国立高等専門学校間単位互換に関する提供科目について (7) 非常勤講師の任用について (8) 令和5年度の出欠確認システムについて (9) 質保証6項目について - ポートフォリオ教育の実施について - 到達度確認の実施について (10) 2号再試験の実施スケジュールについて (11) 令和5年度の教室の配置について
--	---

学 生 委 員 会

学生主事 片山 英昭

令和4年度の学生委員会,並びに学生会・クラブの活動等は,コロナ禍の中では活動や取り組みが実施できた方である。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から,いくつかの取り組みおよび活動は縮小となったが,一昨年度に中止となった活動を再開することができた。実施された活動等は新型コロナウイルス感染症の感染予防を講じたものであった。

1. 新入生支援・指導

- 4月11日(月)12日(火) クラブ紹介
 4月11日(月)12日(火) 新入生研修
 いじめ防止仲間づくり・学びのすすめ講演会, PEER(認知行動療法)
 4月30日(土) 学生会新入生歓迎会:寮生会との合同開催
 5月16日(月)~31日(火) パートナリシップ:新型コロナウイルス対策のため教員前訪問

2. 登校指導・交通安全指導・禁煙指導

- 4月 5日(火)~11日(月) 登校指導
 4月13日(水)18日(月) 交通安全講習会
 5月 9日(月)~20日(金) 駐車指導
 9月12日(月)~22日(木) 登校・駐車指導
 10月11日(火)~14日(金) 禁煙巡回指導
 11月14日(月)~25日(金) 登校指導
 2月 3日(金)~16日(木) 登校指導
 4月 5日(火)~ (毎朝) 登校健康確認指導(健康調査確認, マスク着用指導)
 12月~ 2月 積雪時の駐車指導



3. 環境美化

- 6月 7日(火) 第1回環境美化清掃:中止➡屋内清掃
 8月 3日(水)4日(木) 第2回環境美化清掃
 11月24日(木) 第3回環境美化清掃
 2月 9日(木) 第4回環境美化清掃:中止➡教室清掃



4. 課外活動

<学生会>

- 6月 4日(土) 松尾寺駅周辺ボランティア清掃…定期試験中のため学生は参加できず
 7月29日(金) 学生総会:Web回答形式(学生会予算・決算の審議)
 9月17日(土) 松尾寺駅周辺ボランティア清掃
 10月 9日(日) 舞鶴赤れんがハーフマラソンのボランティア
 10月11日(火) 球技大会
 11月 3日(木) スポーツフェスタ
 11月 4日(金) 校長フリートーキング
 11月27日(日) 朝来地区総合防災訓練に防災士として参加
 11月28日(月) 学生総会(体育館にて2部制で実施)
 12月 1日(木) 松尾寺駅イルミネーションの点灯式

<クラブ活動>

- 4月 7日(木) クラブ顧問会議
 5月14日(土) 福井高専との交歓試合
 6月11日(土) Honda エコ マイレッジ チャレンジ
 6月11日(土) インターハイ府予選会(男子バレーボール部)



6月26日 (日)	近畿地区高等専門学校弓道大会 (本校開催：綾部弓道場)
7月 2日 (土) 3日 (日)	近畿地区高専体育大会テニス競技 (本校開催：東舞鶴公園)
7月 9日 (日) ～11日 (月)	近畿地区高専体育大会サッカー競技 (本校開催：伊佐津川運動公園)
7月15日 (金)	全国高等学校野球選手権京都大会
8月20日 (土) 21日 (日)	全国高専体育大会卓球競技 (高知市：女子シングルス)
	全国高専体育大会陸上競技 (松山市：女子3000m 1位, 女子800m 2位)
8月24日 (水) ～26日 (金)	全国高専将棋大会 (北九州市：個人戦ベスト8)
8月24日 (水) ～26日 (金)	全国高専体育大会テニス競技 (徳島市：男子シングルス, 男子ダブルス, 女子ダブルス)
8月25日 (木)	全国高専体育大会剣道競技 (徳島市：男子個人の部, 女子個人の部)
8月27日 (土) 28日 (日)	全国高専体育大会柔道競技 (高松市：女子57kg級 2位)
10月15日 (土) 16日 (日)	全国高等専門学校プログラミングコンテスト (高崎市：課題部門, 競技部門)
10月23日 (日)	全国高等専門学校ロボットコンテスト2022近畿地区大会 (橋本市)
11月 5日 (土) 6日 (日)	パソコン甲子園2022(会津若松市：プログラミング部門)
11月12日 (土) 13日 (日)	近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(奈良高専)
11月13日 (日)	全日本バレーボール高等学校選手権大会 京都府予選会(綾部市：男子)
12月10日 (土)	廃炉創造ロボコン(福島県双葉郡：優秀賞)
12月10日 (土) 11日 (日)	全国高等専門学校デザインコンペティション (有明市：構造部門優秀賞)
12月10日 (土)	京都府公立高校卓球大会決勝トーナメント (京都市：男子団体)
2月 4日 (土)	京都府高等学校バレーボール新人選手権大会(綾部市：男子)
3月11日 (土)	春ロボコン2022 (関西大会) (大東市：準優勝)
3月23日 (木) ～26日 (日)	全日本高専選手権バレーボール (西宮市：男子・女子)
3月24日 (金)	神戸・奈良・舞鶴弓道親善試合 (本校開催：綾部市)
3月30日 (木)	関西高専合同演奏会 (八尾市)

<高専祭関係>

10月27日 (木) 28日 (金)	高専祭準備, 前夜祭
10月29日 (土) 30日 (日)	本祭 (事前申込者に限定した一般公開)
10月31日 (月)	高専祭片付, 後夜祭…中止



5. 講演会

4月11日 (月)	ネット犯罪被害防止講演会 (1年生対象)
7月26日 (月) 27日 (火)	性被害者・性加害者とならないための講演会 (1年生対象)
5月16日 (月) 23日 (月)	メンタルヘルス講演会 (2年生対象)
7月 4日 (月)	消費者講演会 (3年生と4年生対象)
7月13日 (水)	薬物乱用防止講演会 (全学年対象)
11月28日 (月)	薬物乱用防止講演会 (3年生)

6. その他

6月13日 (月)	第1回いじめに関するアンケート(web形式：昨年度中止分も含めて実施)
6月14日 (火)	第1回中丹高等学校補導連絡協議会
9月	近畿地区高専学生主事連絡協議会・人権教育連絡協議会 (ネット回答)
9月14日 (水) 15日 (木)	全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修 (東京一橋講堂)
9月26日 (月)	第2回いじめに関するアンケート(Web形式)
10月 3日 (月)	避難訓練
10月11日 (火)	第2回中丹高等学校補導連絡協議会
11月 7日 (月)	第3回いじめに関するアンケート(Web形式)
1月16日 (月)	第4回いじめに関するアンケート(Web形式)
2月14日 (火)	第3回中丹高等学校補導連絡協議会：



学 寮 委 員 会

寮務主事 児玉 圭司

1. 学寮委員会の構成と役割分担

役割	担当者	担当業務
主事	児玉	
副主事	芦澤	
寮生会執行部会 (企画)	*木村 森, 岡下 (前期)	寮生会執行部会・企画委員会に対応。 イベント, 学寮清掃, オープンキャンパス実働。
寮生会 (生活)	*高木 馬越	寮生会生活委員会に対応 (給食検討委員会を除く)。 ペットボトル潰し, 洗濯場・風呂場の管理。
寮生会 (生活) 給食検討	*荻田 中尾	寮生会生活委員会業務の一部。 給食検討委員会, 栄養講座 (1年生対象)。
寮生会 (文化)	*荻田 岩木	寮生会文化報道委員会に対応。 「鶴友」発行, 学寮 HP コンテンツの維持管理。
寮生会 (車輛)	*毛利 船木, 小島	寮生会車輛委員会に対応。 車輛許可申請の受付, 無許可車輛・駐車違反の取締り, 自転車の整理等。
寮生会 (防災) 寮室点検 巡回指導	*豊田 村上, 田村, 大内	寮生会防災委員会に対応。 防災・防犯に関する企画。避難訓練・防犯講習会・AED 講習会の実施。各種巡回指導。
指導寮生会 + 点呼	*芦澤 清原, 森	指導寮生会の活動を担当。点呼方法の確立。 指導寮生会の会合出席など。
宿日直割当	*高木	宿日直割当を実施。
修学支援	*木村	修学支援室の業務に参画し, 学寮の窓口となる。
交換寮生	——	(R4 年度は不実施)
女子寮	*荻田, 芦澤 岩木, 岡下 (前期)	女子寮運営の支援。

*はチーフ責任者。

2. 学寮に関する主なスケジュール

4月 3日 (日) 新入生入寮・入寮式
 4月 3日 (日) ~ 4月15日 (金) 教員による全棟巡回・生活・自習指導
 4月 5日 (火), 6日 (水) 新入生対象外泊・欠食システム説明会
 4月15日 (金) ~ 4月22日 (金) 2年生臨時閉寮
 4月28日 (木) 第1回ペットボトル潰し
 4月中 フロアミーティング
 5月 1日 (日) 新入生歓迎会
 5月 8日 (日) 車輛持ち込み開始
 5月24日 (火) 第1回給食検討委員会
 5月26日 (木) 第2回ペットボトル潰し
 6月13日 (月), 16日 (木) 第1回寮室点検
 6月20日 (月) 栄養講座 (1~3年生対象)
 6月30日 (木) 第3回ペットボトル潰し
 7月15日 (金) ~ 7月22日 (金) 1年生臨時閉寮
 8月 3日 (水) 第4回ペットボトル潰し
 8月 5日 (金) 閉寮
 9月10日 (土), 11日 (日) 開寮
 9月11日 (日) 1年生部屋替え

10月21日（金），25日（火） 第2回寮室点検
 10月31日（月） 第5回ペットボトル潰し
 11月 8日（火） 第2回給食検討委員会
 11月27日（日） 「日本代表をみんなで応援しよう！」企画
 12月 8日（木） 寮生総会
 12月13日（火），12月14日（水） 第3回寮室点検
 12月11日（日） 寮生会クリスマスイベント
 12月13日（火）～12月15日（木） 入寮希望者説明会
 12月15日（木） 年度末大掃除
 12月15日（木） 第6回ペットボトル潰し
 12月24日（土） 閉寮
 1月 9日（月・祝） 開寮
 2月 9日（木） 入寮選考結果発表
 2月19日（日） 閉寮

3. 令和4年度当初の寮生数

本科	機械		電気情報		電子制御		建設システム	合計	男女別
1年	38	30 8	31	21 10	38	34 4	42 25 17	149	110 39
2年	32	30 2	32	28 4	36	35 1	29 23 6	129	116 13
3年	29	28 1	30	25 5	35	33 2	35 22 13	129	108 21
4年	17	13 4	26	21 5	21	18 3	26 17 9	90	69 21
5年	8	8 0	22	19 3	18	15 3	23 15 8	71	57 14
学科計	124	109 15	141	114 27	148	135 13	155 102 53	568	460 108

4. 新型コロナウイルス感染症対策について

（1）今年度も，新型コロナウイルス感染症対策のため「特別運営」を継続した。主だった内容は以下のとおり。

- ・発熱者・濃厚接触者の隔離用に，7号館1階全室のほか，各フロア1室以上の空き部屋を確保した。
- ・新型コロナウイルス感染者の隔離用に，合宿所・青葉会館2階を用意した。
- ・寮内公共スペースでのマスク着用を求めた。
- ・自室以外の寮室への立ち入りを禁止した。
- ・食事・入浴のグループ分けと時間指定を行った。
- ・郵便物（宅急便・小包等）の郵送制限を行った。
- ・長期休業期間（夏季休業・春季休業）中は私物を持ち帰ることとした。

《制限が緩和された点，および新たな対応を導入した点》

- ・ラウンジや自習室の利用再開（5/12（木）～）。
- ・学寮食堂への消毒用ハンドスプレーボトル設置（前期中間試験後）。
- ・昼食時間の短縮（前期中間試験後，1グループ30分を25分へ）。
- ・郵便物（宅急便・小包等）の郵送制限を解除（9/12（月）～，事前申告制）。
- ・学寮食堂での汁物提供のセルフサービス化（11月～）。
- ・隔離等対応を行う基準の緩和。

(2) 臨時閉寮・帰省要請

- ・2年生臨時閉寮のお願い(4/15(金)～4/22(金))。
- ・連休中の帰省のお願い(5/2(月)～5/8(日))。
- ・1年生臨時閉寮のお願い(7/15(金)～7/22(金))。

(3) 感染拡大期の状況および対応

- ・7月11日から夏季休業までに、141名の寮生が観察、自室・別室待機、隔離・帰省対象となった。
- ・7月14日には、感染拡大が危惧されていた全3年生を対象に抗原検査を実施した。結果的に陽性者は確認されず、本校で実施しているスクリーニング(対象の選定と隔離)が一定程度実効性を持っていることを確認できた。
- ・1月の開寮から春季休業までに、64名の寮生(帰省時の感染を含む)が陽性判定を受けた。同期間において、のべ204名の寮生が、帰省依頼、自室・別室待機等、何らかの対応の対象となった。

5. 施設・環境整備

- ・寮内インターネット設備を外部委託し、Wi-Fi(無線LAN環境)を導入した。なお、この契約に伴って、学寮諸経費を1か月あたり1,600円値上げした。
- ・5号館(西)の改修を行った(令和5年度は女子寮として利用)。

《長期休業期間中の環境整備》

- ・共用部ワックス清掃。
- ・共用部ワックス剥離清掃(1, 6号館)。
- ・害虫駆除清掃(燻煙)。
- ・寮室クリーニング, 各種修繕・防カビ塗装。
- ・1号館間仕切りカーテン設置。
- ・1号館寮室の照明改修工事。
- ・ゴミステーションの新設・旧ごみ置き場の撤去。
- ・ウォータークーラー(冷水器)を2台購入し、新設・交換した。
- ・7号館2～4階のシャワー・給湯設備を更新。利用可能な状態に回復させた。
- ・6号館の1人部屋を2人部屋に改装(令和5年度に予定される5号館(東)の改修に備えた措置)。
- ・5号館(西)および6号館の新寮室に、必要な什器備品を搬入・設置した。
- ・全寮室の什器点検, 補修, 清掃。

6. その他の主な動き

(1) 学寮HPのリニューアルと情報発信の強化

URL: <https://www.maizuru-ct.ac.jp/campuslife/dormitory/>

(2) 学寮諸経費の値上げについて

- ・水光熱費の高騰に伴い、令和4年10月から学寮諸経費の月額を1,200円値上げした。

(3) 食堂運營業者の変更について

- ・12月19日(月)に食堂業者の選定が行われた結果、令和5年度から、学寮食堂の運營業者が株式会社魚国総本社に変わる事となった。

(4) 学寮施設の臨時的利用

- ・課外活動の夏合宿・春合宿を学寮で受け入れた(新型コロナウイルス感染症感染防止対策として)。
- ・女子中学生宿泊体験会として、6名の女子中学生が女子寮にて宿泊体験を行った。

(5) 津山高専との交換寮生について

- ・新型コロナウイルス感染症の感染対策、および学寮5号棟(西)改修などの事情から、今年度は実施しなかった。

専攻科

専攻科長 加登 文学

1. 年間活動の概要

専攻科の年間活動の概要を表1に示す。

表1 活動内容

年 月	内 容
令和4年4月	・第1回専攻科委員会（4/8） ・専攻科総合システム工学専攻入学式（4/4） ・新入生オリエンテーション（4/5） ・学位申請説明会：1年生（4/12） ・1年生，2年生研究室配属決定 ・専攻科学生のTA募集
令和4年5月	・専攻科推薦特別選抜書類選考（5/11） ・第2回専攻科委員会（入試委員会と合同）（5/13） ・第3回専攻科委員会（5/13） ・大学改革支援・学位授与機構への特例適用専攻科状況報告
令和4年6月	・特例適用による学位申請説明会：2年生（6/2） ・専攻科一般学力検査選抜試験（前期）（6/19） ・第4回専攻科委員会（入試委員会と合同）（6/21）
令和4年7月	・第5回専攻科委員会（7/12） ・前期期末試験（7/28～8/3） ・特例適用による学位申請説明会（事務手続き）：2年生（7/29）
令和4年8月	・第3ブロック専攻科長会議〔オンライン〕（8/30）
令和4年9月	・学修総まとめ科目「履修計画書」の確認 ・特例適用による学位申請入力 ・学則変更および特例適用専攻科変更の届出 ・第6回専攻科委員会（9/26）
令和4年10月	・学修総まとめ科目「履修計画書」提出（2年生） ・特別研究基礎中間発表（10/18） ・専攻科一般学力検査選抜試験（後期）（10/16） ・第7回専攻科委員会（入試委員会と合同）（10/18） ・コース長による学生面談（1年生）
令和4年11月	・第8回専攻科委員会（11/8） ・合同学校説明会での専攻科説明（11/26） ・近畿地区高専専攻科長会議（11/30）
令和4年12月	・特別研究発表会（12/20）
令和5年1月	・第9回専攻科委員会（1/11） ・特別研究基礎発表会（1/24） ・学修総まとめ科目「成果の要旨」の確認
令和5年2月	・特別研究論文提出（2/2） ・専攻科特別研究報告集原稿の提出（2/2） ・第10回専攻科委員会（2/7） ・専攻科1年生後期期末試験（2/3～2/9） ・特例適用による学位申請入力 ・第3ブロック専攻科研究フォーラム（2/24）

令和5年3月	・第11回専攻科委員会（3/6） ・専攻科修了証書授与式：総合システム工学専攻 19 名（3/17） ・令和5年度専攻科学生募集要項配布
--------	--

2. 専攻科の運営

2.1 専攻科委員会の構成と役割分担

専攻科の活動は専攻科委員会が担い、委員長、教務主事の他、学科・部門から各1名程度の教員および学生課長と学生課課長補佐が委員として所属し、教務関係担当職員が事務手続き業務に当たっている。令和4年度の人員構成と役割分担および事務手続き担当職員は表2のとおりである。

表2 専攻科の運営メンバー

氏 名	役 職	主たる役割分担	備 考
加登文学	委員長	総括	専攻科長
川田昌克	委員	教務関係事項への助言	教務主事
井上泰仁	電気電子システム工学コース長	当該コースの運営，進路指導，教育関係書類の整備，特別研究審査資料等の確認	電気情報工学科
石川一平	機械制御システム工学コース長		電子制御工学科
徳永泰伸	建設工学コース長		建設システム工学科
豊田 香	委員	教育関係書類の整備，特別研究審査資料等の確認	機械工学科
藤田憲司	委員	国際交流 人文科学部門との連携	人文科学部門
熊谷大雅	委員	自然科学部門との連携	自然科学部門
下元利之	委員	事務手続きの承認	学生課長
富田 誠	委員		学生課課長補佐
嵯峨信子	陪席	事務手続きの実施	学生課職員
中道晶子	陪席		

2.2 入学と修了

令和4年度入学者は、総合システム工学専攻 18 名（電気電子システム工学コース 8 名，機械制御システム工学コース 4 名，建設工学コース 6 名）であった。また、令和4年度修了者は、総合システム工学専攻 19 名（電気電子システム工学コース 11 名，機械制御システム工学コース 4 名，建設工学コース 4 名）であった。

2.3 入試関係

推薦特別選抜を5月に実施した。一般学力検査選抜は前期日程A方式，B方式を6月，後期日程を11月に実施した。社会人特別選抜は応募者が無かった。選抜の結果，入学予定者は15名となり，定員16名に対して1名不足となったが，定員管理（70～130%）の観点から2次募集は実施しないこととした。

一般学力検査選抜について，令和7年度専攻科入試（実施は令和6年）より，6月頃に実施している前期日程と，10月頃に実施している後期日程を統合し，一般学力検査選抜〔A方式〕，〔B方式〕として年1回（6月頃）の実施とする。予告文書は本校ホームページに掲載されている。

2.4 特例適用専攻科に係る教育の実施状況等の審査

大学改革支援・学位授与機構による「特例適用専攻科に係る教育の実施状況等の審査（レビュー）」が実施された。教育課程および学修総まとめ科目に対する審査の結果，本校専攻科総合システム工学専攻は「適」と認められた。（令和5年2月）

また，学修総まとめ科目の指導にあたる教員の審査も行われ，専攻科の維持のために研究業績の継続的な積み増しが必要であることが改めて認識された。

2.5 特例適用専攻科変更の届出

特例適用専攻科について科目表および学修総まとめ科目担当者変更の届出を9月に行った。

2.6 学位授与申請

1年生に対しては、「特例適用による学位申請説明会」を受講登録締切日前の4月12日（1年生対象）に行い、履修単位確認と書類作成の説明をした。

2年生に対しては、「特例適用による学位申請説明会」を6月2日に行い、履修単位確認と書類作成の説明をした。また、7月29日に「特例適用による学位申請説明会（事務手続き）」を実施した。9月に「学修総まとめ科目履修計画書」の確認作業を行い、10月に特例適用による学位申請の手続を行った。また、2月に当該学生に対する履修単位の確認と「学修総まとめ科目成果の要旨」の確認作業を行い、学位申請の手続を行った。そして、特例適用による学位申請に対する大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、令和5年3月、申請者全員に「学士」の学位が授与された。なお、通例（従来の学位申請方式）適用による学位の申請はなかった。

3. 学生教育関係

3.1 研究成果の発表

専攻科では、学生が自身の研究成果を積極的に学会等で発表することを奨励している。これは、研究発表技術を涵養するためだけではなく、学外での客観的な評価を受けることによって、研究に関する新たな発見や今後の方向性に繋がるためでもある。新型コロナウイルス感染症の影響も減少し、集合形式での発表会件数も回復している。発表件数の内訳を表3-1に示す（本人発表のみ）。

表3-1 学外での研究発表件数（第3ブロック専攻科研究フォーラムを除く）

所属コース名		発表件数		
		1年生	2年生	合計
電気電子システム工学	国内学会等	8	6	14
	国際会議等	1	0	1
機械制御システム工学	国内学会等	2	0	2
	国際会議等	0	0	0
建設工学	国内学会等	0	3	3
	国際会議等	0	0	0
合計		11	9	20

また、第3ブロック専攻科研究フォーラムが令和5年2月24日に、対面での実施にて開催された。ポスターセッションおよび口頭発表が行われた。本校からの発表件数の内訳を表3-2に示す。

表3-2 第3ブロック専攻科研究フォーラムでの研究発表件数（専攻科1年生）

所属コース名	発表件数		
	オーラルセッション	ポスターセッション	合計
電気電子システム工学	1	2	3
機械制御システム工学	0	2	2
建設工学	0	3	3
合計	1	7	8

3.2 インターンシップ

専攻科1年生複数名が国内の企業や大学院のインターンシップに参加した。コロナ禍や、長期のインターンシップ受入企業が減少していることを考慮して、今年度は2機関での実施日数が合計で10日以上となれば2単位の認定とした。

また、KMITL（タイ国キングモンクット工科大学）のeインターンシップに専攻科1年生1名が参加した。約1ヶ月のオンラインでの取り組みと、学内での報告会をすべて英語で実施した。

3.3 新型コロナウイルス感染症対応

本年度は新型コロナウイルス感染症の基本的対策を継続しながらも、専攻科における授業と研究活動については、ほぼ予定通り実施することができた。

4. 進路状況

令和4年度の進路状況を表4に示す。就職希望者全員が内定をいただいた。また、大学院進学は6名となった。

表4 進路状況（令和5年3月）

電気電子システム工学コース	機械制御システム工学コース	建設工学コース
【就職】 NTT コムウェア GS ユアサ 日新電機 パナソニックエンターテインメント&コミュニケーションズ 堀場製作所 イシダ パナソニックエナジー社 【進学】 奈良先端科学技術大学院大学（2名） 北陸先端科学技術大学院大学 長岡技術科学大学大学院	【就職】 アイリスオーヤマ 日本原子力研究開発機構 パナソニックくらしアプライアンス 【進学】 兵庫県立大学大学院	【就職】 竹中工務店 鳳工業 京都府 【進学】 名古屋工業大学大学院

5. その他

5.1 第3ブロック専攻科長会議

令和4年度は鳥羽商船高専を担当校として、8月30日（火）にWeb会議で開催された。協議事項では、「専攻科各種申請状況（改組、レビュー、JABEEなど）について」、「学修総まとめ科目の指導教員の状況について」について議論され、情報共有がなされた。また、承合事項では、「入試関係（定員充足状況、入学試験の状況など）」、「成績関係（GPA制度など）」、「進学関係（大学院への進学率など）」、「特別研究関係」、「大学との連携教育」等について各校の状況が説明された。

5.2 近畿地区高専専攻科長会議

令和4年度は神戸高専が主幹校であり、11月30日（水）にアンカー神戸において対面で開催された。協議事項として「専攻科授業科目の質保証と成績評価」について議論された。承合事項では、「入学試験関係」、「学校評価・認証関係」、「国立高専教育国際基準」、「学位授与関係」、「学生指導・専攻科運営」等について各校の状況が説明され、情報共有がなされた。

人 文 科 学 部 門

人文科学部門長 藤田 憲司

1. 授業公開

本年度は、山根秀介教員が12月6日（火）5・6時限の「総合英語IVB」（4年電子制御工学科）の授業時に実施した。学内評価者は人文科学部門の藤田憲司教員（主査）と自然科学部門の岡田浩嗣教員が務め、学外評価者として本校名誉教授の荒川吉孝先生と与謝野町立加悦中学校教諭の大槻裕代先生に協力いただいた。

2. 英語デー

10月19日（水）、英語教員が実施運営主体となり、クラス担任等の協力を仰ぎ、教務委員会主催の学校行事としてTOEICおよびTOEIC Bridgeの団体受験を実施した。日頃の学習の成果および英語のリーディング・リスニング能力を評価する目的で、本科1・2年生はTOEIC Bridgeを、本科3年生から専攻科2年生まではTOEICを受験した。本校後援会の支援を受け、本科3・4年生と専攻科1年生が受験料無料で全員受験、本科1・2・5年生と専攻科2年生は任意受験で、受験者が受験料の一部を負担した。

3. 英語プレゼンテーションコンテスト

第16回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト（奈良工業高等専門学校主催）が、11月12日（土）・13日（日）の2日間にわたって開催され、本校からシングル部門に1名、チーム部門に1チームが出場した。3年ぶりの対面での開催となった。

本校からは以下の3名が出場した。

〈シングル部門〉

1年 電気情報工学科 橋本さくら タイトル：Future Plastics

〈チーム部門〉

4年 建設システム工学科 東伊織 タイトル：What Planet Do You Wanna Live

4年 建設システム工学科 貫井かんな On?

橋本さんは生分解性プラスチックについて、そして東さん・貫井さんは、他の惑星への移住についてそれぞれ発表した。3名とも練習の成果を存分に発揮し、発表後の質疑応答でも生き生きと英語で受け答えしていた。今後につながる貴重な経験になった。

4. 外部資金導入

本年度は、人文科学部門教員で、以下の者が科研費等の外部資金を獲得している。

○児玉圭司教員

・（研究分担者）基盤研究(B)「近代日本の地域自治一村と大字の法史学的研究」(代表：川口由彦 法政大学教授)

・（研究代表者）基盤研究(C)「官吏・典獄と被収容者から読み解く、明治日本の監獄」

○牧野雅司教員

・（研究代表者）若手研究「外交文書の「見た目」から読み解く近世日朝関係の特質」

○荻田みどり教員

・（研究代表者）研究活動スタート支援「源氏物語の受容を中心とした食に対する意識の変遷に関する研究」

○山根秀介教員

・（研究代表者）若手研究「ウィリアム・ジェイムズの多元論哲学に対するシャルル・ルヌヴィエの影響に関する研究」

5. 国税庁「令和4年度 第61回 税に関する高校生の作文」部門の受賞

3年生「総合国語ⅡA、ⅡB」（田村修一教員・荻田みどり教員担当）の授業において「税に関する高校生の作文」に応募し、以下の本校学生3名が受賞した。12月1日、舞鶴税務署長による授賞式が本校校長室にて執り行われた。

大阪国税局長賞

「税金による恩恵」 吉田 千晴（建設システム工学科3年）

舞鶴税務署長賞

「税金と工業の発展」 西村 颯史（建設システム工学科3年）

舞鶴税務署長賞

「税で森を救う」 田邊 健人（電子制御工学科3年）

6. 「放課後教室」の実施

本年度も、自然・人文科学部門合同で「放課後教室」を開催した。これは、学生に学習する習慣を身につけてもらうこと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的としたもので、定期試験の2週間前から週に3回程度、放課後（16:30～18:00）に低学年の教室を利用して行った。前年度に続く試みとして、専攻科生がTAとして前期中間試験と後期中間試験に向けての放課後教室に参加し、低学年の学生に学習の指導を行った。なお、放課後教室は今年度を通じて22回開かれ、延べ592名の学生が参加した。

7. 「総合演習」の実施

自然・人文科学部門合同で「総合演習」を実施した。1年生と2年生全員が週に1クラス、習熟度の向上を目的に課題に取り組んだ。

8. 教員の動き

令和4年度末をもって、田村修一先生（定年）と Jimmy Aames 先生が退職された。

自然科学部門

自然科学部門長 上杉 智子

1. 教育の取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応

一昨年度、昨年度に引き続き、感染症が広まる恐れがあるときには、遠隔授業の実施や、授業資料の提供などの対応を行った。

また、昨年度と同様、感染症対策のために新入生合宿研修が中止され、代わりに学内での新入生研修を行うこととなったため、1年学年団の教員もスタッフとして研修に参加した。研修では、学生どうしのつながりやストレスマネジメント力の向上を目的とした「PEER」、校内オリエンテーリングなどのグループワーク、学生主事や進路指導委員長による講話、京都府警本部少年サポートセンターの吉田靖章氏によるネットトラブルに関する講話が実施され、1年学年団がこれらの活動のサポートを行った。

(2) 学年団の取り組み

低学年の学生支援や担任のサポートを組織的に行うことを目的として、令和3年度より人文科学部門と協力して1年学年団、2年学年団を組織し、学生の情報共有や学生・保護者面談への対応、担任の療養時の担任業務の代行などを学年団として行っている。そのほか、1年学年団では、上記(1)の新入生研修のサポートに加え、6月17日・24日に実施された中学校教員を対象とした学校見学会での、中学校教員と各中学校の卒業生・本校教員との面談のスケジュール設定、面談への対応などを行った。2年学年団では2年生に対する進路ガイダンスを企画し、5年生担任と進路指導委員会の就職担当副委員長に講師を依頼して、11月28日に学科ごとの進路ガイダンスを行った。

(3) 中学数学の復習と数学基礎力診断テスト（1年生対象）

4月入学の新入生に対する取り組みとして、入学前の数学の事前課題（宿題）を今年も配布して、新入生に対して中学数学の復習を促している。また、新入生に対して毎年実施している、数学基礎力診断テストについては、昨年度と同様に「総合演習」の時間に実施した。

(4) 入学前ICT教育（入学予定者対象）

翌年度新入生を対象とした入学に向けての学習準備のための取り組みとして、令和3年度より、入学前にICT授業を行っている。自然科学部門では、昨年度に引き続き、第2回(1月25日～1月31日)の授業を担当し、人文科学系科目を含む一般科目の紹介や、理科をテーマとしたクイズ形式のオンライン授業を実施した。

(5) CBTの実施（1年生・2年生・3年生対象）

CBT「数学」・「物理」・「化学」を、教務係および情報科学センターの協力を得てクラス毎に実施した。「数学」については1年から3年の全クラス（12月8日～23日）、「物理」については2年の全クラス（12月23日）、「化学」については1年の全クラス（12月16日）を対象として実施した。CBTの実施は、トライアルを含めて今年度で6年目となる。今年度は情報科学センターが改修中で使用できなかったため、CALL教室とマルチメディア室を利用して実施した。

(6) 総合演習（1・2年生対象）

人文科学部門と共同で担当している1・2年生の総合演習の時間を用いて、日々の学習を補うための数学・物理・化学などの演習の指導に加え、今年度は、学生達の興味の幅を広げることを目的として、外部講師による講演会やオムニバス授業を取り入れた。講演会は、白鳥啓太氏（合同会社Papapapapa代表）を講師に迎え、1・2年生を対象として、「エンジニア社長が教えるゼロから理想の人生をつくる方法」と題して、理想の自分・仲間・社会をつくるために高専生のうちにやっておくべきことについてお話

いただいた。オムニバス授業については、理科教員3名と体育教員1名による授業（講話「オーストリアに行ってきたよ」、物理に関するグループワーク、星や銀河までの距離の測りかた、体力測定）を、1・



総合演習での講演会の様子

2年生それぞれに対して実施し、数学教員4名による授業（ヘイトスピーチはなぜ悪いか【計算しよう】、折り紙と数学、ストロー多面体、背理法と論理パズル）を1年生に対して実施した。

(7) 放課後教室（主に低学年の希望者対象）

学生に学習する習慣を身につけてもらうことと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的として、今年度も人文科学部門と合同で「放課後教室」を実施した。

今年度は、年4回実施される定期試験（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）の約2週間前から、週に3回程度行った。放課後に人文・自然科学部門の教員が数名待機する教室に学生を集め、授業の予習・復習や試験勉強のための学習支援を行った。また、中間試験前の放課後教室では、学生たちの学習のサポートを行う専攻科生を毎回2名程度配置し、質問や相談が行いやすい環境づくりを行った。また、成績不振者には教科担当者や担任から個別に参加を促し、基礎学力の向上を図った。

今年度の放課後教室は、年間21回開催され、延べ人数で564名の学生が参加した。

(8) 進学希望の学生に対する学習支援

大学への編入学や専攻科進学を希望する学生に対する学習支援として、過去の大学編入試験や専攻科入学試験の問題について学生が解答した答案のチェックを行い、解答と解説を行った。

また、年度末には、昨年度より実施している進学希望の4年生を対象とした勉強合宿（3月13日～17日）が今年度も開催され、自然科学部門の数学教員1名が、微分積分・微分方程式・線形代数の講義を、理科教員1名が、力学と電磁気学の講義を1週間にわたって実施した。

(9) 実験室の整備と活用

昨年度までに引き続き、物理実験室・準備室および化学実験室・準備室の整備を行い、理科系科目における実験の充実を図っている。また、放課後に理科好きの学生たち、数学好きの学生たちを実験室に集め、それぞれ、理科教員や数学教員の指導の下、理科や数学に係る活動を体験させている。

2. 地域貢献・学校広報

今年度のオープンキャンパスでは、会場へ来られた生徒や保護者の方に低学年の授業の内容を伝えるため、人文科学部門とともに一般科目の教科書展示を行った。

また、小中学生に科学の楽しさを伝えるための公開講座や出前授業も毎年実施している。今年度は10件の公開講座「不思議なパズルとフィボナッチ数列」「太陽を観察しよう」「確率がつくる不思議な家」「いろんな計算機で平方根を計算しよう」「カラフルLEDランタン」「カレンダー魔法陣」「発見！折り鶴の卵！？」「光で遊ぼう（3件）」と、5件の出前授業「箱カメラをつくろう」「ブラックホールとは何か」「太陽を観察しよう」「折り紙と数学」「確率がつくる偶然の形とその性質」を実施した。

3. ジュニアドクター育成塾の取り組み

本校が平成31年度（令和元年度）に採択されて実施している、科学技術振興機構の行うジュニアドクター育成塾の事業の取り組みにおいて、自然科学部門では、第二段階育成プログラムの受講生のうち、今年度は、数学のテーマ「再帰性と数学」に3名、理科のテーマ「宇宙について調べよう」に2名の受講生を受け入れ、課題研究の指導を行った。令和5年3月25日に実施した研究フォーラムでは、指導した5名の受講生全員がスライドを用いた成果発表とポスター展示を行い、第二段階育成プログラムを修了することができた。



研究フォーラムでの発表の様子

4. 人事

- ・令和4年4月1日、馬越春樹氏が数学教員として自然科学部門助教に着任された。
- ・令和4年10月1日、熊谷大雅教員が講師に昇任された。
- ・昭和61年より本校で学生の教育に従事され、令和3年3月31日に定年退職された後も、本校に嘱託教授として勤務されていた背戸柳実名誉教授が、令和5年3月31日に退職された。

機 械 工 学 科

機械工学科長 西山 等

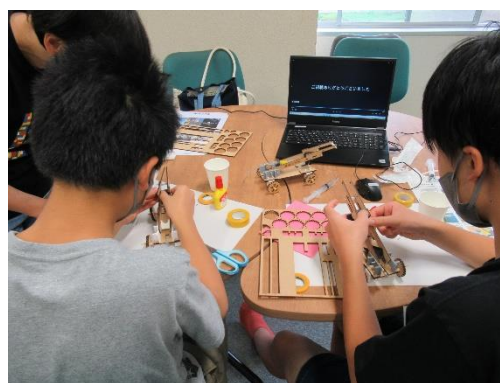
1. 年間活動の概要

機械工学科の年間活動の概要を下表に示す。

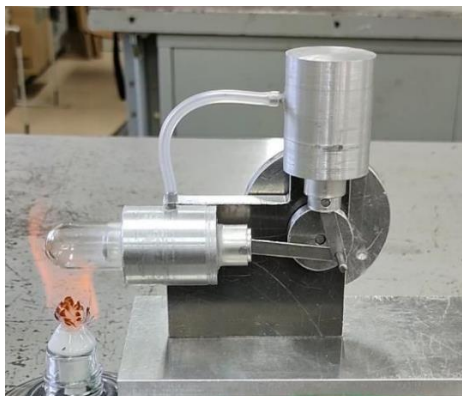
年 月	活 動 内 容
令和4年4月	・新入生学科ガイダンス (4/12)
5月	・プレオープンキャンパス舞鶴〔体験学習・学科展示〕 (5/22)
6月	・プレオープンキャンパス京都〔体験学習・学科展示〕 (6/25・6/26)
7月	・プレオープンキャンパス舞鶴〔体験学習・学科展示〕 (7/10) ・公開講座「クレーンを作って遊ぼう」 (7/17)
8月	・オープンキャンパス〔学科展示・体験学習〕 (8/6・8/7) ・公開講座「木製の時計を作ろう！」 (8/21) ・公開講座「クレーンを作って遊ぼう」 (8/28)
9月	・高専模試〔学科展示〕 (9/4) ・出前授業「ペットボトル掃除機を作ろう」高浜町立内浦小中学校 (9/6) ・出前授業「定規より便利な工具（ノギス）を作ろう」（舞鶴市立和田中学校, 9/8) ・入試説明会（舞鶴・教員向け）〔実習工場見学〕 (9/14) ・入試説明会（京都）〔学科展示〕 (9/18) ・入試説明会（舞鶴）〔学科展示・体験学習〕 (9/24・9/25)
10月	・入試説明会（滋賀）〔学科展示・体験学習〕 (10/10) ・卒業研究中間発表会 (10/13) ・入試説明会（三田）〔学科展示〕 (10/16)
11月	・出前授業「3D-CAD を使ってみよう！」宇治市立黄檗中学校 (11/8) ・出前授業「レーザーカットした材料で組立体験 オリジナル紙ヒコーキをつくろう」 （「夢見る小学校」映画上映会コラボレーション企画） (11/20) ・入試説明会（舞鶴）〔学科展示・体験学習〕 (11/27)
12月	・公開講座「考えて動かそう！きみにもできるロボットづくり」 (12/3) ・授業公開（4M機械力学Ⅰ） (12/5)
令和5年1月	・卒業研究発表会 (1/26)



入試説明会「学科展示」



公開講座「クレーンを作って遊ぼう」



オープンキャンパス「体験学習」
(スターリングエンジン)



オープンキャンパス「体験学習」
(ハンドスピナー)

2. 地域企業との連携による製品企画の流れの体験

機械工学科では4年生の設計製図Ⅳにおいて、地域企業の協力を得て実務に沿った製品の企画・開発・設計などの流れを体験できる授業を行っている。授業では、機械工学科教員と企業での装置の設計や開発の実務を担当する技術者が連携して授業を展開する。今年度は3件の連携授業を行った。

連携先の株式会社椿本チェーンとは令和4年4月18日～10月24日、オムロン株式会社綾部事業所とは令和4年7月18日～11月2日、株式会社イシダとは令和4年11月30日～令和5年1月18日の期間において新製品開発等の課題に取り組んだ。学生にとって学校教員の授業だけでは経験できない実り多い授業となった。



地域企業との連携授業



地域企業との連携授業

3. 進路状況

令和4年度5年生の進路状況を下表に示す。

就職 (21名)	進学 (11名)
エース設計産業, ENEOS, 大阪ガス, 大阪シーリング印刷, オークマ, カンセツ, クボタ, コマツ大阪工場, サントリープロダクツ, 島津プレシジョンテクノロジー, JT 日本たばこ産業, 太陽工業, ナブテスコ津工場, 日本精工, 日本電産シンポ, ホソカワミクロン, 本田技研工業, マルホ発條, メンバーズ, 森永乳業神戸工場	舞鶴高専専攻科, 豊橋技術科学大学, 長岡技術科学大学, 立命館大学

4. 人事異動

令和5年3月31日付で西山等教授が定年退職となった。

電 気 情 報 工 学 科

電気情報工学科長 内海 淳志

1. 年間活動の概要

電気情報工学科の年間活動の概要を下表に示します。

年 月	内 容
令和4年 4月 6日 4月26日	・新入生向け学科ガイダンス ・4年生創造工学コンセプト発表会
令和4年 7月19日 24日	・4年生創造工学成果発表会 ・あやべ理工系ことはじめ教室「太陽電池で遊ぼう!」(綾部市ものづくり交流館)
令和4年 8月 6日 ～7日	・オープンキャンパス体験学習 「振れば絵が出るイルミネーション」, 「ゲーム開発を体験しよう」
令和4年 9月16日 9月29日	・4年生工学基礎研究の研究室配属決定 ・5年生卒業研究中間発表会
令和4年10月 4日 25日	・4年生研修旅行(関東方面, 帰校10月7日) ・電気情報工学科特別講演会(電気三学会関西支部主催, 対象: 4年生・5年生) 「ワイヤレス給電の原理と応用」 富士ウェーブ株式会社 大津研究所所長 栗井郁雄 先生(山口大学 名誉教授)
令和4年11月 6日 11日	・舞鶴高専杯プログラミングコンテスト(赤れんが2号棟 舞鶴市政記念館) ・専門アクティブラーニング(AL)連続講義(対象: 3年生, 第2回11月25日) 「PLC特別講義」株式会社太平電機 藤田 智常 様
令和4年12月10日 22日	・学科主催公開講座「聖夜を彩る光るクリスマスリース」(本校) ・授業公開「ネットワーク論(4E)」(科目担当: 船木先生)
令和5年 1月17日 26日 27日	・4年生工学基礎研究発表会 ・5年生卒業研究発表会 ・最終講義「人生, ワクワク～ある9期生のあゆみ～」(中川重康先生)
令和5年 2月 8日	・入学前ICT教育 「未来につながる電気エネルギー」(オンデマンド授業, 対象: 入学予定者)

2. 電気情報工学科特別講演会

令和4年10月25日(火)に本学科の特別講演会として, 電気三学会関西支部主催の「学生のための講演会」を本校視聴覚教室にて開催しました。富士ウェーブ株式会社大津研究所所長 栗井郁雄先生(山口大学 名誉教授)を講師にお招きして, 「ワイヤレス給電の原理と応用」の講演をしていただきました。講演では, ワイヤレス給電の原理から, 現状の用途や将来への展望までをわかりやすくまとめていただきました。学生達は, 身近な給電技術になりつつあるワイヤレス給電の講演ということもあり, 非常に興味深く聞いていました。



特別講演

3. 最終講義(中川重康先生)

令和5年1月27日(金)に中川重康先生の最終講義を開催しました。「人生, ワクワク～ある9期生のあゆみ～」と題して, 太陽光発電と日射量予測, 仏教伝承芸能「仏舞」の画像解析などの研究, Fitbitを活用したウォーキングの推進, 東舞鶴駅前緑地帯でのイルミネーション事業などの地域貢献活動, そして担任意務などについての思い出話をしていただきました。そしてそれらの活動を通して得られた「工学の逆三角形」について紹介していただきました。最終講義には, 本科3年生から5年生, 専攻科生が参加し聴講しました。普段の授業で聞くことができない話が豊富にあり, 学生らは興味をもって聞いていました。



最終講義

4. 舞鶴高専杯プログラミングコンテスト2022の開催



ゲーム部門のプレゼンテーション

小中学校のプログラミング教育必修化によって多くの関心が集まっているプログラミングの普及のために、小中学生の発想力、表現力、技術力および、発信力の向上を目指し、令和4年11月6日(日)に、舞鶴高専杯プログラミングコンテスト2022を開催しました。コンテスト当日は、21名の小・中学生が参加し、アイデア部門はプレゼンテーション、ゲーム部門はプレゼンテーションとデモンストレーションを行いました。会場として、舞鶴市赤れんがパークにある市政記念館を実施しましたが、小・中学生の能力を活かしたアイデアやゲームを見聞きし、参加者と来場者の熱い拍手で包まれていたのがとても印象的でした。

5. 学生による学会発表など

電気情報工学科学生の学会発表を下表に示します。*印は本学科出身の専攻科生です。

年 月	発 表 学 会	発 表 者
令和4年 8月	日本高専学会 第28回年会講演会 「速度画像とResidual Networkによる妊娠予測モデル」	足立 雄信*
	「不妊症診断支援に向けたStyleGANによる画像拡張」	中嶋 悠斗*
	「擬似不良シール画像生成による食品包装管理システムの改善」	中島 滉太*
令和4年 9月	日本ハイパーサーミア学会 第39回大会 「機械学習を用いた擬似生体断面内の温度分布推定」	足立 雄信*
令和4年 12月	第7回日本福祉工学会九州支部大会 熊本2022 「深度センサ搭載のスマートフォンを活用した視覚障害者向け障害物検出システムの開発」	森田 光明*
	「スマートフォンを用いた盲ろう者のための手書き文字出力デバイス」	坂本 舜亮*
令和5年 3月	令和4年度高専研究発表会 「スパース推定法を用いたはんだ付け巧拙原因の推定」	北村 惇
	「基底系選択に基づく適応的画像圧縮方式の開発にむけて」	渡邊 凌矢
	2023年電子情報通信学会総合大会 「はんだ付け巧拙原因の推定とフィードバックシステムの作製」	北村 惇
	「包装のシール溶着不良品識別に対する異常検知手法の有効性検証」	中島 滉太*
	第70回応用物理学会春季学術講演会 「レーザアニール法を用いた表面プラズモンフィルタの試作」	熊谷 昌城* 田邊 雅翔 久木 弘成
	令和5年電気学会全国大会 「降圧チョッパ回路のモデルに基づく太陽電池の高速動作点制御手法の提案」	小島 大和*

6. 5年生の進路状況

今年度の5年生は、就職希望者が29名(72.5%)、進学希望者が11名(27.5%)でした。

【就職(内定企業・公務員)】: アイテック阪急阪神, アマゾンジャパン, NECネットエスアイ, NTT ME, NTTデータ, NTTファシリティーズ, オプテージ, オプテックス・エフエー, 関西電力, キヤノンメディカルシステムズ, 京セラ滋賀野洲工場, グローリー, 三精テクノロジーズ, JNCファイバーズ, ジェイエムエンジニアリング, TOA, テルモ, 日新電機, ハイマックス, 日立ビルシステム, 富士ソフト, 富士電機, 堀場製作所, 舞鶴市, 三菱電機 神戸製作所, 三菱電機 名古屋製作所, 村田機械, 村田製作所 八日市事業所, リンク情報システム

【進学(合格先)】: 大阪大学, 岡山大学, 九州大学, 九州工業大学, 京都工芸繊維大学(2名), 電気通信大学, 舞鶴高専専攻科(3名), 三重大学

電 子 制 御 工 学 科

電子制御工学科長 野間 正泰

1. 年間活動の概要

令和4年度電子制御工学科の年間活動の概要を下の表に示す。

月 日	活 動 内 容	備 考
令和4年 4月12日	新入生・専門学科ガイダンス	全教員，技術職員
5月22日	プレオープンキャンパス舞鶴	石川，清原
6月25，26日	プレオープンキャンパス京都	高木
7月10日	プレオープンキャンパス	若林，西
8月6，7日	オープンキャンパス	全教員，技術職員
9月10，11日 10月29，30日	第15回全日本小中学生ロボット選手権（舞鶴高専大会）（対象：小学生，中学生）	石川，高木，若林，畑
10月4～7日	4年国内研修旅行	長崎，福岡，広島
10月13日	インターンシップ報告会	35名発表
10月20日	卒業研究中間発表会	2会場，30名発表
11月	学科特別講演会	中止
12月7日	授業公開（若林）	主査・石川
令和5年 1月16日	創造設計プロジェクト競技会	仲川，若林，技術職員
1月19日	卒業研究発表会	28名発表， 2名は2月9日に発表



4年生の国内研修旅行

2. 教員人事

令和5年3月31日付で川田昌克教授が北九州高専に転出された。

3. 研修旅行

コロナ禍によりしばらく中止となっていた4年生の研修旅行を、国内ではあるが、令和4年10月4日から7日に実施することができた。引率教員は若林，西であった。

学生は長崎（ハウステンボス，軍艦島），福岡（九州工業大学，太宰府天満宮），広島（マツダミュージアム，宮島）での研修および観光を楽しんだようだ。お世話になった関係各位に御礼申し上げる。

4. 卒業研究

2年ぶりに対面での卒業研究発表会を令和5年1月19日（内2名は発熱のため，2月9日）に実施，5年生30名が1年間，卒業研究として取り組んだ成果を発表7分，質疑応答3分の中で発表した。

なお，卒業研究は中間発表，本発表ともに評価シート（発表と卒業論文の内容）に基づいて成績が評価されている。

5. 進路状況（5年生）

最近5年間の進路状況を下の表に示す。

本年度は5S担任の仲川 力教授が進路指導を担当し，就職希望者15名（内自営業1名）と進学希望者15名の進路が確定した。

年 度	卒業予定者数	就 職	進 学 (専攻科・大学編入学)	その他 (自営業・専門学校)
令和4年度	30	14	15	1
令和3年度	31	19	12	0
令和2年度	34	21	13	0
令和元年度	28	14	14	0
平成30年度	37	22	15	0

建設システム工学科

建設システム工学科長 尾上 亮介

1. 年間活動の概要

建設システム工学科の活動概要を下表に示す。

年 月	活 動 内 容
令和4年 4月	・新入生対象専門学科ガイダンス (4/12)
令和4年 5月	・プレ・オープンキャンパス (5/22)
令和4年 6月	・出前授業「レオナルド・ダビンチの橋をつくろう！～模型で学ぶ橋の仕組みと形～」 (6/23) ・4C 現場見学「舞鶴市港湾」 (6/24)
令和4年 7月	・プレ・オープンキャンパス (7/10) ・公開講座「住宅建築模型制作（屋久島の家）」 (7/3)
令和4年 8月	・出前授業「探究学習の支援（地球環境問題）」 (8/1) ・オープンキャンパス (8/6, 7)
令和4年 9月	・公開講座「セメントでペーパーウエイトをつくろう～コンクリートのしくみ～」 (9/3) ・出前授業「家具デザイン シュロイダーテーブルの模型を作ろう」 (9/8) ・公開講座「テンセグリティ～宙に浮かぶ構造体を作ろう！」 (9/10) ・公開講座「レオナルド・ダビンチの橋をつくろう！～模型で学ぶ橋の仕組みと形～」 (9/11) ・出前授業「カラーサンドとペットボトルで液状化実験」 (9/21) ・公開講座「空間パースをつくろう」 (9/24) ・卒業研究/卒業設計 中間発表会 (9/29)
令和4年 10月	・公開講座「舞鶴市民向け防災士養成講座」 (10/1, 2) ・特別講義「中谷正人氏特別講演会」 (10/14) ・公開講座「水をきれいにする試み」 (10/22) ・公開講座「住宅建築模型制作（住吉の長屋）」 (10/23) ・出前授業「若狭湾の酸性化と漁獲量の減少」 (10/27) ・出前授業「防災に関連する現象の簡単な実験の展示 -明治用水頭首工の漏水を例として-」 (10/29)
令和4年 11月	・公開講座「住宅建築模型制作（白の家）」 (11/5) ・建設技術展 2020 近畿 学校ブース出展 (11/9, 10) ・出前授業「折り紙と数学」 (11/20) ・公開講座「住宅建築模型制作（前川國男 自邸）」 (11/26)
令和4年 12月	・公開講座「椅子の制作①」 (12/4) ・公開講座「建設分野の最先端を学ぶ～建設業務力向上プロジェクト～」 (12/4)
令和5年 1月	・公開講座「椅子の制作②」 (12/4) ・卒業研究/卒業設計 発表会 (1/26) ・公開講座「住宅建築模型制作（塔の家）」 (11/28)
令和5年 2月	・まいづる土木・建築フォーラム WEB (2/10)
令和5年 3月	・出前授業「住まいの設計」（城北中学校 (3/9))

2. 教育活動

(1) 4年生インターンシップ

インターンシップに参加した学生は38名。インターンシップを実施することで、リアルな職場の雰囲気を知ることができ、先輩社員の方からのアドバイスなど、自分の将来について考えるきっかけとなった。インターンシップ先に就職を希望している学生も複数名おり、大変有意義でした。

(2) 現場見学会

新型コロナウイルス対策を実施した上で、舞鶴市の舞鶴西港、国交省工事現場、京都府工事現場、京都府管理施設（うみとびら）の現場見学を実施した。舞鶴西港の見学では、業務艇に乗船し、舞鶴湾の特徴および港湾施設、視察、工事現場&うみとびらの見学を行った。参加学生は、進路や業務内容などについて考える機会となった。（写真1、2）



写真1 業務艇に乗船しての見学



写真2 京都府管理施設（うみとびら）の見学

(3) 研修旅行

2022年10月4日～7日にかけて東京方面への研修旅行を実施した。2名の学生がコロナの影響で参加できませんでしたが、なんとか4日間の行程を終えて無事に帰ってきた。研修内容は、コルビジェの国立西洋美術館の見学、筑波にある土木研究所、建築研究所、地図と測量の科学館、JAXA宇宙センターを訪問した。その後、東京に戻りスカイツリーと関東大震災からの復興橋梁群の見学、WHAT MUSEUMが所蔵する建築模型の見学を行った。土木と建築に関連する研修内容で天候も良くなかったのですが、充実した研修旅行となった。（写真3、4）



写真3 国立西洋美術館見学



写真4 JAXA宇宙センター見学

(4) 第12回まいづる土木・建築フォーラム

令和5年2月10日（金）に当学科主催のフォーラムを開催した。毎年、舞鶴市市政記念館で開催しているが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、ネット配信で開催した。このフォーラムでは、5年生が卒業研究で取り組んだ地域に関連したテーマを中心に、9件の口頭発表を行った。

（写真5, 6）



写真5, 6 学生の発表風景

3. 学科活動

(1) 公開講座、出前授業

公開講座は、建築をテーマとした「住宅建築模型制作」、「椅子の制作」を実施。都市環境系のテーマとして、「テンセグリティ〜宙に浮かぶ構造体を作ろう!」「水をきれいにする試み」などを実施した。出前授業では、「住まいの設計」を舞鶴市内の中学校3校で実施した。（写真7, 8）



写真7, 8 公開講座の様子

4. 進路状況

令和4年度卒業生の進路は下表のとおりである。

表 令和4年度進路状況

コース	就職			進学・編入学			合計
	民間企業	官公庁	小計	専攻科	大学学部	小計	
都市環境	9	1	10	2	5	7	17
建築	9	1	10	3	5	8	18
合計	18	2	20	5	10	15	35

図書館

学術情報センター長 伊藤 稔

1. 舞鶴高専図書館だより第100号の発行

今年度、大内委員の主導により各クラスの図書委員により記念すべき第100号を発行することができた。この第100号では、これまでの図書館だよりの歴史を舞鶴高専での出来事や、国内外での出来事などと合わせて振り返る「ライブラリスランバー」、図書館の利用の仕方を紹介する「図書館先導」など多くの企画が掲載された。また、図書紹介インタビュー企画「教員の愛した書籍」や各学科の学生にとって実用的な書籍を紹介する「実用とよばれた本」など、読み応えのある内容となった。最後に、表紙絵コンテストで惜しくも採用とらなかった最終選考に残った作品の紹介なども掲載された。このような企画を通じ、「図書館だより」を手にした学生や教職員にとって、図書館への興味や関心を喚起されることを期待する。

ライブラリスランバー

1978 1983 1993

1号 20号 50号

図書だよりの歴史

高専の出来事

国内の出来事

図書館先導

本を借りるまでの流れ

- 1 入館
- 2 蔵書検索
- 3 本の入手
- 4 貸し出し
- 5 返却
- 6 書庫

教員の愛した書籍

建設システム工学科 今村友里子 先生
聞き手: 5期工下部季

喜嶋先生の
静かな世界

作者: 喜嶋出版/講談社

実用とよばれた本

電気情報
電子制御

現代解析力学 入門

そして、表紙は飾られた

岡本実穂 さん作

名倉時香 さん作

2. 令和4年度舞鶴工業高等専門学校紀要第58号の発刊

今年度、小島委員の主導により舞鶴工業高等専門学校紀要第58号を発刊することができた。11月に原稿の募集を開始し、8件の投稿があった。紀要編集委員会で投稿された原稿全てを掲載と決定し、令和4年3月に発刊された。

3. 長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システム

長岡技術科学大学附属図書館が、全国立高専55キャンパスと連携し、当該システムを管理・運用している。このシステムの最大の特徴（利点）は、同大学にサーバ管理業務を集約し、システム管

理やメンテナンス等を同大学が一元的に行っている点である。なお、現行システムは第4期に当たり、令和5年3月に開始された。

4. 研究支援サービス

図書館ホームページ中の「研究支援サービス」のページより、以下の電子ジャーナル及び学術情報データベースなどを提供している。

■ 長岡技術科学大学によるコンソーシアムを介して提供しているサービス

- ScienceDirect
- AIP (American Institute of Physics)

■ 機構本部によるコンソーシアムを介して提供しているサービス

- Science, MathSciNet, CiNii

■ ヨミダス文書館

- 読売新聞がネットで読めるオンライン・データベース

■ 国立情報学研究所(NII)が行っているサービス

- NACSIS-ILL (図書館間で行われている相互貸借サービス (文献複写や資料現物の貸借の依頼及び受付) のメッセージのやりとりを電子化したシステム)
- ILL文献複写等料金相殺サービス (NACSIS-ILLの料金情報を元にして参加機関同士の利用料金を相殺するシステム)
- Webcat Plus (NII図書情報ナビゲータ)
- KAKEN (科学研究費助成事業データベース)
- JAIRO (学術機関リポジトリポータル)

■ その他の機関が行っているサービス

- NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索、複写・貸借申込みシステム)

5. 令和4年度近畿地区高等専門学校図書館連絡協議会・視聴覚教育連絡協議会

和歌山工業高等専門学校の主幹により開催された。本協議会は隔年で近畿地区の高専で開催され、今年度は和歌山工業高等専門学校の主幹であった。なお、今年度は協議事項の提案がなかったため、メールによる承合事項への回答を行う形式での開催であった。次回は、令和6年度に近畿大学工業高等専門学校の主幹での開催である。

6. その他

■ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

今年度も、マスク着用や手指のアルコール消毒、出入り口や窓の常時開放による換気、閲覧室の座席配置や座席数の削減による飛沫感染予防、貸し出しカウンターのビニールシート設置などの新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を継続し行なった。

情報科学センター

学術情報センター長 伊藤 稔

情報科学センターには、「教育・研究部門」と「機器運用部門」の2つの部門がある。教育・研究部門では、学術交流に関する講演会、全学生対象のネットワーク講習会などを行っている。機器運用部門は、校内の教育、研究および業務において使用するサーバやネットワーク機器類の維持管理と教育用電子計算機システムの運用を行っている。

1. 教育・研究部門

■ 学術情報センター講演会

情報科学センターでは産官学の技術交流の一環として、学内外の技術者や研究者が情報交換を行う場とし、年に1回の講演会の企画・開催を行なっている。

第46回学術情報センター講演会（令和4年11月24日（金）13:30～15:30）

- ・自然科学部門 馬越 春樹 助教
「現代数学に於ける非線形反応拡散方程式系の解析学 ～位相の紹介を中心に～」
- ・建設システム工学科 中尾 尚史 講師
「激甚化する災害における橋の対策 ～地震及び津波に対する橋の戦略～」



■ ネットワーク利用講習会

情報科学センターでは、毎年、全学生を対象にネットワーク利用講習会を行なっている。今年度は、1年生については対面での講習会とeラーニングコンテンツの併用、2年生以上についてはeラーニングコンテンツを利用した講習会を実施した。ほとんどの学生が真面目に取り組んでくれた。明らかになった問題点など、次年度以降の講習会に反映し、よりよい講習会に改善していきたいと考えている。

2. 機器運用部門

■ 教育用電子計算機システムの管理・運営

現在稼働中の教育用電子計算機システムは、平成29年3月に更新され6年が経過した。特に大きなハードウェア・ソフトウェア障害は発生しておらず、業者によるバックアップの調整と、ソフトウェアインストール依頼によるイメージ修正を3回ほど実施した。また、センター改修に合わせ演習室の全端末を図書館棟へ移設、改修後には再び演習室へ移設する作業が実施されたが、これに付随する障害も特になく、安定稼働している。

次年度は、次期教育用電子計算機システムの仕様策定を夏までに完了し、令和6年度当初からの運用開始に向け作業を進めていきたい。

■ 校内LAN基幹システムの運営

校内基幹LANシステムが更新されて4年が経過した。これまで大きなトラブルもなく安定して稼働しており、今年度も大きな障害は発生しなかった。

次年度は、次期校内LAN基幹システムの仕様策定を夏までに完了し、令和6年度当初からの運用開始に向け準備を進めていきたい。

■ 高専統一ネットワークシステム

このシステムは、高専機構のスケールメリットを生かし一括調達されたネットワークシステムであり、ファイアウォールやスイッチ、無線アクセスポイントを含むネットワーク機器と配線、そしてDNSやDHCP、認証などを担うサーバ群が含まれる。当初は夏休み期間中に更新予定であったが、業者側都合により、令和4年12月28～30日の年末に新システムへの更新作業を行うこととなった。新システムでは、すべてのユーザの校内ネットワークへの接続に802.1x認証が必須となった。なお、研究室に設置されている無線アクセスポイント配下の機器については、無線アクセスポイントのMACアドレス認証で対応した。本原稿執筆時点では、校内ネットワークへの接続などに調整中の部分も残っているが、次年度の夏休み期間中までに調整を完了する予定である。

■ SINET6への移行

SINETへのアクセス回線は昨年度に共同調達されたものの、諸般の事情で切り替えが今年度に持ち越しとなっていた。6月末には、アクセス回線の切り替えとSINET6への接続が無事に完了した。

■ 遠隔授業への対応

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業が実施された。全教職員が遠隔授業の実施や授業コンテンツの作成、学校運営に様々な工夫を凝らして取り組む中、センターとしては各種サービスに関する問い合わせやトラブルへの対応を行なった。また、令和2年度補正予算で購入したSurface Pro 7については、学生や教室利用での貸し出し、保守・管理を学生課教務係と連携して行い、有効活用することができた。

■ Moodleサーバの運用

舞鶴高専ではコロナ禍以前より公式LMSとしてMoodleを運用してきた。このようなことから、各教員が授業資料の公開などにMoodleを幅広く活用していた実績もあり、遠隔授業への対応も比較的スムーズに行えていた。さらに本年度より、遠隔授業などICTによる学習支援の強化も兼ねMoodleサーバの増強も行なった。また、入学前ICT教育など幅広い場面でMoodleを活用する場面が多くなっていた。しかし次年度からは、高専機構共通LMSとしてWebClassが導入されることとなり、本校のLMSもWebClassに移行することとなった。次年度は、Moodleサーバの今後の運用について関係部署と協議しながら検討を行う予定である。

3. その他

■ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

今年度も、マスク着用や手指のアルコール消毒、出入り口や窓の常時開放による換気などの感染予防対策を行なった。また、コンピュータの使用前に学生が自分で消毒できるように除菌シートを演習室に常備した。

■ 情報科学センター改修

情報科学センターの改修工事が令和4年8月末から令和5年3月末にかけて行われた。工事期間中は、情報科学センターのサーバ以外の機能を図書館3階のマルチメディア教室およびマルチメディアスタジオに移設し対応した。今回の改修に合わせて演習室の音響機器などについても更新を行なった。なお、改修後は情報科学センターの旧準備室が教育研究支援センター職員の部屋として運用されることとなった。このため情報科学センターで管理している保守備品等の搬入先について不確定な状況が発生していることが懸念材料である。しかし、次年度からは

新しくなった環境で学生が気持ちよく勉学に励んでくれることを期待しており、情報科学センターとしても強力にサポートしていきたい。



■ 令和4年度近畿地区高等専門学校情報処理教育連絡協議会

今年度は、神戸市立高専の主幹でMicrosoft365 Teamsによるオンライン開催で行われた。各高専の情報部門の運営、遠隔授業対応などの新型コロナウイルス感染症対策について意見交換を行なった。来年度は奈良高専の主幹で開催される予定である。

日 時：令和4年9月9日（金）13:30～

場 所：Microsoft365 Teamsによるオンライン開催

参加校：舞鶴高専、明石高専、奈良高専、和歌山高専、大阪府立大学高専、神戸市立高専、近畿大学高専

■ 令和4年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会

今年度は、以下の内容でオンラインで開催された。

日 時：令和4年12月13日（火）10:50～15:50

場 所：Microsoft Teamsによるオンライン形式

内 容：高専統一業務システム・高専統一認証システムについて
情報システム台帳について（情報システム台帳の活用方法について）
情報セキュリティインシデントにかかる対応方法について
サイバー空間をめぐる驚異の情勢について
高専機構で起こったインシデントとその対応事例について
現在行っている業務について（現在各高専にお願いしている事項）

教育研究支援センター

教育研究支援センター長 谷川 博哉

教育研究支援センターでは、昨年度に引き続いて、教育研究の支援ならびに地域貢献等に関連して、さまざまな取り組みを行った。人員関係では、令和4年3月末で福井技術長が退職し、後任に令和4年4月から足立技術職員が新規採用され、現在、常勤11名、再雇用1名体制で職務を遂行している。また、令和4年度国立高等専門学校職員表彰では、日頃の研鑽により、石井技術専門職員が理事長賞を受賞し、本校にとっても大変栄誉となった。

以下に、本年度に技術職員が取り組んだ活動および成果について報告する。

1. 教育研究支援

本年度も昨年度までと同様に、実験・実習を中心として教育研究支援の役割を果たしてきた。本年度も新型コロナウイルス感染症の影響下での授業となったが、実験・実習については概ね対面授業の形で実施することができた。

また、各学科で行われている出前授業や公開講座などの地域貢献や学校PR事業も多数支援し、学科・学校運営に大きく貢献している。

2. 学生の出欠管理システムについて

出欠管理システムは、本センターの技術職員が作成したものであり、出席簿ファイルの作成や保護者の登録アドレスの管理などを含めて運用・保守を行っている。認証が必要なWeb上に置かれた学年ごとの出席簿ファイルに、それぞれの科目担当者が授業ごとに学生の出欠を入力する。このファイルを見れば、クラス担任や教務関係の教職員は、学生の全科目についての出欠状況を把握できるようになっている。また、学生が自分で欠席理由を登録するための欠席登録フォームも運用されている。出席簿ファイルと欠席登録フォームに入力された情報に基づいて、始業時のショートホームルームを無断欠席した学生に対して、欠席確認のメールが自動送信される仕組みになっている。安否確認の意味もあり、クラス担任と保護者にも送信される。令和4年度からは、当日1科目でも欠席が登録されている科目がある学生に対して、欠席が登録されている科目の一覧を18時にメール送信する機能が追加された。

3. 公開講座・出前授業

本年度は、小中学生向けに公開講座を5回、出前授業を3回実施した。講座の新たなテーマとして、教育版マインクラフト（Minecraft Education Edition）を用いたプログラミング講座に取り組んだ。本講座は小中学生に親しみのあるマインクラフトを用いて、プログラミングにおける順序処理、繰り返し処理、条件分岐などを体験する内容になっている。



マインクラフトは、ブロックを組み合わせて自分の世界を作り上げるゲームであるが、教育版はブロックを組み合わせてプログラミングを行う要素を取り入れることができるため、抽象的なプログラミング言語に比べて、初心者でも理解しやすく、小中学生にとって初めてのプログラミング学習に適したツールとして注目されている。また、エージェントと呼ばれるキャラクターをプログラミングによって操作ができる機能もある。小学生を対象にした講座では、エージェントの基本的操作を学習し、移動や壁の掘削、素材の回収などを行う課題に取り組んだ。中学生を対象にした講座では、エージェントが効率

的に素材を掘削するために自動化する課題を設定した。参加者のほとんどがマイクラフトに慣れ親しんでおり、講師側が想定しなかったアイテムやテクニックで課題をクリアするなど、お互いに学べた内容になった。

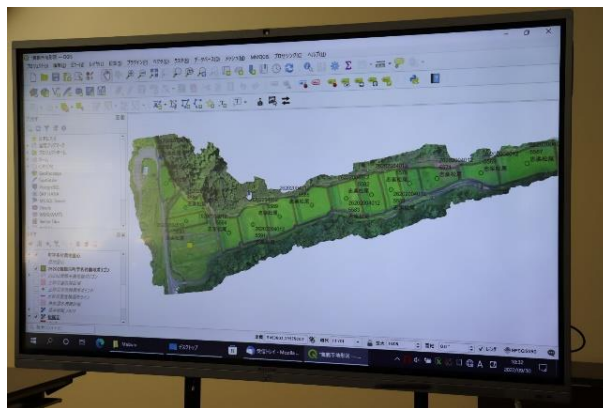
プログラミングの基礎的な概念や構文を理解する必要があるため、マイクラフトだけで本格的なプログラミング学習の代替とすることは難しいが、Python、JavaScriptでもプログラミングができる機能もあるため、来年度の中学生向けの講座に発展できればと考える。

4. 地域連携（地域貢献）受託研究

本年度、西村良平技術専門職員は、舞鶴市からの受託研究を受け「遊休農地対策（農地利用状況調査）」に係るドローン活用研究」についての研究を行った。農地利用状況調査は、農地法に基づき、毎年市内全域の農地の利用状況を目視により確認しており、夏の酷暑のなか紙の地図をもって農地を1筆ごとに確認して歩くことは体力的にも厳しく、時間を要している。そこで、調査にドローンを用いることで労力・時間の省力化を図ることを目的に研究を行った。

8月に舞鶴市内の8区域でドローンを飛ばし、静止画・動画の撮影を行った。撮影された画像をもとに判定を行い、目視で行われた調査と比較した。判定では境界の判断が難しく、地番の突合に時間がかかるなどしたが、高い正確性を得ることができた。

来年度はGISソフトを用いることで、地番の突合や調査結果の管理を行えないかの検討を行うと共に、AIを用いた画像診断による判定についても着手していく予定である。



5. 表彰・受賞

石井貴弘技術専門職員が、令和4年度国立高等専門学校職員表彰において「各種学務業務用システムの構築と運用による業務の効率化」の題目で理事長賞を受賞し、令和5年2月2日（木）には学術総合センターで表彰式が行われた。

職員表彰は、業務改善、教育支援業務・研究支援業務・学生支援業務等において、特に高く評価できる成果が認められる職員を表彰することにより、職員全体の職務遂行意識の高揚を図ることを目的として、平成23年度から実施されている。

石井技術専門職員は、主業務は情報系でないものの、長年にわたり教務や学生支援、総務事務のデータ処理に関わる業務に協力しており、近年ではExcel、Excel VBA、SharePoint、Forms、Power Automateなどを駆使し、令和元年より出欠管理システム、令和2年より健康調査システムなどを構築・運用・保守している。

これらのシステムは、コロナ禍における出欠管理業務や健康調査業務の効率化に大いに貢献しており、また、得られた知見や技術を学内教職員向けに還元するだけでなく、他高専に向けた講習を実施するなど、これらの実績が高く評価されたものと思われる。



地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンター長 玉田 和也

地域共同テクノセンターは地域貢献活動の推進、および地域の企業や官公庁との連携の強化を目的として、種々の活動を実施しています。令和4年度の主な活動内容を以下に報告します。

1. 舞鶴高専地域テクノアカデミア

舞鶴高専地域テクノアカデミアは、本校と地域産業界の連携強化のために設立された企業団体で、地域共同テクノセンターはその活動推進を担当しています。

総会は、昨年度に引き続きオンラインで開催し、会員企業や地元自治体関係者及び本校関係者ら23名が参加し、昨年度の事業報告や今年度の事業について話し合われたほか、舞鶴高専の活動報告、内海康雄校長による「まいづる未来の海プロジェクトについて-概要とこれからの活動-」と題した講演が行われました。

また3月4日には、会員企業社員様を対象に「教養講座」をオンラインで開催しました。



オンライン総会の様子



内海校長による講演



「教養講座」チラン

第一部として、本校 大内真一郎講師による「ボブ・ディランの質問と回答」、第二部として、牧野雅司准教授による「近世日朝間における文字コミュニケーション」と題した講演が行われました。



大内講師による講演



牧野准教授による講演

2. 研究グループの構築

高専全体の運営交付金の減額が続く状況において、外部資金を獲得することは不可欠となります。また充実した教育を行うためには、教職員が関係する分野における科学・技術や教育方法などの研究が必要です。本校においては、これまでに外部資金の獲得のため、科研費の申請書へのアドバイス、教員とKRAとの研究テーマについての面談、研究推進・産学連携本部が行う研修会への参加などを行ってきました。

今年度は、「研究グループ形成支援事業」の運用上の見直しを行いました。その内容は、コロナ禍における旅費の取扱い、申請様式の2段階化（1段目はポンチ絵、2段階目は科研費申請書書式）、支援金額の予算内での上限値撤廃等を行いました。これにより、研究のスタートアップと科研費申請書作成に繋げることを目指しました。

研究グループ形成支援事業により、本校の研究活動の活性化（学会発表、論文掲載など）、外部資金獲得（国プロ、科研費、企業との共同研究、その他）の大幅向上を目的として、研究グループの形成および研究グループによる外部資金獲得に向けた支援を行いました。

昨年度採択された研究グループ形成支援事業4件の成果報告については地域共同テクノセンター運営会議にて講評を行いました。令和4年度についても研究グループ形成支援事業の募集を行い、6件の申請から4件が採択されました。

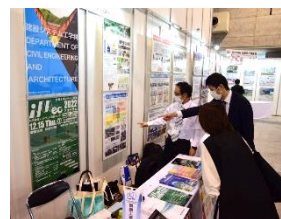
3. 展示会

舞鶴高専および教員の研究成果をPRするために積極的に展示会に出展しています。

(1) 建設技術展2022近畿 (11月9日, 10日)

「インテックス大阪」にて開催された建設技術展2022近畿に学校ブースを出展しました。今年度の建設技術展は、ブース数270 (内、学校13ブース)、来場者数延べ16,595人でした。民間企業の出展が増え、防災・維持・更新技術のブースが盛況でした。

舞鶴高専の学校ブースでは、学校紹介、学生募集、学科紹介、iMecの紹介などのパンフレットの配布を行いました。多くの進路先企業の皆様と情報交換を行うとともに、舞鶴高専の卒業生がブースにたくさん足を運んでくれました。



(2) 京都ビジネス交流フェア2023 (令和5年2月16日, 17日)



「京都パルスプラザ」にて、令和5年2月16日, 17日に開催された京都ビジネスフェア2023にて産学連携展示しました。次世代のビジネスを見据え、大学・高専が進める「ヘルスケア」「環境」「DX」関連の他、「デザイン」に関する、「産学連携事例」や「研究シーズ」展示を行いました。19大学・高専が、産学連携に興味を持つ企業様とのマッチングや連携創出、共同研究推進のため出展しました。今年度の参加者数は5,000人、出展者数173社18団体でした。

舞鶴高専のブースでは、研究・技術シーズ集、学校紹介、ナノテクノロジー教育センターなどのパンフレットと半導体人材育成基礎プログラムのチラシの配布を行いました。また、清原研究室で開発したポータブルコンパクト室温ナノインプリントシステムで形成したDLCマイクロギヤの展示を行いました。多くの企業の皆様と情報交換を行うとともに、舞鶴高専のOBがたくさん足を運んでくれ、高専でもこんな最先端な研究や半導体人材育成をしているのだと大変興味を持っていただきました。

4. 公開講座・出前授業

舞鶴高専では、地域貢献の重要な手段として、公開講座と出前授業に積極的に取り組んでいます。令和4年度は公開講座を75件、出前授業を53件実施しました。地域共同テクノセンターは公開講座・出前授業を管轄しており、今年度からは実施予定のチラシを6.5万枚印刷し、近隣の中学生全員に配布するなど活性化に向けた取り組みを行っています。



養父市立大屋中学校出前授業
「レオナルド・ダ・ヴィンチの橋を作ろう！」



公開講座「半導体
ナノテクノロジー体験教室」



公開講座「身近なものを使って
IoTを体験してみよう」

5. ナノテクノロジー教育センター (ntec)

5Gスマートフォン、AIロボット、データセンター、電気自動車、自動運転を始めとする最先端の技術が進むにつれて、ナノテクノロジーによって製造される半導体が搭載された電子デバイスの需要が年々急増しており、世界的な半導体不足が問題となっています。現在、半導体の受託生産において最大手である台湾のTSMCが熊本県に工場を建設しており、国内における半導体不足の解消に期待されているが、来年の稼働時に1,700名もの半導体エンジニアが必要としています。そのため佐世保高専では九州工業大学の設備を利用し、半導体人材育成のための実習が行われています。今後、九州、沖縄の9高専以外の高専においても半導体人材育成が求められるが、舞鶴高専ではナノテクノロジー教育センター等の半導体プロセス（前工程）に関わる設備が揃っています。そこで、これらの設備を用いて「半導体人材育成基礎プログラム」を実施し、小・中学生、本校学生を対象に半導体デバイスプロセス（前工程）の基礎知識について習得してもらうことで、半導体エンジニアの人材育成を行っています。

半導体ナノテクノロジーの基礎知識を学ぶためには、成膜、リソグラフィ、ドライエッチング、観察のプロセスが必要で、それに対応する装置として、ナノテクノロジー教育センターには真空蒸着装置、電子サイクロトロン共鳴（ECR）型イオンシャワー装置、走査型電子顕微鏡（電子ビーム描画可能）、走査プローブ顕微鏡などの装置がクリーンルーム（クラス1000）内に設置されています。

これらの機器を利用して、公開講座「半導体ナノテクノロジー体験教室」を令和4年11月3日（木）に開催しました。今回の公開講座では、清原教員と電子制御工学科5年生2人、同4年生5名（清原研究室所属）が、身近なところで活用されている半導体ナノテクノロジーの紹介、世界的半導体不足問題、半導体人材育成、室温ナノインプリントリソグラフィ、電子サイクロトロン共鳴（ECR）型イオンシャワー加工、デジタル光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡（SEM）でインプリント後のL&S・ドットやマイクロギヤの観察と測定を行いました。

清原研究室で開発・試作したポータブル室温ナノインプリントシステムを用いて、L&S・ドットの転写パターンの形成を行いました。その後、ECR型イオンシャワー装置を用いて加工し、DLCのパターンをスマートフォンを用いたデジタル光学顕微鏡で観察し、SEMで線幅と歯先円直径の測定を行いました。また、皆さんには、半導体プロセスの前工程として、ウェハ洗浄、リソグラフィ、ドライエッチング、パターンの観察測定の基礎プログラムを習得することができました。



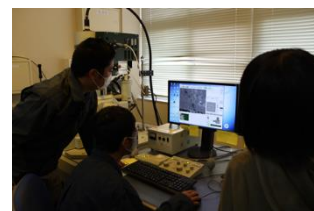
液相室温ナノインプリントによるDLCのパターン形成



クリーンルームでDLC膜のECRイオンシャワー加工



光学顕微鏡でL&S・ドットとマイクロギヤの観察



走査型電子顕微鏡でDLCパターンの計測

専攻科2年生は特別研究、専攻科1年生は特別研究基礎、5年生は卒業研究、また学会発表や展示発表などを行うためにナノテクノロジー教育センターを利用しています。

清原研究室では、産学官共同研究の下でPDMSモールドを用いた超音波振動液相室温ナノインプリントによるダイヤモンドライクカーボン（DLC）ドットアレイやマイクロギヤの作製やダイヤモンド工具のリアクティブイオンビーム加工による再生を行っており、ECR型イオンシャワーによるDLC膜の加工や転写パターンやイオンシャワー加工後のDLCパターンの観察に走査プローブ顕微鏡を使っています。この得られた研究成果は、精密工学会、電気学会、THE高専@SEMICON Japan 2022にて発表しました。

石川研究室では、有機EL材料を応用した有機放射線検出器の開発を行っており、真空蒸着装置を用いて有機デバイスを作製しています。

内海研究室では、表面プラズモン共鳴吸収を利用したカラーフィルタ、シリコン太陽電池および半導体教育用ショットキーバリアダイオード教材の開発を行っています。また、これらの成果については応用物理学会で発表しました。

小林研究室では、電子ビーム描画により作製したナノ構造を使って、ナノ構造周りの流れの様子を明らかにしようとしています。

西研究室では、遷移金属酸化物で構成される抵抗変化メモリを作製しその電気的特性を評価しています。酸化タンタルを用いた抵抗変化素子の研究を行っている専攻科2年生は、高専学会や応用物理学会など3件の対外発表を行い、高専学会では優秀ポスター賞を受賞しました。

今後、ナノテクノロジー教育センターは、半導体ナノテクノロジーの基礎知識の習得の場として、また京都府北部の中小企業に対して最先端のナノテクノロジー（超微細加工技術）に触れる場として産学共同研究の拠点となることを望んでいます。

6. 知的財産セミナー

地域共同テクノセンターでは、本科4年生を対象とした知的財産セミナーを令和4年7月11日（月）に開催（7,8時限E・C, 9,10時限M・S）しました。

弁理士 大西正夫氏にNFT（Non-fungible token）の方向性、TSMC（台湾集体电路製造）[世界最大の半導体受託製造企業]の知財戦略、ドローンの出願の方向性、ウィンドサーフィンに関する訴訟、ノーベル賞と特許、建築物の意匠登録、話題の商標について講義をしていただきました。

技術者として最低限知っておくべき知的財産に関する基礎知識を話題の技術を例として学びました。非常に興味深く聞き入る学生が多く、積極的に知財に関するクイズに解答する多くの学生たちの姿が見られました。



社会基盤メンテナンス教育センター（iMec）

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

安全・安心な暮らしには、橋梁やトンネル、高速道路等の社会基盤（インフラ）の適正な維持管理が不可欠です。インフラの老朽化が全国的に問題となる中、市町村では技術力不足のため適切な維持管理が困難な状況にあります。『建設』から『維持管理』へ思考を転換し、インフラの維持管理や修繕等に対応できる人材の育成が急務となっています。

iMecでは、全国の建設系の高専生、行政機関技術職員、民間企業技術者等を対象に、地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラムを実施しています。今後もインフラメンテナンス技術者の育成にますます尽力するとともに、予防保全の中核的施設として地域固有のニーズに応え、地域社会に貢献してまいります。

1. 社会基盤メンテナンス教育センター（iMec）講習会

e + iMec講習会では、事前学修として講習会2週間前よりeラーニングを行い、iMecでの講習会は体験型学修に重点を置いてアクティブ・ラーニングを行うことで、効率的かつ効果的な教育を行っています。学修ニーズに対応して、橋梁点検、橋梁診断、専門特修講座（構造物の詳細調査、橋梁長寿命化対策、施工技術と施工管理、建設ICT）、地盤と斜面、コンクリートの品質管理の講習会を実施しており、今年度はe + iMec講習会を19回開催し、168名が受講しました。また、令和5年3月末時点での累計受講者数は、1528名です。

橋梁メンテナンス技術者育成のステップアップ型教育プログラムとして、基礎編（橋梁点検）、応用編（橋梁点検）及び橋梁診断講習会を実施しており、講習会修了後に実施する技術資格認定試験の合格者には、（独）国立高等専門学校機構として技術資格（准橋梁点検技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者は国土交通省登録資格）を認定しています。令和5年3月末時点での資格登録者数は、准橋梁点検技術者568名、橋梁点検技術者は67名、橋梁診断技術者は3名です。

“e + iMec講習会”

舞鶴工業高等専門学校公開講座

produced by Infrastructure Maintenance Educational Center



～地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラム～

eラーニングと講習会を組合せたアクティブ・ラーニング（能動的学修）

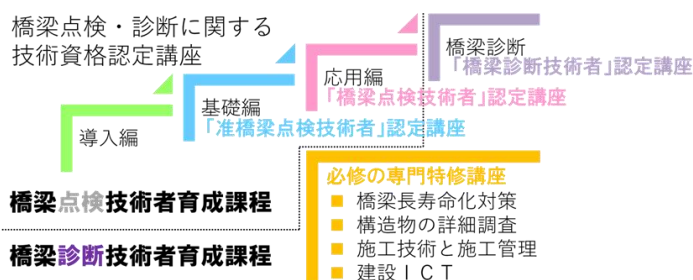
オンデマンド型自己学修支援システム

- ・講習会前の事前学修
- ・講習会後の継続学修

e-learning + iMec
Active-Learning

社会基盤の維持管理に関する実践的教育施設で座学と体験型学修による効果的な教育を実施

《橋梁点検技術者育成のためのステップアップ型教育プログラム》



	開催概要	受講実績 (R5.3月末)		
基礎編	毎年度10回程度 4月～12月に開催 (月1・2回程度) 2日間講習@iMec	行政	264人	1164人
		民間	753人	
		学生	147人	
応用編	毎年度2回程度 8月～9月に開催 3日間講習@iMec	行政	23人	144人
		民間	121人	
橋梁診断	毎年度1回程度 12月～1月に開催 2日間講習@iMec	行政	2人	14人
		民間	12人	

- （独）国立高等専門学校機構認定技術資格（『准橋梁点検技術者』、『橋梁点検技術者』及び『橋梁診断技術者』）を取得可能
- 『橋梁点検技術者』は国土交通省登録資格（品確技資第170号・品確技資第183号）
- 『橋梁診断技術者』は国土交通省登録資格（品確技資第336号・品確技資第342号）

技術資格認定登録状況 (R5.3月末)

准橋梁点検技術者 568人 橋梁点検技術者 67人 橋梁診断技術者 3人



2. 橋梁診断技術者育成課程、及び、実務家教員育成研修プログラム

i M e c では、4つの専門特集講座【構造物の詳細調査】、【建設ICT】、【橋梁長寿命化対策】、【施工技術と施工管理】と橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】から成る『橋梁診断技術者育成課程』と、建設（社会基盤の整備及び維持管理）を専門領域とする実務家教員を育成する『実務家教員育成研修プログラム』を実施しています。今年度、これら2つの課程が、『職業実践力育成プログラム（BP）』文部科学大臣認定課程、及び、『特定一般教育訓練給付制度』厚生労働大臣指定講座に認定されました。



国際交流センター

国際交流センター長 藤田 憲司

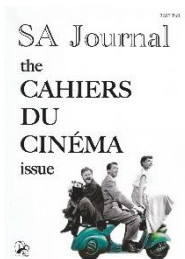
1. 国際交流センターの運営

国際交流センター運営委員会のメンバーおよび業務分担は以下のとおりである。

氏名	業務分担	備考
藤田 憲司	統括, e インターンシップの連絡調整, KMITL との連絡調整, 研修旅行訪問大学との連絡調整, ポーツマス大学との連携	国際交流センター長
大内 真一郎	国際交流学生大使 (SA) 指導	人文科学部門
Jimmy Aames	研修旅行訪問大学との連絡調整, 学生交流プログラム作成および学生指導	人文科学部門
喜友名 朝也	留学支援	自然科学部門
豊田 香	海外研修旅行訪問企業との連絡調整, 留学支援 (高学年)	機械工学科
竹澤 智樹	海外研修旅行訪問企業との連絡調整	電気情報工学科
清原 修二	海外研修旅行訪問企業との連絡調整	電子制御工学科
渡部 昌弘	海外研修旅行訪問企業との連絡調整, KMITL 研修生受け入れ次年度担当学科との連絡調整	建設システム工学科
増永 武夫	事務手続きの承認	総務課長
下元 利之	事務手続きの承認	学生課長
田中 智也	事務手続きの実施	学生支援係長
嵯峨 信子	事務手続きの実施	学生課職員

2. 国際交流センターの活動概要

- ① 海外協定校からの短期研修生受け入れ (キングモンクット工科大学サマートレーニング)
前年度に引き続き, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れ中止となった。代替措置として e インターンシップの受け入れを申し出たが, 参加希望者はいなかった。
- ② 海外インターンシップ
前年度に引き続き, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため派遣中止となった。代替措置として KMITL から e インターンシップの提案があり, 専攻科 1 年生 1 名が参加し, 4 週間の研修プログラムを終了した。
- ③ 海外研修旅行
新型コロナウイルス感染拡大防止のため国内での実施となった。
- ④ 留学支援
・ AFS 留学プログラムに 2 年生 1 名が申請し, 採用となった。
- ⑤ その他の活動
・ SA メンバーが「SA Journal」第二号を発刊した。



知的財産委員会

知的財産委員会委員長 玉田 和也

本校に所属する教職員等が、職務発明等を創出した場合、又は職務発明等の可能性があると思料される発明等を創出した場合、知的財産委員会へ発明等届を提出することとなっています。

今年度、知的財産委員会では、本校教員が発明者となっている特許の年金納付について審議を行いました。

1. 知的財産委員会の開催と審議内容について

○第1回知的財産委員会 令和4年5月25日（水）

・特許の年金納付について

届出者 内海 康雄

発明等の名称 情報処理システム

○第2回知的財産委員会 令和4年9月28日（水）

・特許の年金納付について

届出者 内海 康雄

発明等の名称 環境総合制御システム

生 命 倫 理 委 員 会

生命倫理委員会委員長 玉田 和也

生命倫理委員会は、本校教職員が行うヒトを対象とする研究に対し、人間の尊厳及び人権が守られ、研究の適正な推進が図られるようにすることを目的としています。今年度は以下の日程で開催しました。

1. 生命倫理委員会の開催と審議内容について

○第1回生命倫理委員会：令和4年5月25日

・研究計画の倫理審査について（4件）

申 請 者 徳永 泰伸

研究課題名 「建築音環境に関する研究」「建築視環境に関する研究」「建築複合環境に関する研究」
「建築環境下における在室者の心理・生理状態に関する研究」

○第2回生命倫理委員会：令和4年12月26日

・研究計画の倫理審査について（1件）

申 請 者 森 健太郎

研究課題名 「VRを利用した教育システムの開発」

○第3回生命倫理委員会：令和4年12月19日（書面審議）

・研究計画の倫理審査について（1件）

申 請 者 丹下 裕

研究課題名 「深度センサ搭載のスマートフォンを活用した
視覚障害者向け障害物検出システムの開発」

情報セキュリティ推進委員会

情報セキュリティ推進委員会委員長 伊藤 稔

情報セキュリティ推進委員会は、本校の情報セキュリティに関わる専門的及び技術的問題の審議と、情報セキュリティの推進を行うことを目的にしている。

1. 情報セキュリティ監査

機構本部による情報セキュリティ監査が今年度 11 月に実施された。前回監査の指摘事項に対しては適切に対策を行ってきたが、今回の監査では監査項目も増えたこともあり、新しく 5 点の指摘事項があった。対策が簡単な事項については、今年度中に対策を行ったが、学校全体で検討する事項については、情報セキュリティ管理委員会と連携しながら、規程や実施手順書を整備していきたい。

2. インシデント対応

残念ながら、今年度も 3 件のインシデントが発生した。それぞれの事案について再度の注意喚起やセキュリティ講習会などを行うなどの対応を行ってきた。ただ、12 月にインシデントが 2 件連続して発生したこともあり、機構本部より定期的な注意喚起の必要性が指摘された。このため、次年度からは高専 CSIRT の協力で教職員向けの情報セキュリティ講習会を実施する予定である。

3. メール誤送信防止機能のインストールと自動補完機能の無効化

7 月に発生したインシデントへの対応として、教職員が業務で使用する電子メールアプリケーションにメール誤送信防止機能のインストールを行なった。なお、メール誤送信防止機能のない電子メールアプリケーションについては使用を禁止した。また、メールアドレスを自動的に補完して入力する機能についても無効化を行なった。

4. 高専統一パスワードポリシーの更新

機構本部より、昨今のサイバー攻撃等の手法に対応するため、新しい高専統一パスワードポリシーについて周知とパスワード変更を今年度中に行うよう指示があり、舞鶴高専においても対応を行なった。

5. サイバーセキュリティ関連規程の改訂

高専機構における情報セキュリティポリシーの上位規則ならびにひな型の改定に伴い、本校の規程類も大幅に見直し、修正を行なった。

6. IT 資産管理

高専機構では、IT 資産管理ソフトウェア（ASSETBASE）を使用しソフトウェアを含む情報資産の管理を行っており、ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェアライセンスの検査結果を毎年報告することになっている。今年度も、教職員の協力のもとに検査報告を完了することができた。また、今年度から新しく情報システム台帳の整備が高専機構から求められていたが、情報システム台帳の整備も無事に完了することができた。次年度からは、台帳情報の更新を随時行い情報資産の適切な管理に努めていきたい。

評 価 委 員 会

評価委員会委員長 奥村 昌司

1. 自己点検・評価の実施

令和3年度の本校の年度計画と実績について自己点検・評価を実施し、すべての項目が計画通りに活動されていることを確認した。またこの結果を本校ホームページに「年度計画の実績報告」として公表した。令和3年度から学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価として、認証評価機関が定める高等専門学校評価基準に基づき作成した点検項目について自己点検・評価を実施している。点検の結果、対応が必要な事項については対応を行った。また結果を本校ホームページにて「自己点検評価書」として公表している。今後これらの点検項目について定期的に自己点検・評価を行うとともに、改善点が挙げられた場合には改善状況を確認する。

2. 外部評価委員会の開催

令和4年度の外部評価委員会委員は下記の学外有識者の皆様に就任していただいた。

長岡技術科学大学	学長	鎌土 重晴 氏
和歌山工業高等専門学校	校長	北風 幸一 氏
株式会社日進製作所	人事部長	室田 真司 氏
舞鶴市中学校長会	会長	秋原 栄人 氏
舞鶴市政策推進部	部長	有吉 央顕 氏
京都新聞舞鶴支局	支局長	長尾 康行 氏
舞鶴工業高等専門学校後援会	会長	松井 恵子 氏

当初、令和5年1月26日(木)に対面で外部評価委員会を実施する計画であったが、大雪のために延期となり、3月23日にTeamsによるオンライン会議として実施した。議題は以下の4項目で、学校長ならびに本校の各担当教員から状況説明を行った。

- ① 高専の概要と舞鶴高専について（内海康雄 校長）
- ② 検討課題の状況及び舞鶴高専の自己点検について（奥村昌司 評価委員会委員長）
- ③ 外部評価[1]入試状況について（川田昌克 教務主事）
- ④ 外部評価[2]地域貢献活動について（加登文学 専攻科長）

外部評価委員会の指摘検討事項とその対応状況は本校ホームページに掲載される予定である。

3. 数理・データサイエンス・AI教育プログラムにかかわる自己点検評価について

本校では、令和4年度以降に準学士課程第1学年に入学するすべての学生に対し、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育プログラムを実施している。そのための自己点検評価をおこない、ホームページに公開した。

資料部会

資料部会部会長 宝利 剛

本部会は、評価委員会の下部組織として、評価のもととなるアンケートの実施、資料の収集・保管を主として行っている。今年度の部会構成員（協力職員を含む）と役割分担は表1のとおりである。

表1 FD・ICT部会構成員と役割分担

氏 名	所 属	主たる役割	氏 名	所 属	主たる役割
宝利 剛	自然科学	全体の連絡・調整	四蔵 茂雄	建設システム	授業アンケート
喜友名 朝也	自然科学	入試分析 授業アンケート	増永 武夫	総務課	総務課連絡調整
エイムズ ジミー	人文科学	入試分析 新入生アンケート	下元 利之	学生課	学生課連絡調整
豊田 香	機械	授業アンケート 新入生アンケート	芦田 康弘	総務課	全体事務の掌握、連絡調整
室巻 孝郎	機械	入試分析 授業アンケート	石井 貴弘	支援センター (協力)	授業アンケート 設定及び集計
内海 淳志	電気情報	在校生アンケート 授業アンケート	金丸 亮太	教務係 (協力)	授業アンケート 設定補助
高木 太郎	電子制御	卒業生・修了生アンケート 授業アンケート			

1. 授業アンケート・達成度評価の実施

昨年度より、授業アンケートの実施及び回答の集計を資料部会で実施している。今年度も全科目に対して授業アンケートを実施した。

昨年度に引き続き、アンケート回答率の向上を図り、前後期とも、到達度確認期間中からアンケートに回答できる環境を構築した。また、学生の授業アンケートに対する関心を促すため、回答集計結果の一部（全科目の結果と自学自習時間に関する結果）を学生に公開した。

前期授業アンケートは、令和4年9月12日（月）～26日（月）の期間で実施した。回答率は83%で前年度の80%から3%向上した。後期授業アンケートは、令和5年2月14日（火）～22日（水）の期間で実施したが、回答率が悪かったため回答期限を3月3日（金）まで延長した。回答率は77%で、前年度の82%から5%減少した。

今年度より、本校施設の利用状況及び満足度の把握のため、施設利用満足度調査に関するアンケート項目の追加を行った。

2. 在校生に対するアンケート

新入生に対して、入学動機、AP適合度合、入学前ICT授業に関するアンケートを令和4年4月14日（木）～19日（火）の期間で実施した。卒業（修了）する5年生（専攻科2年生）に対しては、満足度・達成度、DP適合度合に関するアンケートを令和5年1月16日（月）～27日（金）の期間で実施した。また、在校生全員に対して、学びの状況調査を令和4年10月9日（月）～31日（火）の期間で実施した。本部会ではこれらのアンケートに対する回答を集計し、集計結果を関係部署に共有している。

3. 資料の収集・保管

上記のほか、評価のもととなる資料を関係部署より収集し、保管している。また、必要に応じて、収集した資料を再集計し、関連部署に情報を提供している。

広 報 委 員 会

広報委員会副委員長 小野 伸一郎

1. 広報委員会の活動概要

広報委員会は、委員長を校長，副委員長を総務担当副校長とし，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，学術情報センター長，ホームページ部会長，入試広報部会長，事務部長，総務課長，学生課長が委員として構成されている。

「学校概要」，「学校だより」，「年報」といった刊行物は学術情報センター運営委員会が，ホームページの運用などについては同委員会ホームページ部会が所掌しており，志願者数確保のため，入試委員会の下に入試広報部会が設置されている。本委員会において，学術情報センター長，ホームページ部会長および入試広報部会長が，活動方針などを報告する。

2. 広報委員会での報告事項

学術情報センター

今年度の刊行物の発刊に関して報告があった。また，新型コロナの影響により学校行事が中止となったことを受けて発行を取りやめていた学校だよりの秋号について，今年度の状況を注視しながら発行できるか検討していくことが説明された。

ホームページ部会

令和3年度のホームページ部会の取り組み，学校ホームページのページ一覧と担当部署，パノラマ学校紹介について報告があり，ホームページの写真を来年度更新するよう準備を進める予定であることが説明された。また，ホームページに関して意見交換を行い，以下の事項を進めていくこととなった。

- ・News & Topics の記事のタグの種類が少なく，検索しにくいいため，タグを整理拡充する。
- ・学校公式 YouTube の公式ページにアクセスしにくい状況を改善する。
- ・学生活動等において顕著な実績があった際にトップページの写真を期間限定で特別なバージョンに置き換える運用ができるか検討する。
- ・トヨタ財団の助成を受けたプロジェクトについてコンテンツを掲載する。

入試広報部会

入試広報行事の日程，中学校校外学習の受け入れ，パノラマ学校紹介のホームページ公開，舞鶴高専便りの作成，メディアコンテンツの作成，舞鶴高専マスコットキャラクター作成に関して報告があった。また，プレオープンキャンパスに関連した広報活動について意見交換を行い，舞鶴会場における開催時に学寮の見学について対応できるよう調整することを確認した。

進路指導委員会

進路指導委員会 委員長
副委員長（就職）
副委員長（進学）

芦澤 恵太
高木 太郎
毛利 聡

1. 令和4年度の活動報告

1.1 主たる委員会報告事項、協議事項

○第1回進路指導委員会（令和4年4月1日）

- (1) 今年度の実施体制と方針確認 (2) 昨年度の報告 (3) 早期書類発送対応について
(4) インターンシップにむけて

○第2回進路指導委員会（令和4年6月29日）

- (1) 進路活動状況 (2) 予算計画
(3) 合同学校説明会・キャリアセミナーの開催方法について

○第3回進路指導委員会（令和4年7月27日）

- (1) 進路活動状況 (2) 企業面談対応について (3) 求人企業数の分析

○第4回進路指導委員会（令和4年9月14日）

- (1) 卒業生追跡調査について (2) 合同学校説明会・キャリアセミナーについて

○第5回進路指導委員会（令和4年10月27日）

- (1) 進路活動振り返り (2) 求人票の学内取り扱いについて
(3) 外部団体による就職セミナーについて

○第6回進路指導委員会（令和5年1月16日）

- (1) 予算執行状況 (2) 就職開拓について (3) 進路ガイダンスについて
(4) 進学合宿について

1.2 進路ガイダンス

今年度の進路ガイダンスの実績を表1に示す。昨年度行った遠隔方式（一部クラスには教室に中継）について検討を行った結果、進路ガイダンスは、同学年の学生が一堂に会し、お互いの顔を見合わせることも大事な刺激になるとの意見もあり、換気等の感染症対策に十分配慮した上で集合形式での実施とした。近年は、これまでの実績をもとに、年度当初に必要なタイミングを検討し、年間計画に従ってガイダンスを実施している。

1.3 合同学校説明会とキャリアセミナー

11月26日（土）に合同学校説明会を開催した。14校（2校は資料のみ）の大学・大学院大学に本校専攻科を加えて実施した。参加学生数は178名、約30名の保護者の参加もあった。キャリアセミナーについては、12月17日（土）、18日（日）の2日間で開催した。今年度は、外部団体主催の土木・建築業界セミナーが18日に開催となったため、出展企業の選定およびブース配置において高木副委員長には例年以上の負荷となった。17日に41ブース、18日は機電系のみで37ブースを設営した。参加学生数は、312名（事前登録者数）であった。昨年度に引き続き、感染症対策として出展企業数・一教室当たりのブース数を制限しての開催であったが、声掛けに対して低学年の多くの参加が望めない状況において、規模としては適切であったと考えている。

表1 進路ガイダンス

開催日	対 象	備 考
4月11日	1年生	新入生合宿研修における講話に代えて 「進路指導の現場から伝えておきたいこと」
5月12日 5月19日	4年生 3年生	進路ガイダンスを対面で実施 (学科毎教室に分かれ学科教員により実施)
6月 7日 6月15日	4年生 希望者	進路ガイダンス (2クラス毎) を実施 ガイダンス (学校説明会・キャリアセミナーについて)
7月29日	4年生	インターンシップ説明会・夏季休暇の心構え
9月20日 9月22日	2～4年生 3・4年生	編入学試験報告会 就職活動報告会
11月 2日 11月10日 11月28日	3年生 4年生 2年生	進路活動状況分析・学内イベントにむけて 進路活動状況分析・今後スケジュール・学内イベント 各学科5年担任からの2年生向けアドバイス
12月 7日 12月 8日 12月22日	3年生 4年生 4年生	キャリアセミナーに向けて (服装・携行品・質問準備) セミナー等での自己アピール方法 ガイドライン (進路アンケート・誓約書等) について
1月17日 1月23日	低学年女子 北部出身学生	進路選択におけるアンコンシャスバイアス 舞鶴立地企業・市役所による「舞鶴で働く」ということ
2月 3日 2月14日	5年生 4年 (就職)	働く前に知っておきたいストレスとの向き合い方 (北京都ジョブパーク様) 就職活動の心得 (自分の価値を認識しよう)
3月14日	4年 (進学)	受験計画の立て方

1.4 進路指導委員の派遣

- ◇ (R4年07月11日) 令和4年度工業団地立地企業と地元高校・大学等懇談会について
(京都府商工労働観光部産業立地課)
- ◇ (R4年11月10日) 企業採用担当者と大学等就職担当者を対象とした「講演会と懇談会」
(神戸雇用対策協議会, 東神戸雇用対策協議会, 兵庫県雇用開発協議会)
- ◇ (R4年11月17日) 北播磨地域の企業と大学との就職情報交換会
(兵庫県北播磨県民局県民交流室長)

1.5 進学合宿

毛利副委員長, 岡田教員, 宝利教員, 藤田教員が主となり, 令和5年3月14日～18日に編入学試験対策を主として合宿を実施した。初めての試みであったが20名を超える4年生が午前中には数学・物理の頻出問題に取り組み, 午後は各自の課題に取り組んだ。コロナ禍における春季休業の長期化に伴い昨年度から実施を試みている。運営に関わる教職員の業務負担を含め, 今後の実施に向けては改めて検討が必要である。

2. 令和4年度の進路状況

令和5年春採用生 (本科5年生) に対しては, 昨年度と比較して微増となる約850社からの求人票が届いた。令和元年春生に対しての約900社の求人に対し減っているように見えるが, 今年度の求人票のほとんどすべてが春に届いており (高卒も含む技能職を含む求人依頼は夏に届く), 令和に入ってから求人は高い水準で維持できていると考えている。就職希望者の比率は3年連続し約60%であった。進学を希望した学生は (昨年度, 本校において編入希望浪人1名と報告した学生も含め), 全員が合格した一方, 就職希望学生については1名を未定のまま送り出す形となった。

就職活動においては, WEBを利用した1次面談が定着した。WEB面談用に専攻科棟の施設 (会議室) を委員会として借り受けているが, 今後学内にその為のスペース・設備を充実させていくことが望まれる。エントリーシートや編入学願書の提出において, WEB上での処理を求められる比率が年々上昇しており, 今後に向けた大きな転換の年となったのではないかと考える。

学 生 相 談 室

学生相談室室長 岡田 浩嗣

1. 学生相談室スタッフ

本年度は、学生相談室長・岡田浩嗣（自然）のほか、田村修一（人文）、牧野雅司（人文）、木村健二（自然）、熊谷大雅（自然）、山田耕一郎（機械）、村上信太郎（機械）、井上泰仁（電気）、石川一平（制御）、毛利聡（建設）、岩木真穂（建設）、下元利之（学生課長）、田中智也（学生支援係長）、清水智苗美（看護師）、黒田友基（カウンセラー[精神科医]）、中川亜希（カウンセラー[臨床心理士]）、坂口なぎさ（カウンセラー[臨床心理士]）の体制で相談室を運営した。

2. 相談体制・相談件数

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の流行にともなう遠隔授業や臨時休校などの措置がとられ、カウンセラーの相談体制も適宜変更を余儀なくされた。学校・学寮生活におけるさまざまな制限に起因して、心身に不調をきたす学生が増えたこともあり、ひきつづき今年度も、臨床心理士のカウンセラーには週4日、精神科医のカウンセラーには月1回お越しいただいた。教職員の室員による相談も随時受け付けているが、その大部分は清水看護師に担っていただいている。

本年度の相談件数はのべ670件、うち教職員への相談件数が221件、精神科医への相談件数が7件、臨床心理士への相談件数が442件であった。通年で相談室が開かれていた一昨年度、特別運営となった昨年度と比べ、相談件数は増加している。

3. 「学校適応感尺度調査」の実施

今年度は、5月および12月の2度にわたり「学校適応感尺度調査」を実施し、学生が抱える悩みや問題の早期把握に努めた。「学校適応感尺度調査」の結果を踏まえて面談対象学生を選定し、担任・コース長または学生相談室員が面談を行った。面談を行った学生はのべ340名にのぼり、面談を経てカウンセラーへと繋いだ学生も複数存在する。

4. 教職員研修の実施ほか

本年度は、教職員を対象に以下の研修・講演を実施した。

- 4月1日（金）～ 担任による全学年対象担任面談に向けた研修動画
「学生との信頼関係構築のために」
講師：濱中ミオ・本田佑（仙台高等専門学校カウンセラー）
- 5月26日（木）舞鶴高専新任教職員向け研修
「学生のメンタルヘルスについて」
講師：坂口なぎさ（本校カウンセラー[臨床心理士]）
- 8月2日（火）令和4年度FD・ICT特別講演会（FD・ICT部会・学生相談室・学生委員会 共催）
「高専の学生支援の現状と学生からのSOSに対する組織的対応」
講師：鶴見 智（高専機構 理事/北九州工業高等専門学校 校長）
- 1月19日（木）教員職インターンシップ（男女共同参画室）
「学生相談室の役割と主な業務」
講師：岡田浩嗣（本校 学生相談室長）

5. 学生向けの活動

通常の相談業務以外にも、学生のストレス軽減を図るため以下の事業に取り組んでいる。

- 通年 フリーWiFi設置（安らげる場所の確保、於 図書館1階コモンスペース）
- 4月1日～ 全学年対象担任・コース長面談

- 4月11日（月）・12日（火）「舞鶴高専 PEER ～出会いと回復のピアプログラム～」
（新入生合宿研修代替 新入生研修において学生委員会を支援）
- 5月 ピア・サポーター（専攻科生 TA）による「放課後教室（前期中間）」での補助
- 5月16日（月）・23日（月） 2年生対象「メンタルヘルス講演会」
（中川カウンセラー[臨床心理士]）
- 11月 ピア・サポーター（専攻科生 TA）による「放課後教室（後期中間）」での補助

※ 昨年度に続いて今年度に関しても、コロナ禍の影響で「学生相談室 de ティータイム」は実施できなかった。

6. 各種研究会・研修会・協議会への参加

学生相談に関する研鑽を積むため、また他校との学生相談に関する情報交換のため、下記に示す各種研究会、研修会、協議会に参加した（[]内は参加者名）。

- 全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修 [岡田・清水]
9月14・15日（水・木）後日配信動画
- 日本学生支援機構オンラインセミナー「改正障害者差別解消法の施行に向けて」 [岡田・牧野]
11月1日（火）～ オンデマンド配信
- 近畿地区カウンセリング連絡協議会 [岡田・清水]
11月15日（火）オンライン会議
（事前提出の協議事項・承合事項に基づく情報共有、主幹校：奈良高専）
- いじめ防止に関する教職員研修会 [田中]
12月2日（金）

修 学 支 援 室

修学支援室室長 牧野 雅司

1. 支援室および支援委員会の体制

今年度の修学支援室は、室長の牧野雅司（人文）をはじめ、山根秀介（人文・教務主事補）、木村健二（自然・寮務主事補）、の教員2名、さらに特命教授・後野文雄（特別支援教育士スーパーバイザー）、特命助教・橋本茂の計6名で構成されている。

常勤教員の室員は、保護者・学生からの申し出があった際に、担任とチームを組んで、対応や合理的配慮に関する検討・調整をコーディネートする役割を負う。後野特命教授は、保護者・学生や担任からの個別相談に応じていただくほか、個別の事案について専門的知見をもとにご助言をいただいている。橋本助教には、中学校において通級指導教室などでの指導をなさっておられた経験を生かして、学生へのスキルトレーニングや定期的な面談を実施していただいている。

上部機関にあたる修学支援委員会は、修学支援室が検討した合理的配慮（または配慮が必要でない旨）に関する答申を踏まえ、本校としての意思決定を行う。

2. 活動実績

令和4年度の活動実績は、以下の通りである。

- ・修学支援室で対応した学生 9名
- ・後野特命教授による個別面談・助言等 延べ77件（保護者対応、学内協議・助言を含む）
- ・橋本特命助教による個別面談 対象学生 3名、のべ90回
- ・新規の合理的配慮 4件（試験時間延長、持病による寮室の配慮）

3. 学生対象講演会

4月12日（火）1年生対象人権教育「いじめ防止について」

講師：後野文雄先生

4. 研修・発表等

《教職員対象》

5～7月1・2年担任対象「気になる学生についての報告と対応について」

講師：後野文雄先生

※各教員個別に実施

《研修》

12月20日（火）令和4年度福知山市教育支援委員会 特別支援教育中高連携交流会

（於・市民交流プラザふくちやま）[牧野]

※今年度はコロナ禍の影響もあり、学外での研修に参加する機会は限られた。

入 試 広 報 部 会

入試広報部会部会長 丹下 裕

前年度と同様に、令和4年度も志願者の確保が本校の最重要課題となり、入試広報活動の充実が使命となった。4月以降も新型コロナウイルス感染症の流行下であったが、学校全体の協力を得て、下記のような活動を行った。

1. 学校説明会，プレオープンキャンパス

学校説明会の動画は、いつでも見られるようにオンデマンド配信とした。プレオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の流行下ではあったが、十分な感染症対策を行った上で従来通りの体験型とし、本校と京都で実施した。参加人数を表1に示す。（※オンデマンド配信の参加人数は、申込者数を生徒・保護者数にそれぞれ反映した。）

表1 学校説明会，プレオープンキャンパス参加者人数

開催日	場所	回数	生徒	保護者
R4. 4. 23（土）	オンデマンド	—	51	—
R4. 5. 22（日）	本校	2	87	85
R4. 6. 12（日）	オンデマンド	—	37	—
R4. 6. 25（土）	京都	1	47	41
R4. 6. 26（日）	京都	2	50	51
R4. 7. 10（日）	本校	2	66	63

2. オープンキャンパス

従来通りの対面・体験型のオープンキャンパスを実施した。新型コロナウイルス感染予防の観点から、次の条件を設けた。1) 1日の最大入場者数を320組に制限した。2) 体験授業の参加者数を1回20名とした。3) 昼食を提供しない。また、構内での食事を禁止した。ただし、自家用車以外で来校される方のみ昼食場所を提供した。参加人数を次の表2に示す。

表2 オープンキャンパス参加人数

開催日	総来場者数	保護者数	生徒数	中学3年生			中学2年生			中学1年生			高校生・小学生		
				全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
R4. 8. 6（土）	384	209	175	100	76	24	44	39	5	20	17	3	11	8	3
R4. 8. 7（日）	413	241	172	82	66	16	58	49	9	15	11	4	17	10	7
計	797	450	347	182	142	40	102	88	14	35	28	7	28	18	10

3. 中学校訪問

近年に入学者・受験者があった学校を重点に訪問を行った。訪問地域と校数は、舞鶴・京丹後・綾部・宮津・福知山・京都市・亀岡・滋賀・三田・川西の合計206校で、5月以降順次訪問した。

4. 中学校主催学校説明会

個別の中学校から合計17件の学校紹介の依頼を受け、説明会を行った。中学校説明会参加校名を表3に示す。

表3 中学校説明会参加校名

開催日	中学校
R4. 2. 8(火)	綾部市立豊里中学校
R4. 5. 27(金)	舞鶴市立城北中学校
R4. 6. 17(金)	湖南市立甲西北中学校
R4. 6. 21(火)	守山市立明富中学校
R4. 6. 24(金)	綾部市立八田中学校
R4. 6. 28(火)	舞鶴市立城南中学校
R4. 6. 29(水)	小浜市立小浜第二中学校
R4. 6. 29(水)	おおい町立大飯中学校
R4. 6. 30(木)	舞鶴市立白糸中学校
R4. 7. 1(金)	高浜市立高浜中学校
R4. 7. 5(火)	京丹後市立大宮中学校
R4. 7. 5(火)	舞鶴市立若浦中学校
R4. 7. 7(木)	若狭町立上中中学校
R4. 7. 14(木)	小浜市立小浜中学校
R4. 9. 2(金)	大山崎町立大山崎中学校
R4. 9. 16(金)	朝来市立生野中学校
R4. 10. 25(火)	高島市立湖西中学校

5. あやべ理工系ことはじめ教室

本校と京都工芸繊維大学が主催し、京都府と綾部市の共催で北部産業創造センター（綾部市）にて開催した。綾部市および福知山市の小・中学校にパンフレットを配付し参加者を募った。参加人数を表4に示す。

表4 参加人数

開催日	講座名	参加対象	生徒 (児童)	保護者
R4. 5. 14 (土)	本格派ロボットハンドを作ろう(本校)	中学生	25	23
	水中 UFO キャッチャーを作ろう (本校)	小5・6		
R4. 7. 24 (日)	水面の科学—マーブル染めにトライ！— (工繊大)	中学生	30	30
	太陽電池で遊ぼう！ (本校)	小5・6		
	科学折り紙を作ってみよう！ (本校)	小1～4	29	29
R4. 9. 25 (日)	ガラスと金属が握手—七宝焼きを作ってみよう！ (工繊大)	中学生	28	29
	作ろう！カラフルLED ランタン (本校)	小5・6		

6. 入試説明会

9～11月にかけて本校を始め、表5のような地域で中学生、保護者、中学教員、塾講師向け入試説明会を行った。

表5 入試説明会参加人数

開催日	場所	回数	生徒(教員)	保護者
R4. 9. 14 (水)	本校(教員対象)	1	14	—
R4. 9. 18 (日)	京都大学吉田キャンパス	1	22	22
R4. 9. 24 (土)	本校	1	21	21
R4. 9. 25 (日)	本校	1	14	13
R4. 10. 6 (木)	本校(教員対象)	1	5	—
R4. 10. 10 (月)	大津市ふれあいプラザ	1	25	23

R4. 10. 11 (火)	大津市ふれあいプラザ (教員対象)	1	10	-
R4. 10. 13 (木)	関電プラント(株) テクノセンター K's ホール (教員向け)	1	8	-
R4. 10. 16 (日)	関電プラント(株) テクノセンター K's ホール	1	8	8
	京都大学吉田キャンパス	2	7	6
R4. 10. 17 (月)	京都テルサ (午前：塾講師対象、 午後：中学校教員)	2	31	-
R4. 10. 29 (土)	本校	2	29	29
R4. 10. 30 (日)	本校	2	33	33
R4. 11. 27 (日)	本校	1	27	29

7. その他の入試広報イベント

その他の入試広報部会主催の入試広報イベントについて、表6に示す。

表6 その他のイベント

開催日	イベント	場所	生徒 (教員)	保護者
R4. 3. 10 (木)	校外学習 (舞鶴市立若浦中学校 3 年生)	本校	40	-
R4. 3. 26 (土) R4. 3. 27 (日)	先どりサイエンス教室	本校	19	-
R4. 6. 17 (金) R4. 6. 24 (金)	中学校教員向け授業見学・学校説明会 および出身中学校連絡会	本校	40	-
R4. 7. 17 (日)	KOSEN FES. 2022 大阪 (国公立高専合同学校説明会)	大阪梅田	-	-
R4. 8. 5 (金) ～6 日 (土)	ガールズ KOSEN ステイ (中止)	本校	-	-
R4. 9. 23 (金) ～24 日 (土)	女子寮宿泊体験会	本校	1	-
R4. 9. 24 (土) ～25 日 (日)	女子寮宿泊体験会	本校	1	-
R4. 10. 14 (金) ～15 日 (土)	女子寮宿泊体験会	本校	1	-
R4. 10. 15 (土) ～16 日 (日)	女子寮宿泊体験会	本校	3	-
R4. 10. 9 (日)	女子学生一日高専体験会	本校	13	12
R4. 10. 29 (土)	入試相談 (高専祭)	本校	-	-
R4. 10. 30 (日)	入試相談 (高専祭)	本校	-	-
R4. 10. 30 (日)	KOSENFAIR	オンライン	-	-
R4. 11. 6 (日)	KOSENFAIR	オンライン	-	-

8. 地域広報誌への学校紹介

福知山広報誌「ラサンカ」11月号から1年間無料で学校紹介を行うことになり、学校や学科紹介、イベント情報などを掲載した。

留 学 生 委 員 会

留学生委員会委員長 川田 昌克

1. 在籍状況

令和4年度は、国費外国人留学生2名、マレーシア政府派遣留学生1名の計3名の留学生在籍している。所属学科、学年等を表1に示す。

表1 令和3年度の留学生

令和4年4月現在

性別	国 籍	所属学科・学年	入学年度	備考
女	モンゴル	電気情報工学科4年	R3	国費外国人留学生
男	マレーシア	建設システム工学科4年	R3	マレーシア政府派遣留学生
男	モンゴル	電気情報工学科3年	R4	国費外国人留学生

2. 留学生関連行事

2.1 留学生研修旅行

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、日帰り旅行としたが、今年度はコロナ前と同様に1泊2日で実施した。

日程 : 令和4年11月5日(土)・6日(日)

見学場所 : 明石市(橋の科学館・明石海峡大橋ブリッジワールド), 倉敷市(美観地区散策), 姫路市(姫路城見学)

参加者 : 留学生3名, 玉田(4C担任), 田中(学生課学生支援係長) 計5名



明石海峡大橋ブリッジワールド(体験ツアー)



美観地区散策

1日目は、世界最大級の吊り橋「明石海峡大橋」の建設工程を学んだ後、明石海峡大橋ブリッジワールドに参加し、主塔を登った。塔頂からの眺望に留学生たちは感動していたようである。2日目は、倉敷美観地区を散策し、白壁と瓦屋根がとても印象的な建物、歴史が息づく町並みを巡ることができた。また、世界遺産である姫路城を訪問し、大天守からの眺望を楽しんだ。

天候にも恵まれ、順調に旅程をこなし、留学生同士の交流も深まった研修旅行となった。

2.2 留学生交流会

留学生交流会を以下の通り実施した。

実施日 : 令和4年12月13日(火)

場所 : 大会議室

参加者 : 3名の留学生, チューター, 学生会・寮生会・留学生と親交のあるクラスメート, 留学生委員会を中心とした教職員等合わせて40数名

交流会では、留学生委員会委員長の挨拶に始まり、留学生が自己紹介と母国紹介のプレゼンテーションを行った。また、参加者との質疑応答の後、学生会代表、寮生会代表、国際交流センター長、それぞ

れの留学生のクラスメート、チューターの心のこもったスピーチやユーモアあふれるスピーチが届けられた。その後、各留学生指導教員のメッセージ、学生主事の閉会の辞へと続き、記念撮影の後、交流会を終了した。

昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症対策により例年の様な立食形式での開催ができなかったが、留学生のクラスメートや学生会及び寮生会の学生が参加した。そして、心暖まる言葉や今まで知らなかった新しいエピソード等が披露され、留学生はもちろん、その他の学生にとっても、楽しくかつ意義のある交流の場となった。



留学生の自己紹介と母国の紹介



集合写真

2.3 留学生の地域交流

今年度行った、地域との異文化交流は以下の通りである。

- (1) 舞鶴国際交流協会主催「「夏越の大祓」神事（「茅の輪」くぐり）」
令和4年7月2日（土）
場所：朝代神社
参加者：留学生1名
- (2) 舞鶴国際交流協会主催「城下町を歩く」
令和4年10月1日（土）
場所：田辺城
参加者：留学生1名
- (3) 本校主催「令和3年度ジュニアドクター育成塾」第9回講座
令和4年11月27日（日）
参加者：留学生3名

3. 令和5年度の受入予定

令和5年度は、以下の留学生2名の受け入れが予定されている。

本科3年次編入学

建設システム工学科

国費外国人留学生1名（カンボジア）

専攻科入学

総合システム工学専攻

私費外国人留学生1名（ラオス）

F D ・ I C T 部 会

FD・ICT部会部会長 宝利 剛

本部会は、教育改善委員会の下部組織として、主として教員の授業方法、教育指導等の改善に資する目的で、種々の取り組みを行った。今年度の部会員（協力職員を含む）の構成と役割分担は表1のとおりである。

表1 FD・ICT部会構成員と役割分担

氏 名	所 属	主たる役割	氏 名	所 属	主たる役割
宝利 剛	自然科学	全体の連絡・調整	西 佑介	電子制御	FD・ICT講演会
馬越 春樹	自然科学	資料の収集・共有	四蔵 茂雄	建設システム	教育連絡会議
田村 修一	人文科学	資料の収集・共有	増永 武夫	総務課	総務課連絡調整
山根 秀介	人文科学	資料の収集・共有	下元 利之	学生課	学生課連絡調整
小林 洋平	機械	FD・ICT講演会	芦田 康弘	総務課	全体事務の掌握、連絡調整
芦澤 恵太	電気情報	資料の収集・共有	石井 貴弘	支援センター（協力）	授業アンケート設定及び集計

1. 授業アンケートの結果分析

本部会では、授業アンケートの集計結果を基に、結果分析を実施した。

平成28年度から、他教員のアンケート結果（自由記述等は除く）を含め、本校で開講されている全科目の結果を参考資料として全教員に開示している。平成31（令和元）年度からは、前年度の授業アンケートに各教員が記載した「課題分析」と「今後の改善策」に対して、それぞれ自己分析を行い、「前年度からの達成度に関する自己分析」を記載する項目を追加するとともに、「達成度の割合」を数値で記入している。また、昨（令和3）年度から、学科部門単位でアンケート結果の分析を実施している。

2. FD・ICT特別講演会

教職員の知識や技能の向上を目指し、今年度は、以下のとおり実施した。

日 付：令和4年8月22日

講演者：鶴見 智氏（高専機構理事、北九州高専校長）

題 目：高専の学生支援の現状と学生からのSOSに対する組織的対応

日 付：令和4年11月22日

講演者：石井 貴弘氏（舞鶴高専教育支援センター）

題 目：Microsoft Power Automate講座

3. 授業参観

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、参観回数を1回に限って実施した。参観期間は令和4年6月15日（水）～7月5日（火）の3週間とした。参観教員は参観後1週間以内にFormsから内容を報告し、報告された内容は報告者を匿名としたうえで、授業担当教員にフィードバックした。これにより、参観教員は自身の授業改善に参考になる点について整理するとともに、授業担当教員においても他の教員からの報告内容を確認することで授業改善に繋がることを期待している。また、参観教員からの報告内容のうち、「自分の授業改善に参考になった点」については、報告者を匿名としたうえで、学内で共有し、こちらも授業改善に繋がることを期待している。尚、今年度の実施率は86.2%であり、昨年度の74.5%から11.7%向上した。

4. 教育連絡会議

学科・部門，本科・専攻科の垣根を越えて，科目間の連携を密にし，教育改善に向けた検討を行うことを目的に，令和4年11月17日（木）～11月21日（月）の期間，教員を6つのグループに分け，グループごとに以下のテーマについて討議を行った。

- グループ A 講義運営について
- グループ B 原級留置の改善と質保証
- グループ C 教育上，学生指導上の不安，不満，悩み
- グループ D 舞鶴高専ならではの取り組みについて
- グループ E 専門 AL・総合演習について
- グループ F （授業参観に）お薦めの科目情報の共有

討議後，主査による報告書を本部会で集約し，学内で共有した。これにより，各教員が持っている問題意識や諸問題に対する改善方法・技術・アイデアを共有し，舞鶴高専全体の教育の質向上を図っている。

5. 授業公開

本校の授業を公開し，学内及び学外から選ばれた評価者及び学生達から評価を受け，また，互いに話し合うことによって，授業公開の担当教員のみならず，参加する多くの教員の参考とし，本校全体の教育方法の改善に繋げることを目的に，令和4年12月2日（金）～23日（金）の期間に実施した。

各学科部門による実施内容は以下のとおりである。

日時	実施教員	授業科目	クラス	学内評価者
令和4年12月5日（月） 8時50分～10時15分	山田耕一郎	機械力学 I	4M	○谷川 博哉 芦澤 恵太
令和4年12月22日（木） 8時50分～10時15分	舩木 英岳	ネットワーク論	4E	○内海 淳志 伊藤 稔
令和4年12月7日（水） 10時25分～11時50分	若林 勇太	ロボティクス II	4S	○石川 一平 室巻 孝郎
令和4年12月15日（木） 8時50分～10時15分	徳永 泰伸	建築環境 II	4C 建築コース	○四蔵 茂雄 小林 洋平
令和4年12月6日（火） 13時10分～14時35分	山根 秀介	総合英語 IVB	4S	○藤田 憲司 岡田 浩嗣
令和4年12月2日（金） 13時10分～14時35分	小島 広孝	化学 IIB	2-2	○上杉 智子 西 佑介

※○印は主査を表す。

実施後，主査から提出された授業公開報告書をもとに，授業担当者から授業改善プラン報告書が本部会に提出された。また，主査から提出された授業公開報告書及び授業担当者から提出された授業改善プラン報告書を本部会で総合的に評価・検討し，評価・検討結果を教職員に通知した。

6. 教員向けポータルサイトの設置

教員向けポータルサイトを設置し，これまで実施してきたFDに関する資料を収集・共有することで，教員が必要な時にいつでも閲覧できる環境を整備した。

交通対策検討委員会

交通対策検討委員会委員長 片山 英昭

1. 構内交通整備

構内における車・バイク・自転車の乗り入れを制限し、安全環境と教育環境を確保している。この車両乗り入れ制限について学生および教職員の理解のもと定着が進んでいる。また保護者のご協力のもと学生の送迎経路の定着も進んでいる。降雪時において送迎経路が変更となる場合には、教職員の案内により対応ができています。外部者が訪れる学校行事等に伴う構内道路や駐車場の制限などを検討した情報を、総務課からアナウンスしている。学生駐車場と来客者駐車場の区別が分かりにくいため、来場者駐車場案内の看板を設置するなどを検討していきたい。引き続き校内交通の安全環境の整備を進めていく。

2. 駐車場および駐輪場の整備

登校時において、第1駐車場に入場する車と駐輪場に入場するバイクの経路が交差している。このため自動車とバイクとの接触及び衝突や、バスを降り校舎に向かう学生が第1駐車場内を歩くため学生と入場してきた車との接触の懸念がある。これらを防ぐための安全対策の1つとして、自転車で登校する学生が安全に登校できることも踏まえ、老朽化した駐輪場の更新にあわせて、駐輪場の位置の変更を検討していきたい。

安全衛生委員会

安全衛生委員会委員長 事務部長 佐良 俊久

本委員会は、教職員の安全管理及び衛生管理の向上を図るため（舞鶴工業高等専門学校安全衛生管理実施規程 第11条）に設置されており、教職員の安全衛生管理に関する重要な事項について調査、審議を行っている。今年度の委員会構成は以下のとおりである。

表1 令和4年度安全衛生委員会構成

職 名	氏 名	任 期	備 考
事務部長	佐良 俊久		一号委員：委員長
医 師	西村 正人		二号委員：産業医
学生課寮務係 主任	住友 靖代		三号委員：衛生管理者・副委員長
総務課長	増永 武夫		四号委員：安全管理者、五号委員
看 護 師	清水智苗美		六号委員
教 授	上杉 智子	R4. 4. 1～R5. 3. 31	七号委員：自然科学部門
教 授	井上 泰仁	R4. 4. 1～R5. 3. 31	七号委員：電気情報工学科
准 教 授	毛利 聡	R4. 4. 1～R5. 3. 31	七号委員：建設システム工学科
技術専門職員	石井 貴弘	R4. 4. 1～R5. 3. 31	七号委員：教育研究支援センター
総務課専門職員	中嶋 智範		オブザーバー
総務課施設係長	岩見 遼平		オブザーバー

1. 定期巡視の実施

委員（産業医、オブザーバーを除く）8名を4班に分け、例示されたチェックポイントを目安に、学内の定期巡視（毎週1回）を実施した。具体的には、学内をA～Eの5地区に分けて、各班が順に各地区を担当するように計画した。巡視結果は委員会事務局に報告され、定例委員会で審議された。

2. 定例委員会の開催

原則として、毎月1回定例の委員会を開催し、各班からの巡視結果について審議した。審議結果は、昨年度に引き続き、保留、連絡（調査）、連絡（対策）の三つに分けて対応した。「連絡」と判断された事項については、該当部署または該当教職員に通知した。「保留」は学校としての対応が必要と判断した事項で、施設係を中心に検討していただいた。また、定例委員会では毎回、西村産業医より、本校における健康管理および健康の保持増進に関するコメントをいただいた。

3. 安全衛生環境の改善

定例委員会で審議された事項について、当該部署や事務部へ連絡・調整を行った。これにより、安全衛生環境が改善された。なお改善にあたっては、令和元年度から導入した巡視における安全衛生に関するリスクの定量化（リスクアセスメント）を継続して行い、高リスクと思われる事項から優先的に対策を実施した。

4. ストレスチェックの実施

本校教職員を対象にストレスチェックを実施し、約83%の教職員が受検した。京都大学 名誉教授・非常勤研究員 労働衛生コンサルタント・川村 孝教授の協力を得て、本人申し出に基づく面接指導も行われた。

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ座長 川田 昌克

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループは、危機管理委員会の下部組織として、緊急連絡／安否確認システムの管理・運用およびシステムを用いた訓練を継続的に行っている。今年度の本ワーキンググループの構成員を表1に示す。

表1 ワーキンググループ構成員

川田昌克	教務主事	伊藤稔	学術情報センター長
増永武夫	総務課長	下元利之	学生課長
		能勢嘉朗	教育研究支援センター

コロナ前までは、全学的な避難訓練の実施日に安否確認訓練を実施していたが、昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策で全学的な避難訓練を見送ったため、別日に安否確認訓練を行った。今年度は、本校での避難訓練の経験がない1年生および3年生を対象とした避難訓練を令和4年10月3日（月）に行い、同日に安否確認訓練を実施した。

訓練は以下の手順で行った。

- ① 令和4年10月3日（月）12：00、危機管理副委員長（教務主事）は危機管理委員長（校長）名で、システム運用者（学生課長および総務課長）に安否確認を行うよう指示する。
- ② システム運用者は運用管理者（学生課課長補佐および総務課課長補佐）に本システムを利用して、教職員及び学生に対し安否確認を行うよう指示する。
- ③ 安否確認のメールは、教職員については校務メールアドレス及び本システムに登録した携帯メールアドレス、学生については学生用Gmailアドレス及び本システムに登録した携帯メールアドレスの両方に届く。安否確認のメールを受信した教職員及び学生は、受信したメールどちらか一方から安否を回答する。
- ④ 同日17：00以降、情報科学センターで安否確認情報を集計し緊急連絡／安否確認システムWGに報告する。
- ⑤ 総務課長は、教職員と学生の安否確認情報を危機管理委員会に報告する。
- ⑥ 総務課長は、危機管理委員長名で、安否確認訓練が終了したこと全教職員に連絡し、安否確認情報の集計結果（17：00時点）を共有する。なお、メール以外の方法による更なる安否確認は今回行わない。
- ⑦ 令和4年10月4日（火）10：00以降、情報科学センターで最終的な安否確認情報を集計し、緊急連絡／安否確認システムWGに報告する。

なお、安否確認メールの送信内容は以下の通りである。

こちらは舞鶴高専危機管理委員会です。

地震発生時の安否確認訓練のため、本メールを送信しています。

質問1は自分の状況、質問2は自分の居場所を回答してください。

それぞれ1文字を返信メールの本文1行目に入力・送信してください。（返信例：あた）

なお、本メールタイトル内の「英数字」は管理番号ですので、返信時、タイトル（「Re:」を含む）を絶対に編集・削除しないでください。

質問1 自分の状況 あ. 本人無事 か. 本人怪我

質問2 自分の居場所 さ. 学内 た. 学寮 な. 自宅 は. その他

質問1で「か.」を選んだ人は怪我の状況を、質問2で「は.」を選んだ人は自分の居場所を本文2行目以降に入力してください。

表2～4に安否確認の返信率を示す。

表2 安否確認の返信率（学生）

(a) 令和4年度

令和4年10月3日17時00分		令和4年10月4日10時00分	
本科1年	80.0%	本科1年	85.9%
本科2年	73.2%	本科2年	87.3%
本科3年	77.1%	本科3年	87.9%
本科4年	83.2%	本科4年	87.0%
本科5年	67.9%	本科5年	76.4%
専攻科	94.6%	専攻科	94.6%
学生全体	76.7%	学生全体	85.5%

(b) 令和3年度

令和3年12月20日17時00分		令和3年12月21日10時00分	
本科1年	90.1%	本科1年	94.7%
本科2年	84.8%	本科2年	92.7%
本科3年	75.2%	本科3年	80.0%
本科4年	73.4%	本科4年	81.2%
本科5年	71.5%	本科5年	74.2%
専攻科	76.1%	専攻科	80.4%
学生全体	78.8%	学生全体	84.4%

表3 安否確認の返信率（教職員）

(a) 令和4年度

令和4年10月3日17時00分		令和4年10月4日10時00分	
教員	87.9%	教員	91.4%
事務職員	71.0%	事務職員	72.5%
教育研究支援センター職員	91.7%	教育研究支援センター職員	91.7%
非常勤講師	39.1%	非常勤講師	43.5%
教職員全体	74.1%	教職員全体	76.5%

(b) 令和3年度

令和3年12月20日17時00分		令和3年12月21日10時00分	
教員	92.9%	教員	94.6%
事務職員	69.4%	事務職員	72.2%
教育研究支援センター職員	100.0%	教育研究支援センター職員	100.0%
非常勤講師	40.0%	非常勤講師	43.3%
教職員全体	74.1%	教職員全体	76.5%

表4 安否確認の返信率の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生全体	86.7%	87.3%	91.4%	84.4%	85.5%
教職員全体	81.7%	66.5%	81.2%	76.5%	76.5%
全体	85.9%	83.9%	89.7%	83.0%	84.0%

令和3年度と比較すると、令和4年度は、学生、教職員ともに全体としての返信率はほとんど変化していない。

学生は3年生以上の返信率は向上したが、2年生以下の返信率が悪化した。1年生は3クラスで返信率が95%以上であったが、1クラスの返信率が51.2%と低かった。同様に2年生も3クラスで返信率が91%以上であったが、1クラスの返信率が53.9%と低かった。このことから、1・2年の返信率が下がったのは、クラス担任からの周知がうまくいっていなかったことが主要因であると考えられる。1年生は初めての経験であるため、安否確認訓練を通じ、返信の方法を体験しておく必要があり、次年度の改善が必要である。また、5年生は1クラスをのぞくと、他の学年と比べて総じて返信率が低く、改善が必要である。

教職員については、教員や教育研究支援センター職員の返信率は、過年度と同様に高い。それに対して、事務職員の返信率は前年度と比べて改善が見られるものの、未だに4人に1人が返信していない状況であり、さらなる改善が必要である。また、非常勤講師については返信率が極めて低く、周知の方法を考える必要がある。

男女共同参画室

男女共同参画室長 上杉 智子
男女共同参画副室長 村上 信太郎

1. 男女共同参画室の概要

男女共同参画室は、高専機構男女共同参画行動計画に基づき、男女共同参画を推進することを目的に、令和元年度より新設された組織です。教育・研究・就業活動全般を通じた男女共同参画の推進と意識啓発を行うことを主な目的としています。また、令和元年度より活動を行っている、本校の女子学生グループ「うろうろ」の後援・活動支援も行っています。

2. 令和4年度の活動

2.1 男女共同参画室運営会議の開催

- 第1回男女共同参画室運営会議（令和4年4月8日）
 - (1) 実施体制 (2) 基本方針 (3) 昨年度の活動について
 - (4) 令和3年度第3ブロック男女共同参画推進協議会報告 (5) 令和4年度活動計画
- 第2回男女共同参画室運営会議（令和4年6月23日）
 - (1) 高専女子フォーラム in 関西について (2) 教職員対象のLGBT研修について
 - (3) 女子学生グループ「うろうろ」の活動支援体制について
 - (4) 性被害・性加害防止講演会の実施（1年女子学生向け講演会）について
- 第3回男女共同参画室運営会議（令和4年10月20日）
 - (1) 室員・役割分担の変更について
 - (2) 高専女子フォーラム in 関西について
 - (3) 教職員インターンシップについて
 - (4) 予算案について
- 第4回男女共同参画室運営会議（令和4年11月28日）
 - (1) 高専女子フォーラム in 関西について
 - (2) 教員職インターンシップの実施について
 - (3) 1・2年生女子学生向け講演会（キャリアガイダンス）の実施について

2.2 1年生を対象とした性についての講演会の実施

令和4年6月13日（月）、学生委員会との共催により、京都府警察本部生活安全部少年課少年サポートセンターの吉田様、高橋様、岩崎様を講師に迎え、1年生を対象とした性被害・性加害防止講演会を開催しました。女子学生を対象とした講演では、実際に起きた性被害の事例を取り上げて、自分の身を守るための知識や、具体的な対策法などを解説して頂きました。同時に開催された男子学生を対象とした講演では、SNSやネットに潜む性犯罪などについて、分かりやすく解説して頂きました。

2.3 LGBT研修の実施

令和4年6月1日（水）、視聴覚教室において、学生相談室、修学支援室、FD・ICT部会との共催により、新任教職員を対象としたLGBT研修を実施しました。研修では、認定特定非営利活動法人「ReBit」が無償配布を行っている動画の視聴と、グループワークを行いました。研修の際には、本校学生に関する情報共有も行いました。研修には教職員20名（教員5名、職員15名）が参加しました。

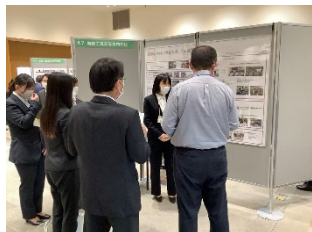
この研修は昨年度から開催しており、初回は全教職員を対象として実施しました。来年度以降も、新任教職員を対象に、継続して行っていく予定です。



2.4 高専女子フォーラム in 関西への参加

令和4年12月10日（土）、クリエイション・コア東大阪において、近畿地区の高等専門学校7校の主催（代表幹事校：和歌山工業高等専門学校）による高専女子フォーラム in 関西が3年ぶりに対面で開催されました。高専女子フォーラムin 関西は、女子学生のキャリア教育を主な目的として実施しており、女子学生に参加企業の男女共同参画に関する取組例や、社会での女性技術者の活躍などを学んでもらうことと、企業関係者や女子中学生とその保護者に向けて、研究紹介、学生生活紹介、高専教育紹介を行うことで、高専女子学生の実力を広く社会に向けて発信することを目指しています。

開催当日は、近畿7高専の女子学生23チームが発表を行いました。本校からは4チームの女子学生が参加し、女子中学生や企業の方を対象として、機械工学科の専門教育紹介、電気情報工学科の専門教育紹介、女子学生グループ「うろうろ」の活動紹介、寮生活紹介の4件のポスター発表を行いました。



機械工学科の教育紹介



電気情報工学科の教育紹介



寮生活紹介



「うろうろ」の活動紹介

2.5 教員職インターンシップの実施

令和5年1月18日（水）から1月20日（金）までの3日間にわたり、教員職体験のためのインターンシップを女性限定で実施しました。大学院博士後期課程在学中の女性または博士号を持つ社会人女性を対象として参加者の募集を行い、今年度は1名のインターンシップ生を受け入れました。インターンシップでは、学寮・課外活動見学、授業・卒業研究の見学、管理職との懇談、女性教職員との懇談や、1・2年女子学生を対象としたミニ講義などを体験してもらいました。

2.6 1・2年女子学生を対象としたキャリアガイダンスの実施

令和5年1月18日（水）、1・2年女子学生を対象としたキャリアガイダンスを開催しました。今回は、進路指導委員長を講師として、女子学生に特化した進路ガイダンスを行いました。ガイダンスの際には、本校の教員職インターンシップに参加している理系の大学院生からも、理系の進路選択や大学院での研究活動などの体験について、分かりやすく話して頂きました。

2.7 学内設備の改善

学生と教職員が快適に過ごすための設備の見直しとして、男女共同参画室の予算を利用して、毎年、学内設備の改善を行っています。今年度は、1・2年女子学生からのアンケートをもとに、女子寮内の全てのトイレ個室に流水音発生器を設置しました。

2.8 女子学生グループ「うろうろ」の活動支援

女子学生グループ「うろうろ」が本校の公認団体となり、男女共同参画室が活動の支援を行うことになってから4年目となる今年度も、舞鶴商工会議所青年部企画の「アンブレラスカイプロジェクト」への参加、入試広報に関連したリーフレット発行、小中学生対象の公開講座の実施、企業見学など、「うろうろ」の活発な活動の支援を行いました。

3. 男女共同参画室が関わったその他の行事・会議等 [連携機関等]

- ・ 令和4年 4/25(月)、7/29(金)、11/24(木)、令和5年 3/13(月)
第1回～第4回 高専女子フォーラム in 関西 実行委員会（オンライン開催）
- ・ 令和4年 10/9(日) 女子中学生1日高専体験会
- ・ 令和5年 2/21(火) ダイバーシティ講演会 [奈良高専]（講師：上林憲雄氏、オンライン開催）
- ・ 令和5年 2/27(月) 全国ダイバーシティネットワーク 近畿ブロック会議（オンライン開催）
- ・ 令和5年 3/13(月) 第3ブロック男女共同参画推進協議会（会場：明石高専）
- ・ 令和5年 3/16(木) 高専機構意識啓発講演会（講師：三成美保氏、オンライン開催）

入学前ICT教育ワーキンググループ

入学前ICT教育WG座長 奥村 昌司

1. 入学前ICT教育について

令和4年度本科入学試験から、特別選抜に地域枠が新設されたことに伴い、入学予定者を対象とした入学前ICT教育を実施しています。入学前ICTは入学予定者が「高専での学習に向けた準備」と「入学後に利用するICTに慣れる」を目的として、入学前ICT授業として実施しています。今年度は令和5年度新入生を対象として実施しました。

2. 入学前ICT教育WGの委員

氏名	所属
奥村 昌司	自然科学部門
山根 秀介	人文科学部門
小島 広孝	自然科学部門
西山 等	機械工学科
芦澤 恵太	電気情報工学科
清原 修二	電子制御工学科
中尾 尚史	建設システム工学科

3. 入学前ICT授業の実施

入学前ICT授業は新設されたMoodleを用いて、以下の内容を、Zoom授業やオンデマンド動画視聴の後に1週間程度の締め切りで課題に取り組む形で実施しました。

- 第1回（1月18日（水））【校長祝辞，説明と諸注意など】
- 第2回（1月25日（水））【自然科学部門の教員による授業】
在校生（学生会，寮生会）からのメッセージ
- 第3回（2月1日（水））【機械工学科の教員による授業】
- 第4回（2月8日（水））【電気情報工学科の教員による授業】
- 第5回（2月15日（水））【電子制御工学科の教員による授業】
- 第6回（2月22日（水））【建設システム工学科の教員による授業】
- 第7回（3月1日（水））【人文科学部門の教員による授業】
- 第8回（3月15日（水））【Zoomを利用して、各学科の在學生と交流】

合格が入学予定を意味する特別選抜合格者に対しては、令和5年1月12日（木）の合格発表後に、合格通知に入学前ICT授業の資料を同封して参加を求めました。特別選抜合格者は全員がMoodleへの登録を行いました。

また、一般学力選抜の入学予定者に対しては、令和5年3月5日（日）の入学説明会で入学前ICT授業の資料を配布し、参加を求めました。すでに実施された授業についても、Moodle上に掲載された資料や動画を閲覧し、締め切りを過ぎていても課題が提出できることを説明しました。その結果、一般学力選抜の入学予定者のうち9名を除く入学予定者がMoodleに登録を行いました。

令和5年3月15日（水）の在學生との交流交流会は Zoomによるリアルタイムミーティングで実施し、107名（入学予定者84名，在校生17名，学科教員4名，部門教員3名）が参加しました。入学予定者，在校生および学科教員は学科別のブレイクアウトルームに分かれて交流し，部門教員は遅れて参加した入学予定者らの誘導などを行いました。

Moodleで実施した受講生のアンケートにおいて、参加した入学予定者から好意的な回答が多く見られました。

施設マネジメント委員会

施設マネジメント委員会委員長 小野 伸一郎

1. 施設マネジメント委員会の概要

本委員会は、時勢により変わる施設利用状況に対し施設利用・利便性の向上を図るため（舞鶴工業高等専門学校施設マネジメント委員会規程 第3条）に設置されており、施設の活用状況の調査、各部門への施設アンケート、大型改修の計画を行っている。

2. 令和4年度の活動

○第1回施設マネジメント委員会

(1) 去年度引き継ぎ (2) 学生昇降口アンケート結果報告 (3) 高専生の学びを高めるキャンパス創造プロジェクトについて (4) 5箇年計画について

○第2回施設マネジメント委員会

(1) 学生ロッカー室の使用用途および位置の検討について (2) 学生昇降口および学生課事務室前掲示板の見直しについて (3) 玄関設置ディスプレイの使用について

○第3回施設マネジメント委員会

(1) 学生昇降口改修案の発表（尾上研究室学生） (2) 学生ロッカー室改修案について

○第4回施設マネジメント委員会

(1) 令和6年度概算要求事業について

○第5回施設マネジメント委員会

(1) R5年度営繕要求事業について (2) B310, A324居室用途について

○第6回施設マネジメント委員会

(1) B310, A324居室用途について（学生委員会回答報告） (2) R4年度補正予算通知結果について (3) 舞鶴高専トイレ整備計画について

○（臨時）施設マネジメント委員会

(1) スタートアップ教育環境整備事業に関する事業候補地の選定について

○第7回施設マネジメント委員会

(1) 次年度への引き継ぎ事項について

3. 活動結果

○令和5年度大型改修

施設利用状況及び老朽状態より学生寮5号館（東）及び建設システム工学科棟（1階）を改修することとなった。

○A327研究室分割工事

一部の教員研究室が学生の研究室と同一スペースになっている状態を解消するため、A327研究室を2部屋に分割することでセキュリティ向上を行った。

○令和6年度大型改修

施設利用状況・施設老朽状況に基づき令和6年度大型改修計画が協議された。

○学生要望について

文化系クラブの活動スペースを増やしてほしいとの要望を受けB310の当該利用を検討。次年度以降クラブ活動利用ができるよう調整中。

いじめ対策委員会

いじめ対策委員会副委員長 片山 英昭

1. 委員会開催

- 第1回いじめ対策委員会（4月20日）：いじめ未然防止プログラムの策定など
- 第2回いじめ対策委員会（7月27日）：アンケート結果確認・次回アンケート実施など
- 第3回いじめ対策委員会（10月19日）：アンケート結果確認・次回アンケート実施など
- 第4回いじめ対策委員会（12月20日）：アンケート結果確認・次回アンケート実施など
- 第5回いじめ対策委員会（2月15日）：アンケート結果確認・いじめ防止等対策取組など

2. アンケートの実施

いじめの未然防止・早期発見のため、いじめに関するアンケートを、Web回答形式により年に4回実施している。以下にそれぞれの回答率を示す。すべての実施において80%を超える回答率を得ている。またいじめを受けたとの回答はなかった。

	第1回	第2回	第3回	第4回
回答率	89.1%	86.5%	80.4%	83.8

3. 事案調査

いじめと疑わしき事案について、特別チームを編成して調査を行い、問題が無いことを確認した。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム検討ワーキンググループ

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム検討ワーキンググループ座長 川田 昌克

本ワーキンググループ（WG）は、文部科学省が推進している「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けるために設置され、令和5年度当初に認定を受けることを目指している。WGの構成員は各学科から表1のように選定された。

表1 WGの構成員

川田昌克	教務主事（WG座長）
室巻孝郎	機械工学科
村上信太郎	
森健太郎	電気情報工学科
伊藤 稔	電子制御工学科
加登文学	建設システム工学科

令和4年度は、申請の際に必要な以下の項目を検討し、実行した。

- 対象科目の選定と数理・データサイエンス・AI 教育の実践
- ポンチ絵の作成
- 「舞鶴工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム履修規程」の制定

対象科目を表2のように選定した。また、認定条件を満足するように科目の内容を整理し、シラバスに明記したうえで、令和4年度の授業から実践を開始した。これら科目はすべて必修であるため、本校に入学した学生全員が卒業時に本教育プログラムの修了生となるように設計されている。

表2 対象科目

学科	科目名	学年
機械工学科	情報処理Ⅰ	1年
	情報処理Ⅱ	2年
	計測工学演習	3年
	数値計算演習	4年
電気情報工学科	情報基礎	1年
	プログラミング実習	3年
電子制御工学科	情報基礎	1年
	制御工学実験	5年
建設システム工学科	情報リテラシー	1年
	測量実習	2年
	建設システム工学実験ⅠA	3年
	建設システム工学実験ⅠB	3年

また、本教育プログラムの取り組みの概要を示したポンチ絵を図1に示す。本教育プログラムは、「舞鶴工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム履修規程」で定めたように、令和4年度1年生から、学年末に教務委員会で表2の対象科目の単位取得状況を確認する。そして、すべての対象科目の単位を取得している場合、卒業時に本プログラムの修得を認定する。また、評価委員会において、毎年、認定制度の審査項目に対する自己点検評価を行う。

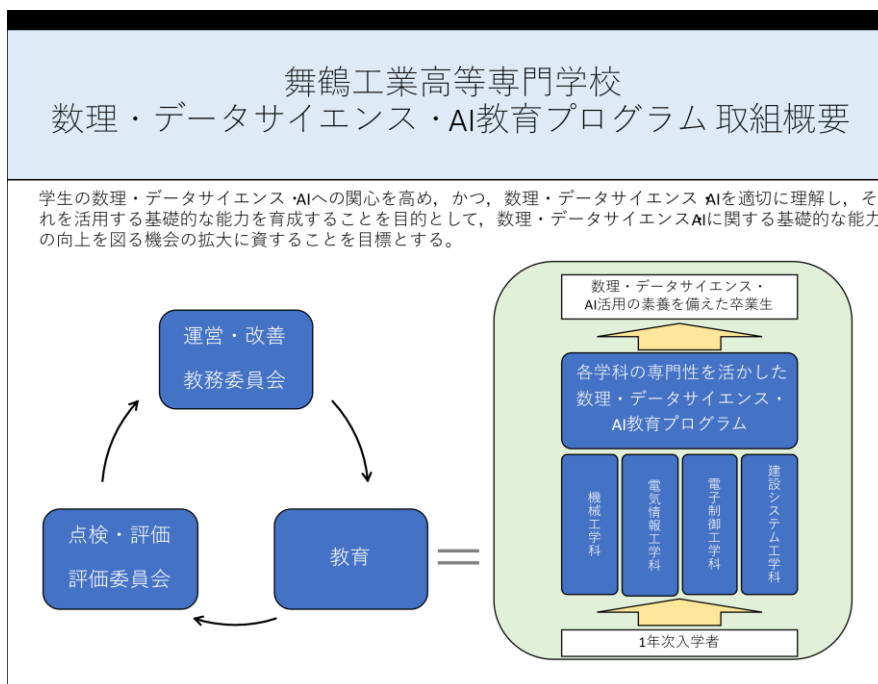


図1 ポンチ絵

教学 IR 準備 WG

WG 座長 加登 文学

1. ワーキングの設置

本校における教学マネジメントを推進するために必要な準備を行うことを目的として、令和4年7月8日の臨時運営会議において、教学 IR 準備 WG の設置が決定された。ワーキングのメンバーを表1に記す。

表1 ワーキングメンバー

座長	加登 文学（教務副主事）
委員	宝利 剛（評価委員会 資料部会長） 内海 淳志（担当教務委員） 奥村 昌司（評価委員会委員長） 川田 昌克（教務主事） 富田 誠（学生課課長補佐） 大和 健治（教務係長） 芦田 康弘（総務係長） 担当事務：学生課

2. 活動内容

第1回 WG（令和4年9月22日）

- ・教学マネジメント推進のために必要不可欠な IR(Institutional Research) データを扱う部署として「教学 IR 室」を設置すること、これに伴い、「評価委員会 資料部会」は廃止し、資料部会の扱っているデータを教学 IR 室が引き継ぐことを決定した。
- ・アセスメントプランの作成方針について協議され、「舞鶴工業高等専門学校における自己点検・評価に関する基本方針」への追加を検討するよう評価委員会に依頼することを決定した。

第2回 WG（令和4年11月21日）

- ・教学 IR 室規程について検討を行った。室には室長、副室長、室員をおくこと、事務は学生課が担当となること、データの取り扱いは高専機構および本校の情報管理の規則に従うことなどが盛り込まれた。

第3回 WG（令和5年1月25日）

- ・教学 IR 室規程について最終案をまとめた。後日、運営会議に付議され認められた。

舞鶴高専ジュニアドクター育成塾

実施主担当者 上杉 智子

1. ジュニアドクター育成塾について

ジュニアドクター育成塾は、科学技術振興機構（JST）が行う理系の次世代人材育成事業の一つで、理系の優れた能力を秘めた児童・生徒を発掘し、その能力を育てることを目的としています。本校は、平成31（令和元）年度より「多自然居住地域における理工系人材の発掘と世界に羽ばたく人材育成プログラム」という企画名でこの事業に採択され、取り組みを行っています。JSTによる支援期間は最大5年間のため、4年目となる今年度は、地域の小中学生を対象として、科学技術との触れ合いや高度な研究課題への取り組みの機会を提供する活動を行いつつ、支援期間終了後も地域の人材育成を継続して行うため、地域の団体との協力体制の構築に取り組みしました。

2. 実施組織

昨年度に引き続き、学内の実施組織「ジュニアドクター育成塾推進会議」の構成員を中心として企画を行い、全学的なサポートのもとで取り組みを実施しました。

令和4年度 ジュニアドクター育成塾推進会議 構成員

役割名	担当構成員
実施責任者	校長
実施主担当者	上杉智子
実施担当者	宝利剛，谷川博哉，内海淳志，石川一平，加登文学
事務局	事務部長，総務課

3. 育成プログラム

育成プログラムは二段階に分かれています。毎年、受講生の応募を行い、応募者から約40名の受講生を選抜して、受講1年目に第一段階の育成プログラムを実施します。第一段階の取り組みを修了した受講生のうち、特に優秀な受講生を選抜して、受講2年目より第二段階プログラムを実施します。取り組み4年目となる今年度は、第一期生～第三期生に対する第二段階の育成プログラムと、新たに受け入れた第四期生に対する第一段階の育成プログラムを並行して行いました。

《第一段階育成プログラム》

令和4年度の受講生募集では46名の応募があり、40名の受講生を第四期生として選抜しました。この第四期生を対象に、理学・工学の様々な分野について学習するための取り組みを行い、成果発表会を実施しました。今年度は、全11回のうち、初回のみオンラインで行いました。

(1) 基礎講座（7月30日，8月20日）

初回と第二回の講座では、入塾式を行った後、木製ノギスや分光器の作製などの簡単な工作を通した、測定値の扱い・有効数字・物理量の測定についての学習や、プログラミングについて学習する基礎講座を実施しました。（7月30日のみ、感染症の状況によりオンライン実施。）

(2) 総合的学習（9月3日・17日）

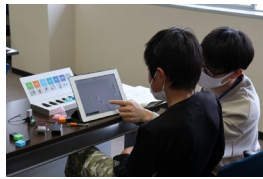
様々な分野に関わる身近なテーマについて学ぶ総合的学習を、「防災」（自然災害・原子力防災）と「エネルギー」（エネルギーの変換・電気エネルギー）をテーマに2回実施しました。

(3) 課題学習（10月1日・15日，11月3日・12日）

受講生が2つのコース（Aコース：設計，ロボット／Bコース：AI・IoT，建築）に分かれて行う課題解決型学習を、前半2回・後半2回の全4回行いました。



課題学習（設計）



課題学習（AI・IoT）



課題学習（ロボット）



課題学習（建築）

(4) 異文化交流・研究者倫理 (11月27日)

金山光一舞鶴高専名誉教授による研究者倫理についての講義の後、本校に在学中のモンゴルとマレーシアからの留学生による母国の紹介や、留学生との交流を行いました。また、12月25日に行う成果発表会の説明も行いました。



研究者倫理

(5) 特別講義 (12月3日)

熊本大学 高橋慶太郎教授による招待講演「地球外に生命はいるか」の後、成果発表用ポスターの作成を行いました。招待講演には、過年度の第一段階修了生23名（うち第二段階受講生13名）も参加しました。招待講演の後には、成果発表会の準備を行いました。



招待講演

(6) 成果発表会・修了式 (12月25日)

舞鶴市商工観光センターのコンベンションホールにおいて、第一段階での学習の成果発表会をを開催し、第一段階受講生36名がスライドによる発表を行いました。成果発表後は第一段階教育プログラムの修了式を行い、発表を行った受講生達に修了証書を授与しました。



成果発表会



修了式



修了生

《第二段階育成プログラム》

令和4年度の第二段階受講生は、前年度から継続して参加する9名と、令和3年度の第一段階修了生の中から新たに選抜した11名の計20名に対し、9つの研究テーマで月2回程度指導を行いました。（対面講座・オンライン講座の両方を取り入れて実施。）

成果発表の機会としては、11月に開催された、全国の実施機関から受講生が参加するサイエンスカンファレンス2022（オンライン開催）に、研究発表会・交流会に2名の受講生が参加しました。

また、令和5年3月25日には第二段階受講生の成果発表の場として、舞鶴市中総合会館ホールで令和4年度研究フォーラムを開催し、令和4年度の第二段階受講生18名が成果発表を行いました。



研究発表会の様子

4. 本取り組みによる学生の教育

受講生のサポートを行う本校の学生達に対し、メンターの役割を担うためのスキルを育成することを目的として、次の取り組みを行いました。

(1) 学生メンターの研修 (7月12日)

京都教育大学大学院 片山紀子教授を講師としてお迎えし、「コーチングを活用できるメンターになろう」という題目で学生メンターの研修をオンラインで行いました。

また、取り組み期間全体を通して、各講座の前後に、シニアメンター（本校教員）が学生メンターを集めて受講生指導に関するミーティングを実施し、学生のコーチングスキルの育成を図りました。

(2) 教育アドバイザーの雇用

昨年度までに引き続き、教育アドバイザーとして、元中学校教員の後野文雄先生、橋本茂先生をお迎えし、本校教員と共に学生メンターの指導をして頂きました。

5. 継続した地域の次世代人材育成に向けた協力体制の構築

5年間のJSTからの支援期間の終了後も、地域の児童生徒を継続して育成するため、舞鶴高専地域テクノアカデミアの会員企業に組みの紹介を行うなど、地域の企業や団体との協力体制の構築を図っています。今年度は、舞鶴東ロータリークラブ様より講座で使用する教材を寄贈して頂き、さらに、ジュニアドクター育成塾の講座の見学にも来て頂きました。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

文部科学省が「Society5.0に対応した高度技術人材育成事業」として実施する「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において、舞鶴工業高等専門学校が申請代表校となった『KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』が、中核拠点の取組みとして選定されました。

本事業は、舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センターが中心となり、建設技術者が働きながら学びを続けるための環境整備や、職業能力の向上とキャリア・アップに繋がる教育プログラムの構築等、社会人のための学び（リカレント教育システム）を設計するものです。文部科学省補助期間は、令和元年度から5カ年であり、産学+地域による連携体制として『REIM産学連携コンソーシアム』を設立し、インフラメンテナンス分野のリカレント教育を推進するための取組みを行っています。

本事業では、舞鶴高専及び連携4高専（福島、長岡、福井、香川）のリカレント教育拠点整備、リカレント教育プログラムの開発・実施、実務家教員育成研修プログラムの開発に取り組んできました。本年度は実務家教員育成研修プログラムの本講座を舞鶴高専で開催する他、リカレント教育プログラムを舞鶴高専及び連携4高専で開催しました。令和5年度は、一般財団法人高専インフラメンテナンス人材育成推進機構を設立する等、KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの確立へ向けた取組みを行い、リカレント教育プログラムの全国展開を推進します。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

少子高齢化・労働人口減少
社会基盤（インフラ）高齢化

安全・機能確保対策の必要性大
維持管理・修繕等の需要が増大

インフラ
（橋梁）
の現状

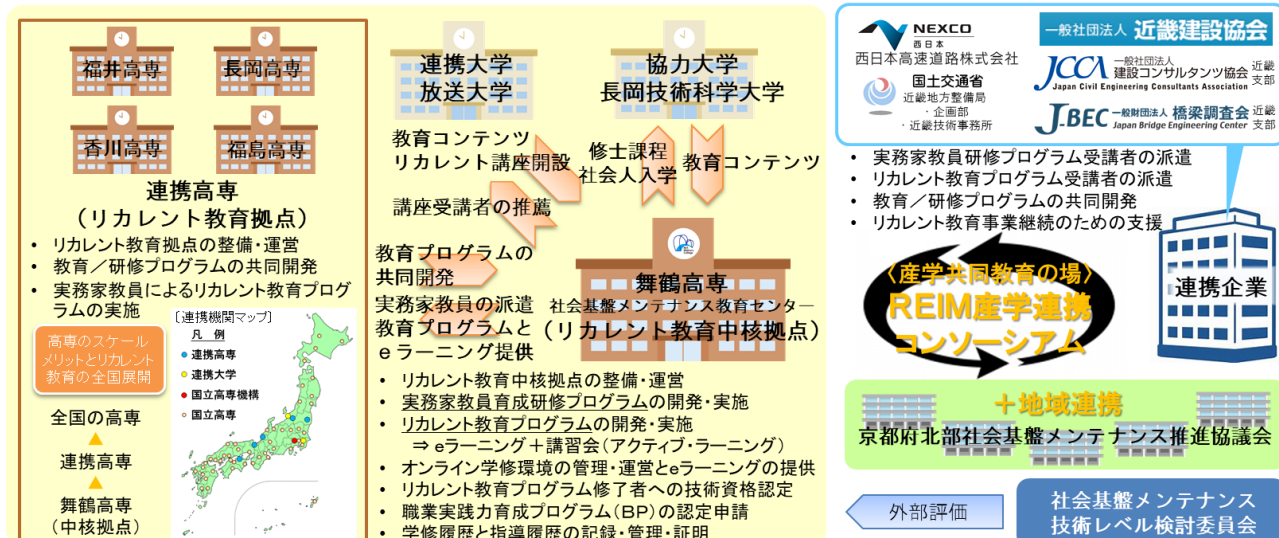
- ・ 全国の橋梁ストックは約72万橋（国道3割、市町村道7割）
- ・ このうち、建設後50年以上経過した橋梁が10年後には5割超
- ・ 町の3割、村の6割で橋梁保全業務に携わる土木技術者不在

課題・問題

- ・ 地方では高等教育を受けた技術者が非常に少ない
- ・ 実務者のインフラメンテナンス分野の経験が乏しい
- ・ 建設技術者のICTスキルが不十分で建設現場の生産性が低い

Society5.0を牽引するインフラメンテナンス人材
を育成するためのリカレント教育が急務

- 実務家教員育成研修プログラムを開発し、産学連携でリカレント教育プログラムの講師を育成
 - 若手建設技術者を主な対象とし、職務を離れることなく受講可能なリカレント教育プログラムを開発・実施
 - 全国5カ所のリカレント教育拠点に育成した実務家教員を配置し、リカレント教育プログラムを全国展開
- リカレント教育プログラム修了者、特に高専卒（准学士）の技術者について、修士課程への社会人入学を支援



学科・部門別教員一覧 (令和5年3月現在)

人文科学部門

氏 名	職名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
田村 修一 (博士〔文学〕)	教授	・学級担任(1-4)	①現代文A, B ②総合国語ⅡA, ⅡB ③日本語A, B, C, D ④日本文化論	日本近代文学	①芥川龍之介 ②阿部知二 ③日本近代文学史
藤田 憲司 (修士〔文学〕)	教授	・国際交流センタ ー長 ・人文科学部門長	①総合英語ⅡA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅤA ②英会話B ③現代英語Ⅱ	英文学	①18世紀イギリス詩 ②批評理論
児玉 圭司 (修士〔法学〕)	教授	・寮務主事	①法学 ②現代社会 ③地域学Ⅰ, Ⅱ ④技術者倫理	法制史 (日本近代)	①行刑(監獄制度)史 ②刑事法・刑事政策 史
牧野 雅司 (博士〔文学〕)	准教授	・修学支援室長 ・学生主事補	①歴史総合A ②公共A, B ③韓国語Ⅰ, Ⅱ ④防災リテラシー	日本近代史 対外関係史	①幕末維新期の日朝 関係 ②地域史料の保存と 活用
山根 秀介 (博士〔文学〕)	准教授	・教務主事補 ・学級担任(2-1)	①総合英語IVB, ⅤA ②英語演習Ⅰ ③人間論 ④哲学 ⑤現代日本の政 治・経済と法 Ⅰ, Ⅱ	近代哲学	①ウィリアム・ジェ イムズ ②近代フランス哲学
荻田 みどり (博士〔文学〕)	講師	・寮務主事補 ・学級担任(2-3)	①古典A, B ②総合国語ⅡA, ⅡB	中古文学 (平安時代の 文学)	源氏物語の食事描写 文学
大内 真一郎 (修士〔文学〕)	講師		①総合英語IB, ⅡA, ⅢA, ⅢB ②技術英語 ③工業英語 ④Oral English ⑤英会話A	アメリカ小説	①リチャード・パワ ーズ ②物語論 (ナラトロジー)
平尾 恵美 (修士〔文学〕)	講師	・学級担任(1-2)	①総合英語IA, IB, ⅢA, ⅢB, IVB, ⅤA	英語学 言語学	①insubordination ②言いさし文 ③感情表出表現

氏 名	職名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
Jimmy Aames (博士〔人間科学〕)	助教		①総合英語ⅣA, ⅤB ②英会話A, B ③科学と社会	アメリカ哲学 科学哲学	①チャールズ・S・パ ース ②物理学の哲学
岡下 朋世 (学士〔人文科学〕)	助教		①総合英語ⅠA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, ⅤA	言語学 (音声学)	①言語のリズム ②英語教育

自然科学部門

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
小野 伸一郎 (学士〔教育学〕)	教授	・総務担当副校長	保健体育Ⅰ,Ⅳ,Ⅴ	①運動生理学 ②運動方法学	①運動制御に対する呼吸・代謝と不安心理 ②身体活動と健康
奥村 昌司 (博士〔理学〕)	教授	・評価委員長 ・学級担任(1-1)	①基礎数学A, B ②基礎数学演習A, B ③微分積分ⅡA,ⅡB ④微分積分演習 ⑤応用数学ⅡA,ⅡB	①非線形方程式 ②微分幾何学 ③数理物理	自己双対方程式のパネル解析
上杉 智子 (博士〔理学〕)	教授	・自然科学部門長 ・男女共同参画室長	①物理ⅠA,ⅠB ②物理Ⅲ ③応用物理Ⅰ,Ⅱ ④防災リテラシー	①素粒子論 ②初期宇宙論	①宇宙論的相転移の解明 ②宇宙磁場,物質の起源
岡田 浩嗣 (博士〔理学〕)	准教授	・学生主事補 ・学生相談室長 ・将来戦略検討部会長	①微分積分ⅠA,ⅠB ②微分積分ⅡA,ⅡB ③微分積分演習	①微分方程式 ②力学系 ③特異摂動論	①反応拡散系における内部遷移層と界面のダイナミクス ②特異摂動法の非局所方程式への応用
木村 健二 (修士〔体育学〕)	准教授	・寮務主事補 ・学級担任(1-3)	保健体育Ⅱ,Ⅳ,Ⅴ	①スポーツバイオメカニクス ②トレーニング科学	素早く移動方向を変更させるためのストラテジーに関する研究
宝利 剛 (博士〔理学〕)	准教授	・教務主事補 ・FD・ICT部会長 ・資料部会長	①物理ⅡA,ⅡB ②物理Ⅲ ③応用物理Ⅰ,Ⅱ ④近代物理学	①相対論	ブラックホール時空の数理
小島 広孝 (博士〔工学〕)	講師	・学級担任(2-4)	①化学ⅠA,ⅠB ②化学ⅡA,ⅡB	①分子科学 ②計算化学 ③有機合成	有機材料の分子シミュレーション
喜友名 朝也 (博士〔数理学〕)	講師	・学生主事補 ・学級担任(2-2)	①微分積分ⅠA,ⅠB ②応用数学ⅠA,ⅠB	①整数論	①保型形式環 ②保型微分方程式
熊谷 大雅 (博士〔理学〕)	講師		①基礎数学A, B ②基礎数学演習A, B ③応用数学ⅠA,ⅠB ④応用数学ⅡA,ⅡB	①非線形偏微分方程式論	粘性解理論を用いた完全非線形偏微分方程式の数学解析
馬越 春樹 (博士〔理学〕)	助教		①基礎数学A, B ②基礎数学演習A, B ③応用数学ⅡA,ⅡB	①反応拡散方程式	反応拡散方程式の数学解析

背戸柳 実 (修士〔理学〕)	嘱託 教授		①微分積分ⅡA,ⅡB ②微分積分演習 ③応用数学ⅠA,ⅠB	①微分代数 ②p進解析	①常微分方程式の Liouville 解 ②冪級数解のp進収束 半径
-------------------	----------	--	-------------------------------------	----------------	---

機械工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
西山 等 (博士〔工学〕)	教授	・ 機械工学科長	①工作実習Ⅰ ②機械設計法Ⅱ ③水力学Ⅰ,Ⅱ ④機械工学特論 ⑤機械工学実験Ⅱ ⑥知能機械工学 ⑦医工学 ⑧計算機援用工学 ⑨制御工学Ⅰ ⑩防災リテラシー	①流体力学 ②生体力学	①エアリフトポンプに関する研究 ②生物模倣工学に関する研究
篠原 正浩 (博士〔工学〕)	教授	・ 学級担任 (5M)	①機械設計法Ⅰ ②材料力学Ⅱ ③機械工学特論 ④機械工学実験Ⅱ ⑤材料力学Ⅲ ⑥設計工学 ⑦卒業研究 ⑧材料力学特論Ⅰ ⑨材料力学特論Ⅱ ⑩特別実験 ⑪エンジニアリング・デザイン演習	①材料力学 ②複合材料工学	①自己融着による炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の接合について ②局所加熱を利用した炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の曲げ加工
谷川 博哉 (博士〔工学〕)	教授	・ 教育研究支援センター長 ・ 技術長 ・ 学生主事補	①入門機械実習 ②材料力学ⅠA,ⅠB ③機械工学実験Ⅰ ④創造設計製作 ⑤設計製図Ⅳ ⑥卒業研究 ⑦流体力学 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	流体力学	①振動重力場における流体の挙動 ②集風体に関する研究
豊田 香 (博士〔工学〕)	教授	・ 学級担任 (3M)	①設計製図Ⅱ ②工作実習Ⅱ ③計測工学演習 ④工業熱力学Ⅰ,Ⅱ ⑤熱力学Ⅰ,Ⅱ (4S) ⑥熱工学 ⑦卒業研究	エネルギー工学	膜沸騰熱伝達の研究

山田 耕一郎 (博士〔工学〕)	教授	・ 学生副主事	①入門機械実習 ②機械工作法Ⅰ,Ⅱ ③工作実習Ⅱ ④創造設計製作 ⑤機械力学Ⅰ,Ⅱ ⑥加工学Ⅲ ⑦機械工学実験Ⅰ,Ⅱ ⑧設計製図Ⅳ ⑨卒業研究	①計算力学 ②材料力学	①ねじり試験 ②異種金属カシメ結合の微小硬さ
氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
小林 洋平 (博士〔工学〕)	准教授		①設計製図Ⅰ ②計測工学 ③マリンエンジニアリング ④機械工学実験Ⅰ ⑤機械工学実験Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦エネルギー工学 ⑧エネルギー環境学 ⑨プラント工学 ⑩特別実験	①熱流体工学 ②エネルギー工学	①液体ナトリウムの濡れ性に関する研究 ②廃炉ロボットの研究
村上 信太郎 (博士〔工学〕)	准教授	・ 学級担任 (4M)	①機械工学実験Ⅰ ②機械工学演習Ⅰ ③設計製図Ⅲ ④情報処理Ⅰ ⑤工学基礎演習 ⑥工業力学Ⅰ・Ⅱ ⑦機械工学特論 ⑧流体工学 ⑨卒業研究 ⑩特別実験	①熱流体工学 ②数値流体力学	マイクロスケール圧縮性流れの流動・伝熱
室巻 孝郎 (博士〔工学〕)	准教授	・ 教務主事補	①機械工学実験Ⅱ ②情報処理Ⅱ ③設計製図Ⅳ ④ものづくり演習 ⑤数値計算演習 ⑥制御工学 ⑦制御工学Ⅱ ⑧卒業研究 ⑨システム設計学 ⑩特別研究基礎 ⑪特別演習 ⑫特別研究	①数値最適化 ②システム工学	①FA機器の開発 ②ロボットの動作に関する研究

電気情報工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
片山 英昭 (博士〔工学〕)	教授	・ 学生主事	①電気情報概論 ②情報理論 ③工学基礎研究 ④過渡現象論 ⑤電気情報工学実験 ⅣA・ⅣB ⑥卒業研究 ⑦情報工学 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	①情報システム工学 ②視覚情報処理	・ 視覚障害者用歩行支援システムに関する研究 ・ 希少画像を用いた不良品検出に関する研究
竹澤 智樹 (博士〔理学〕)	教授	・ 教育改善委員会委員長 ・ 学級担任(3E)	①交流回路Ⅱ ②電気情報工学実験ⅡA・ⅡB ③アナログ回路 ④電気磁気学Ⅱ・Ⅲ ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦電磁気計測 ⑧卒業研究	物性物理学	第一原理電子状態計算による物性評価 ・ 物質設計 ・ 超伝導 (Pd, Fe) ・ 高圧物性 (水素)
内海 淳志 (博士〔工学〕)	教授	・ 電気情報工学科長	①電気基礎 ②電気回路 ③専門AL(1E) ④電子工学Ⅰ・Ⅱ ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦半導体工学 ⑧卒業研究 ⑨特別実験 ⑩電磁気応用工学 ⑪電子デバイス工学 ⑫特別研究基礎 ⑬特別研究	①光電子工学 ②半導体工学	①近接場光応用技術の開発 ②電子デバイス教材の開発
芦澤 恵太 (博士〔理学〕)	教授	・ 進路指導委員会委員長 ・ 寮務副主事	①情報基礎 ②アナログ信号処理 ③プログラミング実習 ④電気情報工学実験ⅡA・ⅡB ⑤通信工学 ⑥制御工学Ⅰ ⑦工学基礎研究 ⑧卒業研究 ⑨画像工学 ⑩特別研究	①画像処理 ②数値調和解析	①画像圧縮アルゴリズムの開発 ②ギブス現象軽減に関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
船木 英岳 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(4E)	①メディアリテラシー ②ネットワーク論 ③電気情報工学実験ⅢA・ⅢB ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥オペレーティングシステムⅠ・Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧ネットワークシステム論 ⑨エンジニアリングデザイン演習 ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	情報システム工学	①複数ARマーカを用いたソフトウェアの開発 ②視線入力を用いたコミュニケーションツールの開発 ③3Dプリンタを用いた福祉支援器具の製作 ④IPSを用いたソフトウェアの開発
丹下 裕 (博士〔工学〕)	准教授	・入試広報部会長	①電気磁気学Ⅰ ②回路実習 ③工学基礎研究 ④伝送工学 ⑤制御工学Ⅱ ⑥電気情報工学実験ⅣA・ⅣB ⑦卒業研究 ⑧応用通信工学 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究	医用生体工学	①癌温熱治療装置の開発 ②障がい者支援に関する研究
井上 泰仁 (博士〔工学〕)	准教授	・専攻科電気電子システム工学コース長	①電気情報概論 ②情報数学 ③ディジタル回路 ④論理回路 ⑤電気情報工学実験ⅢA・ⅢB ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究	情報科学	①膜タンパク質の機能予測 ②プログラミング教育
七森 公碩 (博士〔工学〕)	講師	・学級担任(5E)	①電気情報工学実験ⅠA・ⅠB ②交流回路Ⅰ ③電気機器 ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥エネルギー工学Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	パワーエレクトロニクス	①GaN, SiCを用いた高性能電力変換器の開発 ②半導体並列駆動技術に関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
森 健太郎 (博士〔シミュレーション学〕)	助教		①電気情報工学実験 ⅠA・ⅠB ②C言語 ③プログラミング実 習 ④映像メディア工学 ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別研究基礎	医用画像・ 信号工学	①医用診断支援シス テムの開発 ②AIシステムの開発
中川 重康 (博士〔工学〕)	嘱託 教授		①回路実習 ②電気情報工学実験 ⅡA・ⅡB ③ディジタル信号処 理 ④創造工学 ⑤卒業研究 ⑥パワーエレクトロ ニクス ⑦特別研究	①電力工学 ②太陽エネ ルギー利 用	①デュアル型屋外MPPT評 価システムの開発 ②日射量モデルの評 価に関する研究

電子制御工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
野間 正泰 (博士〔工学〕)	教授	・ 電子制御工学科長	①力学Ⅰ,Ⅱ ②材料力学Ⅰ,Ⅱ ③水力学Ⅰ,Ⅱ ④機械工学実験 ⑤卒業研究 ⑥流体力学特論	①トライボロジー ②可視化情報計測	①テラー渦とキャビティ流れの相互作用 ②移動物体まわりの流れの可視化 ③簡易風洞装置の設計製作と理科教育への適用 ④トライボロジー実験教材の開発
仲川 力 (博士〔工学〕)	教授	・ 学級担任 (5S) ・ 学術情報センター副センター長	①情報処理Ⅲ ②CAD演習ⅠB ③電子制御実験 ④創造設計プロジェクト ⑤CAD演習ⅡC ⑥卒業研究 ⑦特別演習	機械工学	①クローラ走行体の走行性能に関する研究 ②VRを用いたシミュレータの開発と実験
川田 昌克 (博士〔工学〕)	教授	・ 教務主事	①メカトロニクス演習Ⅰ ②制御工学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ ③制御工学Ⅰ,Ⅱ(4E) ④制御工学実験 ⑤システム制御工学	制御工学	①数値最適化による制御系解析/設計と実システムへの応用 ②制御工学教育のコンテンツ開発
伊藤 稔 (博士〔工学〕)	教授	・ 学術情報センター長 ・ 学生主事補	①メカトロニクス演習Ⅱ ②プログラミングⅡ,Ⅲ ③情報学 ④画像処理 ⑤CAD演習ⅡB ⑥電子制御実験 ⑦卒業研究 ⑧知識情報工学 ⑨特別実験	ソフトコンピューティング	①進化計算の工学的応用 ②SLAMに関する研究
清原 修二 (博士〔工学〕)	准教授	・ 高専機構研究推進・産学連携本部員	①電子制御実習 ②電子工学Ⅰ,Ⅱ ③電子回路Ⅲ ④卒業研究 ⑤先端材料工学	①ナノテクノロジー ②超微細加工工学 ③電子・イオンビーム工学	①液滴室温ナノインプリント法による機能性DLCマイクロ・ナノデバイスの開発 ②ナノテクノロジーによる半導体エンジニアの人材育成

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
西 佑介 (博士〔工学〕)	准教授	・ 地域共同テクノ センター副セン ター長 ・ 学級担任(3S)	①電子制御実験 ②電気磁気学Ⅰ,Ⅱ ③電子物理 ④卒業研究 ⑤電子回路特論 ⑥エンジニアリン グデザイン演習 ⑦特別研究	①酸化物エレ クトロニク ス ②電子回路 ③半導体工学	①酸化物を用いた抵 抗変化素子の評価 ②アナログ抵抗変化 特性の理論解析 ③学生実験用回路設 計および実験教材 作製
石川 一平 (博士〔工学〕)	准教授	・ 専攻科MSコース長 ・ 教務主事補	①電気基礎Ⅰ,Ⅱ ②メカトロニクス 演習Ⅱ ③防災リテラシー ④電子回路Ⅰ,Ⅱ ⑤電子制御実験 ⑥論理回路 ⑦卒業研究 ⑧特別研究基礎	①電子物理 ②応用物理 ③材料工学	①プラスチックを用 いた放射線計測に 関する研究 ②微細発光デバイ スの作製
高木 太郎 (博士〔工学〕)	准教授	・ 寮務主事補 ・ 進路指導委員会 副委員長(就職)	①CAD演習ⅡA ②システム制御Ⅰ, Ⅱ ③制御工学実験 ④卒業研究 ⑤制御工学特論 ⑥特別実験 ⑦特別演習 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	制御工学	①概強正実性に基 づく適応制御系のモ デルフリー構成法 ②パワーアシストス ーツに関する研究
若林 勇太 (博士〔工学〕)	講師	・ 学級担任(4S)	① 振動工学Ⅰ,Ⅱ ② ロボット工学Ⅱ ③ ロボティクス Ⅰ,Ⅱ ④ 機械工学実験 ⑤ 創造設計プロジ ェクト ⑥ 卒業研究 ⑦ 特別研究基礎 ⑧ 特別研究	ロボット工学	①人とロボットの協 働作業に関する研 究 ②機械メカニズムに よる省アクチュエ ータ・省センサ化

建設システム工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
四蔵 茂雄 (博士〔工学〕)	教授		①環境衛生学Ⅰ,Ⅱ ②環境工学Ⅰ ③環境工学Ⅱ ④建設システム工学実験ⅡB ⑤応用測量学Ⅰ,Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦地球環境政策学 ⑧特別演習	①環境工学 ②環境政策学	①途上国のエネルギー環境問題 ②循環型社会形成の政策論
玉田 和也 (博士〔工学〕)	教授	・ 地域共同テクノ センター長 ・ 学級担任(4C)	①構造力学Ⅰ ②構造力学Ⅱ ③構造力学Ⅲ ④応用構造力学 ⑤専門AL ⑥卒業研究 ⑦構造力学特論 ⑧メンテナンス工学 ⑨特別研究 ⑩特別実験	①メンテナンス工学 ②橋梁工学 ③構造工学	①地方自治体が管理する橋梁の維持管理 ②橋梁の健全度評価 ③アセットマネジメント ④応急復旧橋の開発 ⑤構造力学教育
尾上 亮介 (博士〔芸術文化学〕)	教授	・ 建設システム工 学科長 ・ 学級担任(5C)	①建設製図Ⅰ ②建設製図Ⅱ ③都市計画 ④建設製図制作 ⑤建築計画Ⅱ ⑥建設設計製図Ⅰ ⑦建築デザイン ⑧卒業研究 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究 ⑪まちづくり学 ⑫設計製図	①建築設計 ②都市計画 ③まちづくり	①空き屋の活用に関する研究 ②民家改修における意匠・形態に関する研究 ③歴史的景観を形成する建築意匠に関する研究
加登 文学 (博士〔工学〕)	教授	・ 専攻科長	①防災リテラシー ②建設システム工学概論Ⅱ ③地盤工学ⅠA ④地盤工学ⅠB ⑤建設システム工学実験ⅠA ⑥建設システム工学実験ⅠB ⑦地盤工学Ⅱ ⑧土木計画 ⑨地盤防災工学 ⑩卒業研究 ⑪地盤工学特論	①地盤工学 ②土質力学 ③防災工学	①地盤材料の力学特性に関する研究 ②強震動予測に関する研究 ③地域防災に関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
徳永 泰伸 (博士〔工学〕)	教授	・専攻科建設工学コース長	①建設システム工学概論Ⅰ ②建設製図制作 ③建築環境Ⅰ,Ⅱ ④建築設備Ⅰ,Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥特別実験 ⑦建築環境工学特論 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	①建築環境学	①室内音環境に関する研究 ②視覚と聴感の相互作用に関する研究 ③室内視環境に関する研究
渡部 昌弘 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(3C) ・教務主事補	①建築一般構造 ②建設製図制作 ③建築構造Ⅰ,Ⅱ ④数値解析Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥エンジニアリングデザイン演習 ⑦特別実験 ⑧建築耐震工学 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究	①木質構造学 ②建築構法 ③建築構造	①歴史的木質建築物の構造特性・耐震性能の解明および保存・改修に関する研究 ②木質系構造を有する歴史的文化的資産の復元研究 ③近現代の組積造建築物の構工法・構造特性の解明 ④近代の歴史的遺構の実態調査および保存・再生の提案
毛利 聡 (博士〔工学〕)	准教授	・寮務主事補	①測量実習 ②建設材料学 ③建設システム工学実験ⅠA,ⅠB ④コンクリート構造学Ⅰ,Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥建設材料特論 ⑦特別演習 ⑧特別研究	①建築材料施工 ②コンクリート工学	①建築部材の補修・改修・維持管理技術の高度化 ②歴史的建造物を含む既存構造物の耐久性評価 ③公共建築物の維持管理 ④施工技術教育
今村 友里子 (博士〔工学〕)	講師		①建設システム工学概論 ②建設製図Ⅱ ③建築計画Ⅰ ④建築史 ⑤建築論 ⑥建設設計製図Ⅰ ⑦建設設計製図Ⅱ ⑧空間デザイン論 ⑨卒業研究 ⑩特別研究	①建築論 ②建築史	①近現代建築およびランドスケープに関する制作論 ②近現代建築保存活用

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
岩木真穂 (修士〔農学〕)	助教		①水理学ⅠA,ⅠB ②水理学ⅡA,ⅡB ③建設システム工学実 験ⅡA ④河川工学 ⑤海岸工学 ⑥卒業研究	①地球物理学	①周波数解析を用い た地球環境動態

教 職 員 数

令和5年3月1日現在

校 長		1					
教 員	区 分	教授	准教授	講師	助教	特任等	計
	人 文 科 学 部 門	3	2	3	2	0	10
	自 然 科 学 部 門	3	3	3	1	1	11
	機 械 工 学 科	5	3	0	0	0	8
	電 気 情 報 工 学 科	4	3	1	1	1	10
	電 子 制 御 工 学 科	4	4	1	0	0	9
	建設システム工学科	5	2	2	1	0	10
	計	24	17	10	5	2	58
事 務 職 員	事 務 部 長	1					
	総 務 課	14					
	学生課(看護師含む)	12					
	再 雇 用 事 務 職 員	1					
	計	28					
技 術 職 員	教育研究支援センター	11					
	施 設 系	2					
	再 雇 用 技 術 職 員	1					
	計	14					
非常勤教職員	事 務 補 佐 員 等	34					
	特 命 教 授	1					
	特 命 准 教 授	1					
	特 命 助 教	2					
	非 常 勤 講 師	24					
	学 校 医 等	5					
	計	67					
合 計		168					

注1) 「特任等」…「特任教授」「嘱託教授」

注2) 「事務補佐員等」…「事務補佐員」「技術補佐員」「技能補佐員」「課外活動指導員」「学生寮指導員」「非常勤看護師」

注3) 「学校医等」…「学校医」「学校歯科医」「産業医」「カウンセラー」

学校行事日程

月	日	曜日	行 事 名
4	2	土	開寮
	3	日	入寮式
	4	月	入学式・後援会総会
	5	火	始業式、オリエンテーション、身体計測・心電図・胸部レントゲン
	6	水	授業開始
	11	月	新入生合宿研修（～12日）
	12	火	ネット被害防止講演会（本科1年生）、学位申請説明会（専攻科1年生）
	13	水	交通安全講習会（5年生）
	15	金	2年生臨時閉寮（～22日）
	18	月	遠隔授業（2年）（～22日） 交通安全講習会（本科2・3・4年生・専攻科）
	26	火	開校記念日
	29	金	授業あり 昭和の日
5	6	金	4/29の振替休日
	14	土	福井高専交歓試合
	19	木	専攻科推薦特別選抜試験
	30	月	特別授業
6	1	水	本科前期中間試験（～7日）
	2	木	学位申請説明会（専攻科2年生）
	19	日	専攻科学力検査選抜試験（前期A・B）
	26	日	近畿地区高専弓道大会
7	2	土	近畿地区高専体育大会（テニス）（～3日）
	9	土	近畿地区高専体育大会（サッカー）（～11日）
	13	水	薬物乱用防止講演会
	18	月	授業あり 海の日
	27	水	特別授業
	28	木	本科・専攻科前期期末試験（～8月3日）
8	4	木	夏季休業（～9月11日）、閉寮（～5日）
	6	土	オープンキャンパス（～7日）
	12	金	一斉休業
	25	木	編入学試験

月	日	曜日	行 事 名
9	10	土	開寮（～11日）
	12	月	特別授業、前期到達度確認期間（～14日）、前期授業アンケート（～26日）
	15	木	後期授業開始
10	3	月	防災訓練
	4	火	4年生研修旅行（～7日）
	11	火	球技大会
	15	土	プロコン全国大会（～16日）
	16	日	専攻科学力検査選抜試験（後期）・社会人特別選抜
	18	火	特別研究基礎中間発表会（専攻科1年生）
	19	水	午前：英語デー 午後：特別授業
	21	金	後援会支部総会（兵庫・福井・滋賀）
	23	日	ロボコン近畿地区大会
	24	月	後援会支部総会（京都・舞鶴）
	26	水	後援会支部総会（丹後但馬・中丹・南丹）
	27	木	高専祭準備（～28日）
	29	土	高専祭（～30日）
	31	月	高専祭後片付け
11	1	火	月曜授業
	6	日	舞鶴高専杯プログラミングコンテスト
	16	水	特別授業
	17	木	本科後期中間試験（～24日）
	26	土	合同学校説明会
	27	日	ロボコン全国大会
12	10	土	デザコン全国大会（～11日）
	16	金	午前：金曜午前授業 午後：キャリアセミナー準備、CBT関係
	17	土	キャリアセミナー（～18日）
	20	火	特別研究発表会（専攻科2年生）
	23	金	午前：金曜午後授業 午後：特別選抜入試準備、CBT関係
	24	土	特別選抜入試〔地域創生型〕 冬季休業（～1月6日） 閉寮
	27	土	特別選抜入試〔一般選抜型〕
1	9	月	開寮

月	日	曜日	行 事 名
1	10	火	特別授業
	24	火	特別研究基礎最終発表会（専攻科1年生）
	25	水	気象悪化に伴う臨時休校
2	1	水	特別授業（～2日）
	3	金	本科1～5年生・専攻科1年生）後期期末試験（～9日）
	10	金	特別授業
	12	日	学力検査選抜 帰国生徒特別選抜
	13	月	臨時休業
	14	火	試験返却等到達度確認期間（～16日），後期授業アンケート（～3月3日）
	16	木	閉寮（～19日）
	26	日	学力検査選抜（追試験）
3	5	日	入学説明会
	6	月	再試験期間（～16日）
	11	土	進路に関する三者懇談会（～12日）
	17	金	卒業証書・修了証書授与式

